

奈良教育大学大学院教育学研究科

2014 年度 修士論文

芸術教育における台湾と日本の比較研究

－ 小学校の音楽学習を中心に －

奈良教育大学大学院教育学研究科

教科教育専攻 音楽教育専修

133503

林 呈馨

凡例

1. 年号は原則的に西暦を用いる。必要に応じて日本の元号を示すことがある。
2. 表は章ごとに通し番号を用いる。例：第2章の第1番目の表を「表2-1」のように示す。
3. 調を示す際に、原則として、日本式表記で示す。例：ハ長調。
4. 拍子記号を示す際に、Y分のX拍子はX/Yで示す。例：「4分の2拍子」は「2/4」。
5. 音、階名と音域を示す際に、原則として、国際式表記で示す。例：「中央ド」は「C4」。

目次

序章	1
0-1 研究背景及び先行研究	1
0-2 問題提起	2
0-3 研究目的と方法	3
第1章 台湾と日本の小学校における音楽教育規程について	4
1-1 台湾の「九年一貫課程綱要-芸術と人文」について	5
1-1-1 「芸術と人文」課程綱要の概観	5
1-2 「芸術と人文」における「音楽」の学習内容	9
1-3 日本の音楽科の「学習指導要領」の概観	13
1-3-1 目標	14
1-3-2 内容	14
1-4 まとめ	19
第2章 台湾と日本の小学校における音楽教科書についての分析と考察	20
2-1 台湾の教科書内容の分析と考察	20
2-1-1 翰林教科書	20
2-1-1-1 考察	24
2-1-2 康軒教科書	25
2-1-2-1 考察	28
2-1-3 「翰林」と「康軒」にみる台湾の教科書	29
2-2 日本の教科書内容の分析と考察	31
2-2-1 教育芸術社教科書	31
2-2-1-1 考察	35
2-2-2 教育出版教科書	36
2-2-2-1 考察	40
2-2-3 「教育芸術社」と「教育出版」にみる日本の教科書	41
2-3 まとめ	43
第3章 台湾と日本の小学校における音楽教育の共通点と相違点	44
3-1 「芸術と人文課程綱要」と「学習指導要領」の比較	44
3-1-1 課程目標	44

3-1-2	学習段階	45
3-1-3	授業時数	45
3-1-4	学習内容	45
3-2	台湾と日本の教科書内容の比較	46
3-2-1	歌唱	46
3-2-2	器楽(器楽演奏)	47
3-2-3	音楽づくり(創作)	48
3-2-4	鑑賞	48
3-2-5	共通事項(音楽知識・音感・読譜)	49
3-3	まとめ	50
終章		52
4-1	台湾の「芸術と人文」の音楽学習における問題点	52
4-2	問題点への改善策の提案	54
引用・参考文献		56
謝辞		59
付録		1
付録 1	「共通事項」における音楽に関する記号と用語	1
付録 2	翰林教科書において音楽の学習内容の分析図表	2
付録 3	康軒教科書において音楽の学習内容の分析図表	15
付録 4	教育芸術社教科書において音楽の学習内容の分析図表	28
付録 5	教育出版教科書において音楽の学習内容の分析図表	35

序章

0-1 研究背景及び先行研究

この十数年、各国は教育改革の要望を持ちながら、実生活に適応させ、児童生徒にふさわしい多元な教育を考案してきた。学校教育の本質を探り、教科の内容を見直し、教科の再編や統合に取り組んでいる。

そのような影響を受け、「国の発展と成長を遂げる」や「教育の改善を求める」というニーズを背景として、台湾で、教育改革が進んでいた。教育部（日本の文部科学省に相当）が2000年9月に「国民中小学九年一貫課程暫行綱要」（日本の学習指導要領に相当）を告示した。課程の実施と共に、「暫行綱要」が修訂され、2008年に「国民中小学九年一貫課程綱要」（以下「綱要」とする）が完成した。綱要により、「国民中小学九年一貫課程」（以下「九年一貫課程」とする）では従来の11の教科を廃止し、「国語」、「数学」、「社会」、「自然と生活科学技術」、「芸術と人文」、「健康と体育」、「総合活動」の7つの学習領域(科目)を設定した。2001年から九年一貫課程が実施され、2003年の完全実施を経て現在に至る。現在、「芸術と人文」の学習や指導内容は従来の単一音楽科と異なっている。従来の単一音楽科では、科目名の通り音楽を中心とし、歌唱と演奏、また音楽知識を指導してきた。「芸術と人文」では一つの単元のテーマに基づき、芸術ジャンルの枠を越え、「音楽」を「視覚芸術」と「パフォーマンス」と一緒に展開されている。なお、小学校第3学年から第6学年は「芸術と人文」を学習するが、第1と第2学年では「芸術と人文」は「生活課程」という科目に含まれている。すなわち、第1と第2学年の音楽学習活動が「生活課程」の中で行われている。

一方、日本における教科間の連携については、明治後半期から昭和前期にかけて、東京高等師範学校附属小学校において低学年の遠足による統合学習や奈良女子高等師範附属小学校の木下竹次(1872-1946)による合科学習、また、戦後になると、社会科を中心とするコア・カリキュラムなどいくつかの実践例が挙げられる。平成時期に入ってから、「生活科」が新設された。2000(平成13)年に、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるというねらいを基に各教科を連携させる「総合的な学習の時間」が実施された。2010(平成23)年文部科学省により「新学習指導要領」が実施され始めてから、週3時間の「総合的な学習の時間」に、音楽科や図画工作科に関する学習活動が含まれている。

音楽科を含め、各芸術教科の連携及び統合は進んでいる。また、芸術教科の統合・連携についてのシンポジウムが開催され、音楽科と他教科のかかわりに関する

研究論文や学会誌が数多く見られる。小島律子は、音楽の表現について「楽曲を構成している音だけではなく、楽曲を生んだ人間の営み、そして営みを支える環境がかかわってくる。人間の営みや環境は、さまざまな事項が関連付けづけられた総合的なものである。そこから、音楽科も教科の枠をゆるめ、他教科とかかわるところを問題とする必然性が生じてきたのである」と指摘している(小島 2002: 12)。また、井上朋子は、「日常生活には総合芸術があふれており、それらを受け止め、楽しんだり作り出したりできる子どもの育成は必要である。そのために、聴覚と視覚などの諸感覚を同時に働かせ、感受性や表現力及び想像力を育成することは重要である」と述べている(井上 2011:54)。日本では、「総合的な学習の時間」において、音楽科の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動を行うことができるようになった。それに対し、台湾の新たな「九年一貫課程」の中では、「教科」から「学習領域」の「音楽」と「視覚芸術」と「パフォーマンス」の3つの芸術教科が統合されたことで、児童生徒の感受性や表現力が豊かになることが期待されている。

0-2 問題提起

しかし、2003年に「九年一貫課程」が実施されて以来、台湾では「芸術と人文」の授業時数の配当や教科書の編集や学習活動の内容などについての論点が提出された。曹(2005)は、「各芸術分野はそれぞれ独自性と系統性をもっているので、強引に統合するとそれぞれの個性が失われ、子どもの芸術学習の深さも希薄になりがちである(p. 415)」と述べている。また、徐(2008)は、「芸術教育の課程内容の編纂はほとんどの教科を相互に横断すること、すなわち横のつながりを重んじている。課程中の教科には、学習内容の縦のつながりを軽視する傾向がひどくなっている(p. 80)(原文中国語、訳は筆者)」と指摘している。さらに、頼美鈴(2012)は、「芸術と人文」教科書の編成はテーマ方式で3種類の芸術の内容を統合する。このような編成方法では、音楽の教材内容とテーマが合わない。また、音楽の概念を指導するのが困難であるなどの問題が存在していると指摘している¹。そこで、単一教科の音楽科と比べて、統合された「芸術と人文」における音楽学習は、知識や技能が蓄積されていくようにできておらず、また、音楽の学習内容の量と深さが不十分であり、系統性が欠けているのではないかと考えられる。

¹ 奥 忍, 頼 美鈴, 宮本 賢二郎, 井上 朋子(2012)「パネルディスカッション 芸術関連諸教科の統合的アプローチの検討: ドイツと台湾の例を参照しながら(第43回大会報告)」『音楽教育学 42(2) 日本音楽教育学会』, pp. 52-56

0-3 研究目的と方法

本論は、統合された台湾の「芸術と人文」における音楽学習は、単一教科の日本の音楽科と比べ、どのような問題点を抱えているのかを明らかにする。また、問題点を検討し、日本の音楽科の学習内容を参考にした上で問題点への改善策を提案する。

研究の方法としては、まず台湾の「芸術と人文課程綱要」と日本の音楽科の「学習指導要領」それぞれの課程目標、学習段階、授業時数と学習内容を述べて分析する。次に、台湾の教育現場で使用されている「芸術と人文」教科書における音楽学習に関する内容と日本の音楽科の教科書の内容を学習段階ごとにそれぞれの項目を分析・考察する。また、台湾と日本の音楽学習についての学習目標、学習内容及び教科内容の比較を通して、共通点と相違点を見出す。最後に、日本の教科書の内容を踏まえ、台湾の「芸術と人文」の教科書に存在している独自の問題点を明らかにする。

第1章 台湾と日本の小学校における音楽教育規程について

1895年から1945年にかけて、台湾は植民地として日本の学校教育政策の影響を受けた。当時、台湾の学校音楽教育は日本と同様、「唱歌」という名称であったが、1941年に「唱歌」から「芸能科音楽」に変わった（劉 2005：37-38）。第二次世界大戦後（以降「戦後」とする）、台湾は国民党政府の管轄下に置かれ、学校教育制度も徐々に当時の中国の教育規定に従うこととなった。

ここでは戦後の台湾の音楽科の名称の変遷について簡単にまとめる。1948年に「国民学校課程標準」が告示された。中・高学年では「音楽」の名称をそのまま使用したが、低学年では音楽と体育を統合し「唱歌遊戯」（唱遊と略す）という科目になった（徐 2008：35）。1968年に義務教育期間は6年から9年になり、音楽教科書が教育部（日本の文部科学省に相当する）によって統一で編集され、出版されていた。1993年に、公表された「国民小学課程標準」により、低学年の「唱遊」が廃止され、低・中・高学年とも音楽科は1つの科目として教えられた（劉 1995：33）。

1998年の教育改革により、2000年に「九年一貫課程暫行綱要」が公表された。翌年、小学校第1学年から九年一貫課程が実施され、小・中学校の9つの学年が4段階の学習段階に分けられている。序章ですでに触れたように、九年一貫課程では、従来の11の教科が「語文」、「数学」、「社会」、「自然と生活科学技術」、「芸術と人文」、「健康と体育」、「総合活動」の7つの学習領域に統合された。従来の音楽教育は美勞教育（日本の「図画工作」に相当）とともに「芸術と人文」の領域に含まれることになった。ただし、小学校第1・2学年では、「社会」、「自然と生活科学技術」、「芸術と人文」の3つの領域が「生活課程」という1つの領域にまとめられている。その後、正式な綱要が2003年に公表された。

2003年から2011年までの間、「綱要」の各領域において数回の修訂が行われた。「芸術と人文」の場合は2008年に修訂されたのが最後である。その基本理念と課程目標は2003年の綱要と同様であるが、実施要点の一部のみ修訂された。「芸術と人文」は現在も2008年の「綱要」に準じて教えられている。

一方、日本では、明治時代に「学制」が制定され、小学校の音楽教育は唱歌を中心とし教えられ、1907年に小学校令（文部省令第6号）の改正により、唱歌科は必修科目として位置付けられた。また、前述したように、1941年の国民学校令施行規則（文部省令第4号）が公布されることにより、唱歌科を「芸能科音楽」と改称し、それまでの唱歌授業に加えて鑑賞も授業内容に取り入れられている（劉 2005：42-44）。

戦後、アメリカ教育使節団が日本の教育についての報告書を提出した直後、1946

年に日本政府は「新教育指針」を発表した。「新教育指針」に応じて学校教育の改革が進み、1947年に「学習指導要領(試案)」が公表された。また、試案に基づき、「学習指導要領(試案) 音楽科編」が発行された(供田 1996: 407-413)。1998年まで7回の改訂を経て、2008年に「新しい学習指導要領」が公表され、2011年から小学校で実施されている。

本章では、台湾と日本における小学校の音楽教育に関する規程の内容について述べる。ただし、台湾における小学校の音楽の学習内容が「芸術と人文」に含まれているため、まず「芸術と人文」課程綱要を全体的に述べ、さらに「芸術と人文」課程綱要に関わっている音楽学習の部分を抽出して詳述する。

1-1 台湾の「九年一貫課程綱要-芸術と人文」について

「芸術と人文」の学習領域には、音楽、視覚芸術(図工)、舞台芸術(パフォーマンス)の3つの学習活動が含まれている。本節では、小学校における「芸術と人文」課程綱要及び音楽学習活動について述べる。

1-1-1 「芸術と人文」課程綱要の概観

(1) 基本理念及び目的

台湾の教育部によって定められている綱要によると、「芸術と人文」は芸術的教養を通して、人文的素養を培う芸術の学習課程である。その目的をまとめると以下の3点になる。一、児童の芸術的知識と技能を育成し、積極的な文芸活動への参加を促進すること、二、児童の芸術の鑑賞能力を向上させ、生活における情趣を感じさせること、三、芸術に関する潜在能力を啓発させ、健全な人格を発展させることである。

(2) 課程目標

各学年の課程目標については、「探求と表現」、「審美と理解」、「実践と応用」という3つの観点で設定されている。それぞれの内容を【表 1-1】に示す。

【表 1-1】「探求と表現」・「審美と理解」・「実践と応用」において目標の内容

探求と表現	自己を探求し、環境と個人の関係性を理解し、様々な素材と形式を利用し、芸術的表現することに携わる。また、それによって、生活と心を豊かにする。
審美と理解	審美・鑑賞する活動を通して、各芸術の価値・様式・及び文脈を把握し、多元文化の芸術活動に熱心に参加する。

実践と応用	芸術と生活の関連性を理解し、芸術活動を通して環境に対する認識を深める。芸術に関する職業を認識し、芸術的文化財と作品を大切にし、芸術創作を理解して尊重する。また、そのようなことを生活の中で実践する。
-------	--

(3) 学習段階と授業時数

a. 学習段階：

小学校における「芸術と人文」の学習段階は低学年（「生活」第1・2学年）、中学年（第3・4学年）と高学年（第5・6学年）の3つの段階に分けられている。

b. 授業時数：

学習時間総数は領域学習時数と「弾性学習時数」²からなる。中・高学年の一週間の学習時間総数は28－33時間である。その中で予備としての「弾性学習時数」は3-6時間が定められている。「芸術と人文」の授業時数は、領域学習時数の25－27時間に対して10%－15%が配当される。学年によって多少異なるが、中学年と高学年の「芸術と人文」の授業時数は約週に2-4時間である。週に2-4時間を音楽、視覚芸術、舞台芸術の学習活動に分ければ、音楽の授業時間はおよそ週に1-2時間となる。

低学年の場合は一週間の学習時間総数は22-24時間で、「弾性学習時数」の2-4時間は言語領域の学習を行うことが定められている。「生活課程」の授業時数は領域学習時数の20時間に対して30%－45%が配当され、週に6-9時数の授業が行われる。週に6-9時間を社会、自然と生活科学技術、音楽、視覚芸術、舞台芸術の学習活動に分ければ、音楽の授業時間は週に約1時間となる。ただし、時間の配分は学校によって異なる。

【表 1-2】台湾の小学校における「芸術と人文」の学習段階及び音楽授業時数

学習段階	第1段階	第2段階	第3段階
学年	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
学習領域	生活課程 (社会・芸術と人文・ 自然と生活科学技術)	芸術と人文	芸術と人文
音楽授業時数(週)	1時間	1-2時間	1-2時間

² 「弾性学習時数」とは一学期のうち、各領域の正規の学習時数以外に予備としてどの領域の授業でも追加して行うことができる時間のことを指す。基本的に低学年は1週間に2から4時間、中・高学年は1週間に3から6時間の予備時間がある。

(4)各段階の能力指標

前述した課程目標の観点に基づいて、各段階の能力指標にいくつかの細目が規定されている。【表 1-3】は綱要の掲載内容を意識したものである。以下にそれぞれの細目を、音楽学習の観点を用いて段階ごとに簡潔にまとめる。

a. 探求と表現:第 1 段階では、様々な媒体を利用し、鑑賞活動と演奏活動を通して自分の思いや感じたことを伝える。また、鑑賞活動と演奏活動を通して、想像力を育みながら楽しさを感じ取る。第 2 段階では、様々な媒体・技法の違いを理解し、想像力と創作力を生かし、他人と協力して表現する。第 3 段階では新たな媒体・技法・創作方法を探求し、創造力を働かせ、他人と協力して様々な鑑賞と演奏の方法を通して、自分の感情を表現する。

b. 審美と理解:第 1 段階では、日常生活にある様々な音声と旋律を聴き、その美しさを感じ、感じたことを演奏活動で表す。また、異なる地域の作品に触れ、鑑賞することを通して、様々な表現方法を認識する。第 2 段階では、故郷と異なる地域の芸術音楽を鑑賞することを通して、作品の特徴と背景を理解する。また、鑑賞することを通して得た感想や見解を述べる。第 3 段階では、音楽的専門用語を用いて作品の特徴と背景を説明する。また、分析やディスカッションを通して、自らが鑑賞した感想と見解を他人と話し合う。

c. 実践と応用:第 1 段階では、作品を通して生活中的楽しさを増やし、個人の教養を高める。また、芸術活動に参加し、鑑賞する際のマナーを学ぶ。第 2 段階では、生活の周りにある芸術作品を認識して利用し、心を豊かにする。また、マナーを守り、作者・作品を尊重する態度を持ち、我が国の先祖たちの芸術作品・成果を鑑賞する。第 3 段階では、様々な方法で異なる芸術と文化の情報を収集する習慣を身に付ける。また、関心をもつテーマについての芸術作品を収集する。また、正しい見識と態度で芸術作品を鑑賞する。さらに、習得した知識を生かし、自分の心を豊かにする。

【表 1-3】「芸術と人文」における各段階の能力指標と細目

	第 1 段階 (第 1・2 学年)	第 2 段階 (第 3・4 学年)	第 3 段階 (第 5・6 学年)
	1-1-1 様々な素材を試み、豊かな想像力を喚起し、視覚的・聴覚的・演劇的な芸術活動に従事し、創作の喜びと達成感を体	1-2-1 様々な素材、技法、形式を探索し、異なる創作の要素の効果と差異を理解し、創作活動を行う。 1-2-2 視覚的、聴覚的、	1-3-1 様々な創作方法を探索し、創作の想像力を表現する。 1-3-2 創作の主題と内容を考え、適切な素材と技法を選び、計画・感情・思想

探 求 と 表 現	<p>験する。</p> <p>1-1-2 視覚的、聴覚的、<u>演出的</u>な芸術の創作形式を用い、自己の感受と考えを表す。</p> <p>1-1-3 素材と芸術形式を結合させ、創作活動を行う。</p> <p>1-1-4 正しく、安全に、効果的に工具を用い、創作と展示、演劇活動に従事する。</p>	<p><u>演出的な創作形式</u>で、豊かな想像力と創作力を表すことを試みる。</p> <p>1-2-3 創作活動に参加し、獲得した知識、技法の特性、及び<u>感じたこと</u>を自分の記号で記録する。</p> <p>1-2-4 視覚的、聴覚的、<u>演出的な創作の要素</u>を運用して、展示・演劇活動に従事し、個人の感受と考えを表す。</p> <p>1-2-5 同級生と共有、企画、<u>協力し合い</u>、創作活動に従事することを試みる。</p>	<p>のある創作を完成する。</p> <p>1-3-3 創作的技法を用いて創作の方法で、個人の考えと感情を表すことを試みる。</p> <p>1-3-4 グループ創作の方法で、他人と協力して芸術作品を完成する。</p> <p>1-3-5 テクノロジーを用いて、新たな創作経験と方向を開発する。</p>
審 美 と 理 解	<p>2-1-5 様々な自然物や人工物、及び芸術作品に触れ、初歩的な審美の経験を築き上げる。</p> <p>2-1-6 様々な色、図、像、<u>音声、旋律、姿勢、表情、動作の美</u>を体験し、自己の感受を表す。</p> <p>2-1-7 地域の芸術活動に参加し、自分が生活している周囲の芸術と文化を認識し、芸術と生活の関係を体得する。</p> <p>2-1-8 身近な創作、異なる民族の作品を鑑賞し、多文化の特質を感じ取り、創作者の表現様式</p>	<p>2-2-6 自然物と人工物の特質と芸術作品の美を鑑賞し、区別する。</p> <p>2-2-7 同級生の視覚的、<u>聴覚的、演出的な</u>芸術作品を鑑賞し、個人の感受と他人の創作への見解を述べられるようにする。</p> <p>2-2-8 地域の芸術活動に参加することによって、自分の地域や故郷の芸術文化を理解する。</p> <p>2-2-9 身近な郷土の文物や伝統芸術、日常生活と関わる芸術作品を収集し、その特色と背景を解釈すること</p>	<p>2-3-6 分析、記述、及びディスカッションを通して、自然物、人工物、及び芸術作品の特徴と要素を識別する。</p> <p>2-3-7 環境と生活の関係を認識し、環境が芸術表現に及ぼす影響を考える。</p> <p>2-3-8 適切な視覚的、<u>聴覚的、演出的な</u>専門用語を用いて、自分と他人の作品の特徴と価値を説明する。</p> <p>2-3-9 ディスカッション、分析、判断などの方法を通して芸術作品への審美経験と見解を表現する。</p>

	を尊重する。	を試みる。	2-3-10 芸術活動に参加し、異なる文化の特色と背景を記録し比較する。
実践と応用	3-1-9 芸術創作を通して、自己と他者、自己と自然、及び環境との相互関連を感得する。 3-1-10 芸術活動や展示・演劇を鑑賞する際の望ましいマナーと態度を養う。 3-1-11 創作形式や作品を運用して、生活の面白さを増し、自己あるいは自己に関する生活空間を美化する。	3-2-10 地域の生活に応用されている芸術作品を認識し、自分の好きな方法で生活に実行する。 3-2-11 芸術の創作活動と芸術作品を運用して、生活空間と心を美化する。 3-2-12 鑑賞とディシカッションを通して、我が国の芸術を認識し、先祖たちの芸術的成果を尊重する。 3-2-13 望ましいマナーと態度で芸術を鑑賞する。	3-3-11 正しい観念と態度で様々な芸術作品を鑑賞する。 3-3-12 テクノロジーと様々な方法を運用して、異なる芸術と文化の情報を収集し分類する習慣を養う。 3-3-13 学んだ芸術の知識を運用して、生活空間を美化することを自分で設計・企画する。 3-3-14 主題を選んで、その主題に関する芸術作品を収集する。例えば、美術、商業芸術、生活芸術、民俗芸術、伝統芸術などを日常生活に進んで取り入れる。

表は曹(2004)を参考に作成。

(表における 1-2-3 の数字は、1 が課程目標、2 が学習段階、3 が項目を表示している。____ は音楽授業に関連する内容である)

1-2 「芸術と人文」における「音楽」の学習内容

「芸術と人文」領域における音楽の学習内容は、前述の「探求と表現」、「審美と理解」、「実践と応用」の3つの課程目標、及び各段階の能力指標に従って定められる。また学習内容は、「歌唱」、「器楽演奏」、「創作」、「鑑賞」、「音楽知識」、「音感」、「読譜」の7つの基本学習内容項目に分けられ、「表現の探求」、「基本概念」、「芸術と歴史・文化」、「芸術と生活」という4つのカテゴリーに属している。本節では概要の付録に書かれた学習内容について項目ごとに【表 1-4】から【表 1-10】で示す。

第5・6学年では、前述の図表で示した7つの学習内容のほか、「総合的な学習」の学習内容が含まれている。それは、「仲間同士で音楽会を計画・練習し、実行すること。それを通して、協力し合った学習成果を示す。」という学習内容である。

【表 1-4】各学年の「歌唱」の学習内容

学年	学習内容
1・2	簡易な子どもの歌とわらべ歌の学習を通して生活の楽しみを増やすこと。
3・4	(1) 異なる歌唱形態をもって適切な音域で様々な歌曲を歌うこと。例：斉唱・オスティナート技法による歌唱・「異曲同唱」・輪唱。 (2) 歌の呼吸法、頭声の共鳴と歌詞の発音技法を表現し、また、歌曲の旋律とリズムを正確的に把握すること。 (3) 合唱と合奏をする際、他人と音色や音量を合わせ、指揮者の指示に従うこと。
5・6	(1) 合唱または合奏をよく練習し、音色や音量を合わせ、指揮者の指示に従うこと。 (2) 歌唱のテクニックを用いること。例えば：呼吸法、発声法、表情。 (3) 斉唱、輪唱または二部合唱などの合唱形態を用いて、異なる文化と様式の歌曲を練習すること。

【表 1-5】各学年の「器楽演奏」の学習内容

学年	学習内容
1・2	歌う際にリズム楽器または身体楽器を用いてリズム伴奏をすること。
3・4	(1) 一人またはグループで旋律楽器と打楽器を演奏すること。 例：ソプラノリコーダー斉奏、リコーダーと打楽器の合奏。 (2) 歌と楽器のアンサンブルの際、他人と音色や音量を合わせ、指揮者の指示に従うこと。
5・6	模倣または初見の方法で、異なる文化と様式の歌曲を演奏すること。

【表 1-6】各学年の「創作」の学習内容

学年	学習内容
1・2	(1) 即興とオスティナートのリズムの創作を行うこと。例：1小節に4分音符と8分音符を含むリズムを創作し、音楽作りの楽しさを体験すること。 (2) 様々な音の素材(例：人の声、楽器、環境の中の様々な音)を探求し、それらを用いて音づくりをすること。また、自ら考案した記号で音声を記録すること。
	(1) 習得した音楽知識と技能を活用し、即興及び楽曲の創作（例：4小節の

3・4	旋律、問いと答え、反復するフレーズ) をすること。 (2) 様々な音の素材(例：異なる人の声、楽器、環境の中の様々な音)を 探求し、それらを用いて音づくりをすること。また、自ら考案した 記号で音声を記録すること。
5・6	習得した音楽の要素を用い、旋律を創作すること。例：問いと答え、 動機の展開、旋律の変奏。

【表 1-7】各学年の「鑑賞」の学習内容

学年	学習内容
1・2	<p>(1) 各作品を通して芸術と歴史・文化の関係を理解すること。例：民謡、「創作歌謡」などの異なる民族の歌曲を鑑賞し、紹介すること、児童劇・児童舞踊の基本型と地元の文化の関係を紹介すること、地域出身の芸術家について学び彼らの作品を鑑賞すること、生活環境にある様々な芸術関係のイベントを発見すること。</p> <p>(2) 芸術と個人または生活を結ぶこと。例：a. 風の音や物売りの掛け声などの自然界と生活中的音声を聞き、模倣し、さらにそれらの音声を描写する音楽を鑑賞すること。b. 芸術創作と生活中的美的体験の関係性を通して、個人のイマジネーションまたは感覚を伝え、自己を表現する自信を育成すること。</p>
3・4	<p>(1) 身周りの音楽と異なる民族の音楽を収集し、鑑賞すること。</p> <p>(2) 音楽または音楽とほかの芸術作品を組み合わせた作品を把握し、それらを学んだ感想を発表し、他人と分かち合うこと。例：動画、絵本。</p> <p>(3) 生活の中にある声や音の特徴とタイミングを観察し、理解し、自分自身の得意な表現方法で発表し合うこと。例：ボディ・パーカッション、動物の鳴き声、楽器を演奏する姿勢。</p> <p>(4) 様々な演奏会や舞台芸術を鑑賞する際の態度を育成すること。 例：開演時間の厳守・適切な服装・マナーなど。</p>
5・6	<p>(1) 異なる時期や地域、文化の優れた作品を鑑賞すること。例：各国の民謡、民族音楽、クラシック音楽。</p> <p>(2) 国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して、他人と分かち合うこと。</p> <p>(3) 音楽作品と社会環境の関連を理解すること。例：宗教音楽、環境音楽、ポピュラー音楽。</p> <p>(4) 個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭や文章で他人と分かち合うこと。</p>

【表 1-8】各学年の「音楽知識」の学習内容

学年	学習内容
1・2	(1) 音符、休符と記号を把握すること。例：音符、音部記号、拍子記号、小節線、数字譜、図形楽譜。
3・4	適切な記譜法で創作した作品を記録すること。例：五線譜・数字譜・図形楽譜
5・6	(1) 曲の仕組みを理解すること。例：楽曲のフレーズの反復・変奏などの基本の形式を把握する。 (2) 適切な記譜法や録音方法で、個人的作品を記録すること。例：五線譜、数字譜、絵譜、デジタル録音。

【表 1-9】各学年の「音感」の学習内容

学年	学習内容
1・2	(1) 旋律の構成を把握すること。例：音の高さ、音の長さ、旋律の進行。
3・4	(1) 基礎的な聴音をすること。例：リズム、調性など。 (2) 楽曲のリズムを聞き分けること。例：二拍子と三拍子、長調と短調、上行形と下行形などの区別。
5・6	引き続き聴音のトレーニングを行うこと。例：楽曲のリズム、音型やコードの変化に気付き、コードまたは終止形、独奏と合奏の音色の違い、そして旋法を区別する。

【表 1-10】各学年の「読譜」の学習内容

学年	学習内容
1・2	【表 1-8】の「音楽知識」の学習内容に含まれる。
3・4	基礎的なソルフェージュをすること。例：固定ドで音名を読む、音楽を聴きながら音符や記号を識別する。
5・6	固定ド唱法や音名唱法で、長調、短調、五音音階などの歌曲を歌うこと。

上述した図表の学習内容をまとめると、各学年で学習の具体例を示し、第1学年から第6年まで簡易な内容から学習レベルを上げていく形になっている。例えば、「歌唱」の学習内容に関しては、簡易な子どもの歌やわらべうたの学習をしながら、呼吸法と発音技法を利用して様々な歌曲を斉唱、合唱する。また、歌唱のテクニックを身に付け、指揮に従って異なる形式の歌曲を多様な歌唱形態で歌う。他の項目

にもほとんど同じ傾向が見られるため、低学年から高学年までの音楽学習の難易度を考慮して学習内容が定められたと考えられる。しかし、「器楽演奏」においては、各学年段階の学習内容が前段階の内容をふまえておらず、学習の継続性が弱いと考えられる。

1-1 と 1-2 の 2 節から見ればわかるように、台湾の「芸術と人文学習領域課程綱要」は音楽学習のみならず、視覚芸術とパフォーマンスも含んでいるため、課程目標と能力指標は音楽と視覚芸術とパフォーマンスに分けて定められるのではなく、全体の目標と指標で総合的に規定されている。また綱要の付録で音楽に関する学習内容も示されているため、綱要の内容は複雑かつ膨大な量になっていることが分かる。

一方、台湾の綱要及び付録に対し、日本の音楽科学習指導要領はどのように定められているのか、次節で述べていく。

1-3 日本の音楽科の「学習指導要領」の概観

2008 年の学習指導要領の改訂には、日本の子どもたちがこれからの社会において必要となる「生きる力」を身に付けるとともに、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などを育成する必要があると判断されたという背景がある(教育芸術社 2008:1-2)。翌年の 2009 年 4 月から、小学校学習指導要領が正式に実施された。

文部科学省「小学校学習指導要領第 2 章各教科第 6 節 音楽」には、音楽科の主な目標とともに、低(1・2)・中(3・4)・高(5・6)学年ごとの学習目標が定められている。学習内容は「表現」と「鑑賞」の 2 つに大きく分かれており、「表現」の学習内容には、「歌唱」と「器楽」、及び「音楽づくり」が含まれている。また、表現教材については、各学年に 4 曲の歌唱共通教材を指導するように指示されている。「鑑賞」においては、日本や諸外国などの楽曲を使用し、鑑賞の活動を行う。さらに、「共通事項」という項目を新たに設け、音楽に関する記号と用語、及び音楽の仕組みなどの学習も含まれている。(付録 1 を参照)なお、学校教育法施行規則別表第 1 (第 51 条関係)によると、音楽科の授業時数は、第 1 学年が 68 時間、第 2 学年が 70 時間、第 3・4 学年が 60 時間、第 5・6 学年が 50 時間である。

様々な先行研究ですでに記述されているが³、本論では台湾の綱要と比較しやすいように、日本の新しい学習指導要領の概要を以下のように簡潔にまとめる。

³ 初等科音楽教育研究会 (2011)『最新初等科音楽教育法(改訂版)』, 音楽之友社, pp.14-25

1-3-1 目標

音楽科の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことである。各学年の目標をまとめ、【表 1-11】から【表 1-13】に示す。

【表 1-11】日本の音楽科における各学年の目標 ①⁴

学年	音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てる			
1・2	楽しく	音楽にかかわり	音楽に対する興味・関心をもち	音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
3・4	進んで		音楽活動への意欲を高め	
5・6	創造的に			

【表 1-12】日本の音楽科における各学年の目標 ②

学年	音楽活動の基礎的な能力を培う			
1・2	基礎的な表現の能力を	育て	音楽表現の	楽しさに気付くようにする。
3・4		伸ばし		楽しさを感じ取るようにする。
5・6		高め		喜びを味わうようにする。

【表 1-13】日本の音楽科における各学年の目標 ③

学年	基礎的な鑑賞の能力と豊かな情操を養う			
1・2	様々な音楽に親しむようにし、	基礎的な鑑賞の能力を	育て	音楽を味わって聴くようにする。
3・4			伸ばし	
5・6			高め	

上記の内容から、日本の音楽科における学習目標は児童の能力と理解力に応じて段階性と連続性があることがわかる。前段階の目標に加え、次の段階を広げて伸ばし、発展性を重視されていると考えられる。このような定められた目標はアメリカの知覚心理学者ブルナーが提唱した「螺旋型カリキュラム」⁵の理論に相応すると考えられる。学習者の理解できる内容を習得させ、発達段階に応じながら繰り返し学習することで学習レベルを上げていくことである。

1-3-2 内容

学習内容は、すでに述べたように「表現」と「鑑賞」の2つの領域に分かれてい

⁴ 表 1-11、1-12、1-13 の作成した際、『最新初等科音楽教育法(改訂版)』を参考にした。

⁵ 「螺旋型カリキュラム」はアメリカの認知心理学者ブルナー(Jerome Seymour Bruner,1915-) が 1960 年に『教育の過程』(The Process of Education)で提起した理論である。

る。それぞれの学年の具体的な学習内容について【表 1-14】から【表 1-17】にまとめた。

(1) 表現

「歌唱」の学習内容はかなり具体的に示されている。例えば、まず読譜に関しては、低学年では楽譜を使用せず、範唱を聴き、階名を覚えること、中学年から高学年にかけて、ハ長調とイ短調の楽譜を順次覚えていくことである。次に、歌詞の内容を想像し、曲想に合った表現をし、思いを込めて歌うことである。第三に、自分の歌声、発音と呼吸及びその仕方に気を付け、自然で響きのある歌い方で歌うことである。最後に、互いや各声部の歌声、副次的な旋律や伴奏などを聴き、声を合わせて歌うことである。

【表 1-14】歌唱の活動を通して、指導する事項ア～エの内容

事項	学年	内容
ア	1・2	範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。
	3・4	範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。
	5・6	範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。
イ	1・2	歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
	3・4	歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
	5・6	歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
ウ	1・2	自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
	3・4	呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
	5・6	呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。
エ	1・2	互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
	3・4	互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
	5・6	各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

「器楽」の学習内容は、まずは範奏を聴いたり、リズム譜やハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏することである。次に、楽曲の雰囲気を感じ取り、曲想による

表現を工夫し、思いや意図をもって演奏することである。そして、身近な楽器に親しみ、音色に気を付けながら、楽器の特徴を生かして簡単なリズムかや旋律を演奏することである。さらに、互いや各声部の楽器の音、全体の響きや旋律や伴奏などを聴き、音を合わせて演奏することである。

【表 1-15】器楽の活動を通して、指導する事項ア～エの内容

事項	学年	内容
ア	1・2	範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。
	3・4	範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。
	5・6	範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。
イ	1・2	楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。
	3・4	曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
	5・6	曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
ウ	1・2	身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。
	3・4	音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
	5・6	楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
エ	1・2	互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
	3・4	互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
	5・6	各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

「音楽づくり」の学習内容は、声や音に気付き、様々な音の響きやその組合せを楽しむ、多様な発想をもって即興的に表現することである。さらに、音を音楽に構成する過程を楽しみながら大切にし、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくることである。

【表 1-16】音楽づくりの活動を通して、指導する事項ア・イの内容

事項	学年	内容
ア	1・2	声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。
	3・4	いろいろな音の響きやその組合せを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。
	5・6	いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。

イ	1・2	音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。
	3・4	音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。
	5・6	音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

(2)鑑賞

「器楽」の学習内容は、楽曲の雰囲気、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くことである。また、音楽の要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くことである。さらに、楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏の楽しさと良さに気づき、理解することである。

【表 1-17】鑑賞の活動を通して、指導する事項ア～ウの内容

事項	学年	内容
ア	1・2	楽曲の気分を感じ取って聴くこと。
	3・4	曲想とその変化を感じ取って聴くこと。
	5・6	曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。
イ	1・2	音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。
	3・4	音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。
	5・6	音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。
ウ	1・2	楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。
	3・4	楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。
	5・6	楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

【表 1-18】鑑賞教材の取り扱いについてア～ウの内容

事項	学年	内容
	1・2	我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い

ア		浮かべやすい楽曲
	3・4	和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、郷土の音楽、諸外国に伝わる民謡など生活とのかかわりを感じ取りやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の楽曲
	5・6	和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化とのかかわりを感じ取りやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の楽曲
イ	1・2	音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲
	3・4	音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く楽しさを得やすい楽曲
	5・6	音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く喜びを深めやすい楽曲
ウ	1・2	楽器の音色や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲
	3・4	楽器や人の声による演奏表現の違いを感じ取りやすい、独奏、重奏、独唱、重唱を含めたいろいろな演奏形態による楽曲
	5・6	楽器の音や人の声が重なり合う響きを味わうことができる、合奏、合唱を含めたいろいろな演奏形態による楽曲

(3) 共通事項

「表現」と「鑑賞」の学習活動を通して、音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れや音階や様々な音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る。さらに、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を理解する。

【表 1-19】「a. 表現」及び「b. 鑑賞」の指導を通して、指導するア・イ事項

事項	学年	内容	
	1・2	音楽を形づくっている要素のうち次の（ア）及び（イ）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。	
		（ア）	音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素。
		（イ）	反復、問いと答えなどの音楽の仕組み。
		音楽を形づくっている要素のうち次の（ア）及び（イ）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。	

ア	3・4	(ア)	音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素。
		(イ)	反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組み。
	5・6	音楽を形づくっている要素のうち次の（ア）及び（イ）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。	
		(ア)	音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素。
		(イ)	反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み。
イ	1・2	身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。	
	3・4	音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。	
	5・6	音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。	

1-4 まとめ

本章をまとめると、台湾の「芸術と人文」課程綱要には、音楽、視覚芸術（図工）、舞台芸術（パフォーマンス）の3方面総合的な基本理念及び目的、課程目標、各段階の能力指標が含まれている。一方、日本の音楽科の「学習指導要領」には、各学年の音楽の目標及び内容と内容の扱いが含まれている。なお、台湾と日本における音楽の課程目標、学習内容を同等に扱うために、「芸術と人文」課程綱要から音楽の部分抽出し説明する。また、「芸術と人文」課程綱要の付録にある音楽の学習内容を分析し、日本の音楽科と一致した「歌唱」、「器楽演奏」、「音楽づくり」、「鑑賞」、「共通事項」という学習内容を述べる。

さらに、本章の分析と考察により、台湾の「芸術と人文」課程綱要と日本の音楽科の「学習指導要領」の共通点と相違点を第3章で比較して明らかにする。教科書における音楽の学習内容については次章で分析と考察を行う。

第2章 台湾と日本の小学校における音楽教科書についての分析と考察

本章では、現在の小学校で使われている台湾の「芸術と人文」と日本の音楽科の教科書の内容を学習段階ごとに分析する。また、芸術と人文と音楽科の教科書を分析した内容を比較・考察する。なお、台湾と日本で使用される教科書の共通点と相違点については次章でまとめる。

2-1 台湾の教科書内容の分析と考察

台湾の小学校における「芸術と人文」および低学年の「生活」の教科書が綱要に準拠して編集されている。現在、最も使用されている教科書は翰林出版(以下は「翰林」と略す)と康軒文教事業(以下「康軒」と略す)の2つである。本節において、翰林と康軒が出版した低学年の生活教科書の音楽教材及び中・高学年の「芸術と人文」教科書の音楽教材の分析を行う。

ただし、第6学年後期の翰林と康軒の教科書は、それぞれ2014年1月と3月に改訂されているものの、まだ出版されていない。そのため、教科書の分析対象は第1学年から第6学年前期までの改訂版とし、出版されていない第6学年後期に関しては改訂以前のものを使用する。

本節では、「綱要」で記載されている「基本学習内容要項」の7つのカテゴリー、「歌唱」、「器楽演奏」、「創作」、「鑑賞」、「音楽知識」、「音感」、「読譜」に沿って音楽に関する学習内容及び補充教材を述べていく。

2-1-1 翰林教科書

翰林の「芸術と人文」の教科書は「芸術と人文」課程綱要に基づいて編集されたため⁶、当然でありながら、音楽、視覚芸術(図工)、舞台芸術(パフォーマンス)の教材内容を含む。第3学年から第6学年の教科書の内容は全て4つの単元に分けられている。4つの単元とは、音楽、視覚芸術(図工)、舞台芸術(パフォーマンス)、音楽の補充教材である。なお、第1・2学年の音楽の教材内容は「生活課程」の教科書に含まれている。音楽の教材内容は各単元に合わせ、相応な歌曲が定められている。

(1) 歌唱【表2-1】

生活課程の教科書の音楽教材において、第1・2学年の歌唱曲はほとんどハ長調であり、主な拍子は2/4と4/4である。また、歌曲の音域はG3からE5までであり、身体表現をしながら歌詞の内容から情景を思い浮かべ、楽しく歌うことを強調して

⁶この情報は翰林出版の「芸術と人文」教科書の1ページ目の「編集者の話」によるものである。

いる。

第3・4学年の芸術と人文の教科書においては、ハ長調以外で、ト長調、ヘ長調と五音音階の歌唱曲が取り入れられた。また、3/4と3/8拍子の曲が増えている。歌曲の音域は前段階と同様である。二部合唱・輪唱とアウフタクトの歌曲も取り入れられた。

第5・6学年において、前段階で学習した内容を復習としながら、ニ長調と変ホ長調の歌曲を加え、6/8拍子と三部合唱の歌曲が取り入れられた。歌曲の音域は変わらずG3からE5までである。

【表2-1】翰林出版「芸術と人文」各段階の教材の主な調、拍子、音域と演奏形態

学年	主な調（曲数）			主な拍子	音域	演奏形態
	長調	短調	その他			
1・2	ハ長調(56)	イ短調(3)	なし	4/4 2/4	G3～E5	斉唱
3・4	ハ長調(38) ト長調(13) ヘ長調(4)	イ短調(4) ホ短調(3)	中国の 五音音階(1)	4/4 2/4 3/4 3/8	G3～E5	斉唱 二部合唱 二部輪唱
5・6	ハ長調(25) ト長調(8) ヘ長調(12) ニ長調(4) 変ホ長調(1)	イ短調(4)	中国の 五音音階(2)	4/4 2/4 3/4 3/8 6/8	G3～E5	斉唱 二部合唱 二部輪唱 三部合唱

(2) 器楽演奏【表2-2】

第1・2学年の生活領域において、バスドラム・スネアドラム・タンバリン・木魚・カスタネット・トライアングルが主な楽器として紹介される。その中で実際に歌曲に合わせて演奏するのは、バスドラム・木魚・カスタネット・トライアングルとすずである。

第3・4学年から、リコーダーの学習内容が導入され、曲の音域はC4からE5までとなっている。第4学年から、リコーダー二部合奏の学習内容が加わる。低学年に引き続きタンバリンとトライアングルが紹介され、歌曲に合わせて演奏する学習内容が実施されている。さらに、伝統楽器も紹介され、創作に合わせて演奏する学習内容となっている。

第5・6学年において、リコーダーの学習が引き続き行われ、曲の音の範囲はG5

まで拡大される。F#4、G#4、B♭4、C#5 の音がある曲も取り入れられた。また、リコーダーと打楽器の四部合奏が取り入れられ、鍵盤ハーモニカの学習も始まる。

【表 2-2】翰林出版「芸術と人文」各段階に学習する器楽及び音域

学年	楽器	リコーダー	
		音域	臨時記号
1・2	バスドラム・木魚・カスタネット・ トライアングル・すず	なし	なし
3・4	バスドラム・スネアドラム・タンバリン・ カスタネット・トライアングル・木琴・鉄琴・ 銅鑼・中国太鼓・中国シンバル	C4～E5	F#4
5・6	銅鑼・中国太鼓・中国シンバル・木魚・ タンバリン・カスタネット・ トライアングル・鍵盤ハーモニカ	C4～A5	F#4、G#4、 B♭4、C#5

(3)創作【表 2-3】

第 1・2 学年の創作の学習内容は、歌詞を擬音や簡易な言葉に替える簡易なリズムづくりである。第 3・4 学年では、2/4・3/4・4/4 拍子のリズムづくりが続き、旋律づくりの学習内容が加えられた。第 5・6 学年では、3/8・6/8 拍子のリズムづくりが加わる。旋律づくりでは、反復と反復進行の手法を用いたり、旋律に歌詞を加えたりして 2-4 小節の創作の学習を行う。

【表 2-3】翰林出版「芸術と人文」各段階の創作においてリズムと旋律づくり

学年	リズムづくり	旋律づくり
1.2	擬声語、擬態語を用いる歌詞づくり	なし
3・4	2/4・3/4・4/4	あり
5・6	2/4・3/4・4/4・3/8・6/8	反復と反復進行の手法を用いる

(4)鑑賞

鑑賞の学習内容は、第 1 から第 6 学年それぞれの単元のテーマに関連した楽曲が用いられている。伝統楽器や西洋楽器が紹介される曲数も学年につれて増加する。また、鑑賞活動を通して、作曲家と歌曲の背景についても学習する。さらに鑑賞力を高め、感受性を向上させると考えられる。

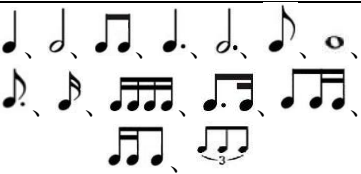


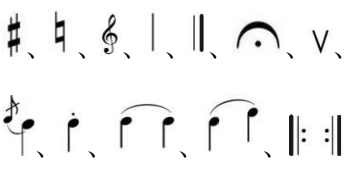
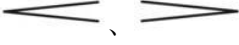
(5) 音楽知識、音感、読譜【表 2-4】

第1・2学年において、4分音符、8分音符、2分音符と4分休符、2分休符を学び、これらの音符と休符の長さを把握させる。また、強弱記号とトライアングルのトレモロ記号も学習内容となっている。読譜の学習内容も音楽知識に含まれる。第1学年はリズムの読譜と五線譜の学習となっており、第2学年までに五線譜のC4からC5の読譜と音階のハンドサインを学習する。

第3・4学年では、4分音符、8分音符、2分音符を復習とし、16分音符と付点4分音符と8分休符を加えて学ぶ。また、拍子記号とシャープ、ナチュラルなどの音楽記号と強弱記号も学習内容となっており、それらの記号を生かして歌うことが重視される。五線譜の学習においては、ハ長調・ト長調の音階とA3からG5の読譜を学習する。さらに、ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音を学習し始める。

第5・6学年では、前学習段階の音符や音楽記号や和音などの内容を復習とする。また、三連符、ヘ長調、フラット記号と五音音階、和音の転回形、簡易な音程の学習が行われる。読譜はA3からA5を学習する。ドイツリートと中国芸術歌曲、またオペラと戯曲の比較することにより、曲の形式を把握する。さらに、音楽の旋律を絵で表現することをはじめ、ロンドの形式と反復・反復進行という曲の構成要素を学ぶ。

【表 2-4】翰林出版「芸術と人文」各段階において学習する音符、休符、記号、音名

学年	1・2	3・4	5・6
音符			
休符			
記号			
強弱	<i>f</i> 、 <i>p</i>	<i>f</i> 、 <i>p</i> 、 <i>mf</i> 、 <i>mp</i> 、 	<i>f</i> 、 <i>p</i> 、 <i>mf</i> 、 <i>mp</i> 、 
読譜 (音名)	C4～C5	A3～G5	A3～A5
その他	ハンドサイン	ハ長調の音階と ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ和音、	ヘ長調とニ長調の音階、五音 音階、ドイツリート、オペラ、

		ト長調、五音音階	戯曲、中国芸術歌曲、ロンド、 反復進行、和音の転回形
--	--	----------	-------------------------------

(6)総合的な学習

総合的な学習は第5・6学年だけにある学習内容と定められている。音楽(視覚芸術、パフォーマンスを加え)の学習成果を示すことを目標とし、生徒が協力し合い、習得した演奏と演唱する技能を生かしてステージで演出する。

2-1-1-1 考察

各学年の基本学習内容の分析図表をまとめ、各学習内容の割合を【表2-5】(付録2を参照)で示す。ただし、音楽知識、音感、読譜及び総合的な学習は唱歌、器楽演奏、創作と鑑賞の学習内容に含まれているため、【表2-5】には表記しない。

【表2-5】翰林出版の各学年教科書における音楽の学習内容の割合

翰林	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
歌唱	58%	64%	47%	40%	30%	32%
器楽演奏	15%	13%	32%	20%	20%	25%
創作	4%	2%	6%	11%	13%	6%
鑑賞	23%	21%	15%	29%	35%	37%

上述した「基本学習内容要項」の7つのカテゴリーの内容と各分析図表から見ると、第1・2学年は基礎的な音楽知識や読譜を学習しながら、歌曲を歌う活動を中心に行われた。第3・4学年に入ると、歌唱、器楽演奏と音楽知識・読譜・音感の学習内容という3つの分野を中心に行う。第5・6学年の学習内容においては、前学習段階で習得した音楽知識・読譜・音感という能力を生かして、様々な形式の楽曲を歌い、演奏する。また、歌唱と器楽演奏の能力向上に合わせて、創作と鑑賞の学習内容が増加する。このように翰林出版による教科書の音楽の学習内容は、簡易なものから複雑なものへ進み、段階的な配置されていると考えられる。

第1・2学年の歌曲はほぼハ長調で、G3 また A3 までの歌曲が18曲あった。第1・2学年の児童にとっての最も適切な音域はD4 から D5 であることを考えると(竹内2009:14)、翰林出版による第1・2学年の歌曲の音域は低いと考えられる。

2-1-2 康軒教科書

次に、康軒の「芸術と人文」教科書を分析、考察する。康軒の教科書も翰林出版と同様、「芸術と人文」課程綱要に基づいて編集された⁷。第3学年から第6学年の教科書の内容が全て6つの単元に分けられており、音楽の補充教材も付けられている。6つの単元の内訳は、音楽と視覚芸術（図工）が2単元ずつ、舞台芸術（パフォーマンス）が1単元、残りの1単元は総合的な学習の内容となっている。また、第1・2学年の音楽の教材内容は翰林と同様に「生活課程」の教科書に含まれている。

(1) 歌唱【表2-6】

第1・2学年の生活の教科書において、歌唱曲はほとんどハ長調であり、拍子は2/4と3/4と4/4拍子である。また、歌曲の音域はG3からD5までであり、リズムによって歌いながら遊んだり、体を動かしたりする。

第3・4学年の芸術と人文の教科書において、ハ長調以外、ト長調・ヘ長調とホ短調と五音音階の歌唱曲が取り入れられた。また、歌曲の音域はE5まで広がり、二部合唱・輪唱とアウフタクトの歌曲も取り入れられた。各歌曲の歌詞の情景をイメージしながら心を込めて歌う。

第5・6学年において、歌曲の調性が増え、音域はF5まで広がり、6/8と2/2拍子の歌曲が取り入れられた。音の高さと旋律のフレーズと音楽記号に気を付け、歌詞の情景を浮かべながら歌う。また、互いの声を意識しながらバランスを取り、輪唱や合唱をする。

【表2-6】康軒文教「芸術と人文」各段階の教材の主な調、拍子、音域と演奏形態

学年	主な調（曲数）			主な拍子	音域	演奏形態
	長調	短調	その他			
1. 2	ハ長調(45)	イ短調(3)	なし	4/4 2/4	G3～D5	斉唱
3. 4	ハ長調(47) ト長調(19) ヘ長調(1)	イ短調(2) ホ短調(2)	中国の 五音音階(2)	4/4 2/4 3/4	G3～E5	斉唱 二部合唱 二部輪唱
5. 6	ハ長調(37) ト長調(28) ヘ長調(19) ニ長調(1) イ長調(1) 変ロ長調(1)	イ短調(2) ホ短調(2) ニ短調(4)	中国の 五音音階(3)	4/4 2/4 3/4 6/8 2/2	G3～F5	斉唱 二部合唱 二部輪唱

⁷この情報は康軒文教事業の「芸術と人文」教科書の1ページ目の「編集者の話」によるものである。

(2) 器楽演奏【表 2-7】

第1・2学年の生活領域において、木魚・トライアングル・タンバリン・カスタネット・すずが学習内容として紹介され、歌曲と合わせて演奏する。第3・4学年から、リコーダーの学習内容が導入され、音域はC4からE5までとなっている。また、低学年で使用された打楽器とマラカスを歌曲に合わせて演奏する学習内容が実施されている。第5・6学年においては、リコーダーの学習が引き続き行われ、音域はF5まで拡大された。また、とF#4、B♭4、G#4、E♭5の音がある曲も取り入れられた。なお、リコーダーの二部合奏が初めて導入された。

【表 2-7】 康軒文教「芸術と人文」各段階に学習する器楽及び音域

学年	楽器	リコーダー	
		音域	臨時記号
1.2	木魚・トライアングル・タンバリン・ カスタネット・すず	なし	なし
3.4	木魚・トライアングル・タンバリン・ カスタネット・すず・マラカス	C4～E5	F#4
5.6	木魚・トライアングル・タンバリン・ カスタネット・すず・マラカス・	C4～F5	F#4、B♭4、 C#5、E♭5

(3) 創作【表 2-8】

第1・2学年の創作の学習内容は、歌詞を擬音や簡易な言葉に替える簡易なリズムづくりである。第3・4学年では、2/4・3/4・4/4拍子に歌詞を付けてリズムをつくり、歌詞を簡易な言葉で替える学習内容が加えられた。また、リコーダーで簡易な旋律づくりをする。第5・6学年では、歌詞をあわせてリズムをつくる。また、「問いと答え」の手法を用いた旋律づくりの学習内容が加えられた。

【表 2-8】 康軒文教「芸術と人文」各段階の創作においてリズムと旋律づくり

学年	リズムづくり	旋律づくり
1.2	擬声語、擬態語を用いる歌詞づくり	なし
3・4	2/4・3/4・4/4	あり
5・6	2/4・3/4・4/4	問いと答えの手法を用いる

(4) 鑑賞



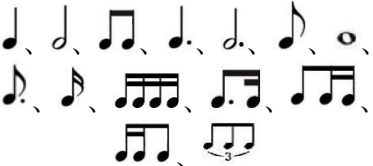



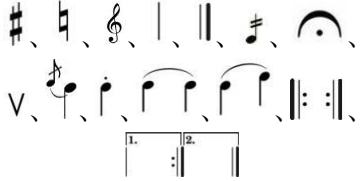
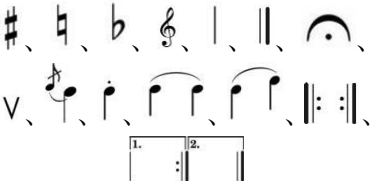

鑑賞の学習内容は、第1から第6学年のそれぞれの単元のテーマに関連した楽曲

が用いられている。第1・2学年では、日常生活にある物事と関わる単元のテーマに沿って、様々な音声を鑑賞する。第3から第6学年では、様々なジャンルの楽曲を鑑賞する。また、鑑賞活動を通して、作曲家と歌曲の背景も学習する。さらに、鑑賞力を高め、感受性を向上させると考えられる。

(5) 音楽知識、音感、読譜【表2-9】

第1・2学年において、4分音符、8分音符、2分音符と4分休符の名称を学習せず、これらの音符と休符の長さを把握させる。また、強弱記号も学習内容となっている。第1学年の学習はリズムと五線譜のC4からG4までの音名の読譜を中心とする。第2学年では、C4からA4までを認識させ、音の高さを感じ取らせる。第3・4学年では、4分音符、8分音符、2分音符、4分休符を復習とし、名称を学習する。16分音符と付点4分音符と16分音符を加えて学ぶ。また、拍子記号とシャープ、ナチュラルなどの音楽記号と強弱記号も学習内容となっている。五線譜の学習においては、第3学年に再び五線譜を紹介し、B4の学習を兼ねてC4からA4までの読譜を復習する。第4学年まで、C4からG5の読譜を学習し、応用して創作する。さらに、ハ長調、ト長調、五音音階、また、順次進行、跳躍進行という旋律を構成する手法などを学ぶ。第5・6学年では、音符と休符と音楽記号の学習内容が増える。読譜は前段階のC4からG5までを復習し、オペラ、ドイツリートなどの様々な曲の形式を理解する。また、ヘ長調の音階、音程、「問いと答え」など旋律の進行についてを把握する。

【表2-9】 康軒文教「芸術と人文」各段階において学習する音符、休符、記号、音名

学年	1・2	3・4	5・6
音符			
休符			
記号	なし		
強弱	<i>f</i> 、 <i>p</i>	<i>f</i> 、 <i>p</i> 、 <i>mf</i> 、 <i>mp</i> 、	<i>f</i> 、 <i>p</i> 、 <i>mf</i> 、 <i>mp</i> 、 
読譜 (音名)	C4～A4	C4～G5	C4～G5

その他	なし	ハ長調とト長調の音階、 五音音階、切分音、 旋律の流れ：上行と下行、 順次進行、跳躍進行	ヘ長調の音階と五音音階、 音程、問いと答え、順次進行、 跳躍進行、オペラ、ドイツリー ト
-----	----	---	---

2-1-2-1 考察

各学年の基本学習内容の分析図表をまとめ、各学習内容の割合を【表 2-10】(付録 3 を参照)で示す。ただし、音楽知識、音感、読譜及び総合的な学習は唱歌、器楽演奏、創作と鑑賞の学習内容に含まれているため、【表 2-10】には表記しない。

【表 2-10】康軒文教の各学年教科書における音楽の学習内容の割合

康軒	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
歌唱	56%	59%	52%	49%	50%	57%
器楽演奏	9%	11%	19%	20%	17%	17%
創作	4%	4%	3%	1%	2%	3%
鑑賞	31%	26%	26%	30%	31%	28%

第 1 学年から第 6 学年すべてにおいて歌唱と鑑賞の学習内容を中心としている。また、歌唱・器楽演奏・創作・鑑賞の 4 方面の学習を通して、音楽知識や読譜や音感などについて習得する。第 1・2 学年では、歌唱の内容は全体の学習の内容に半数を占めている。曲の流れとリズムにのって、身体を動かしながら歌ったり、曲を鑑賞したりする。また、曲を合わせて打楽器で演奏する。第 3・4 学年では、歌曲の調が増え、二部合唱と輪唱の歌曲を加え、リコーダーの内容が導入される。また、曲を鑑賞することを通して、思いや情景を感じ取り、音楽家・作曲家についての物語を学習する。第 5・6 学年では習得した音楽知識や読譜の能力を生かし、様々な調性の曲を歌ったり演奏したりする。さらに、伝統音楽と楽器、及び台湾民謡の学習内容が取り入れられている。

「康軒」教科書から見ると、学習内容は段階的に配置されている。しかし、第 3 学年の学習内容は低学年と重なる部分が多く、第 4 学年の学習内容が第 3 学年から増加しすぎているのではないかと考えられる。

また、低学年の歌曲の音域に関して、G3 と A3 までの歌曲が 18 曲あるが、竹内によれば、第 1・2 学年の児童に最も適切な歌う音域は D4 から D5 までである(2009:14)。そのため、康軒による第 1・2 学年の歌曲の音域は児童にとって低いと考えられる。さらに、打楽器の学習の内容は低学年からであり、リコーダーの内容は中学年からである。しかし、中学年では器楽合奏の内容はほとんどなく、高学年ではリコーダー

2 部合奏のみであり、器楽合奏の学習内容は少ないと考えられる。

2-1-3 「翰林」と「康軒」にみる台湾の教科書

上述した翰林と康軒教科書の7つの基本学習内容要項について、要項ごとに比較し、その共通点と相違点をまとめる。

(1) 共通点

a. 「歌唱」教材（調、拍子、音域、演奏形態）：まず調の種類から見ると、低学年では両社ともハ長調とイ短調の歌曲が使用し、体を動かしながら歌うことを楽しむことを中心としている。中学年では、両社とも歌曲の調の種類が増え、ト長調、ヘ長調、ホ短調と五音音階が導入されている。拍子の面において、低学年では両社とも2/4と4/4という2種類の拍子を用いて表現する学習内容を中心としている。また、音域については、両社とも低学年ではG3から、中学年では両社ともG3からE5までの歌曲を用いる。さらに、演奏形態について、両社とも低学年では斉唱、中学年では、二部合唱・輪唱の形態が増加した。

b. 「器楽演奏」教材（打楽器、リコーダー）：低学年では、両社ともリコーダーの学習内容はなく、中学年から取り入れられている。中学年で学習するリコーダーの音域はC4からE5で、F#4の運指も学習する。

c. 「創作」教材（リズムづくり、旋律づくり）：低学年においては、両社とも擬声語、擬態語を用いる歌詞づくりと2/4と4/4拍子のリズムづくりを中心とする。旋律づくりの学習内容が取り入れられていない。中学年においては、両社とも3/4拍子のリズムづくりの学習内容を導入し、簡易な旋律づくりの学習内容が加っている。

d. 「鑑賞」教材：両社とも第1学年から第6学年それぞれの教科書の单元テーマに関連した鑑賞曲を用い、鑑賞力を高め、感受性を向上させることをねらいとしている。低学年では、生活の中で周りにある様々な音や自然音などを聴き取る。また、日常生活の物事に関するテーマにそって、楽曲を鑑賞することを中心としている。中・高学年では、様々なジャンルの楽曲を鑑賞する学習内容を中心としている。また、伝統楽器や西洋楽器を用いる楽曲を鑑賞する内容が増えた。

e. 「音楽知識、音感、読譜」（音符、休符、記号、強弱、読譜、その他）：両社とも「歌唱」、「器楽演奏」、「鑑賞」、「創作」に音楽知識、音感、読譜の学習内容が含まれている。音符の学習内容については、両社とも低学年に4分、2分、8分音符を学習し、中学年に付点4分、付点2分、付点8分、16分音符、全音符及びそれらを組み合わせた学習内容を取り入れた。高学年に三連符の内容が加わった。音楽記号については、両社とも中・高学年の学習内容は一致する。強弱記号の学習内容については、両社とも低学年にフォルテとピアノの内容があり、高学年にメゾフォルテとメゾピアノ、クレシェンドとディミヌエンドがある。その他、中学年では、両社と

もハ長調、ト長調音階と五音音階の学習内容を取扱い、高学年において、両社とも五音音階の学習内容を深め、ヘ長調音階の内容が加わる。また、オペラとリートという曲の種類についての内容も含められた。

(2)相違点

a. 「歌唱」教材（調、拍子、音域、演奏形態）：高学年において、両社とも歌曲の調の種類が中学年より増えた。翰林では、変ホ長調の歌曲が導入され、康軒では、イ長調、変ロ長調及びニ短調の歌曲が取り入れられた。拍子について見ると、中学年において、翰林では、3/4 と 3/8 拍子の歌曲が加えられたが、康軒では、3/4 拍子の歌のみ導入した。高学年において、翰林では 6/8 拍子の歌曲が取り入れられたが、康軒では、6/8 また 2/2 拍子の歌が加えられた。音域について、低学年において、翰林では E5 まで、康軒では D5 までの歌曲である。高学年において、翰林では前段階と同様であるが、康軒では、F5 までの歌曲が使用されている。演奏形態について、翰林では高学年で三部合唱の形態が導入されるが、康軒では、中学年と同様に二部合唱・輪唱の内容が続く。

b. 「器楽演奏」教材（打楽器、リコーダー）：まず使用される打楽器について見ると、低学年において、両社とも木魚・カスタネット・トライアングル・すずを使用するのに加えて、翰林ではバスターム、康軒ではタンバリンが使用される。中学年において、両社とも学習する打楽器の種類が増える。翰林では、銅鑼・中国太鼓・中国シンバルという伝統打楽器の演奏が導入される。一方、康軒ではマラカスが取り入れられている。高学年において、両社とも低・中学年で習得した打楽器を使用するが、翰林では、鍵盤ハーモニカの学習が導入されている。また、リコーダーの音域について、翰林では A5 までであるが、康軒では、F5 までである。臨時記号の運指については、両社とも F#4、B♭4、C#5 があり、さらに翰林では E♭5、康軒では、G#4 がある。

c. 「創作」教材（リズムづくり、旋律づくり）：リズムづくりについて、高学年において、両社とも中学年からの 2/4、3/4 と 4/4 拍子の学習内容が続くが、翰林では、3/8 と 6/8 拍子の内容を取り上げた。また旋律づくりについて、翰林では高学年において反復・反復進行の手法を生かす旋律づくりの学習内容がある。一方、康軒には問いと答えという手法を用いる旋律づくりの学習内容がある。なお、創作の学習量に関しては、翰林は学年につれて増加するが、康軒の各学年はほとんど変わらない。

d. 「鑑賞」：鑑賞の学習内容割合について、翰林では、低・中学年の鑑賞内容は歌唱より少ないが、高学年に入ってから、鑑賞の学習内容が歌唱を超えた。一方、康軒では、低・中・高学年とも鑑賞の内容の方が歌唱の内容より少ない。

e. 「音楽知識、音感、読譜」（音符、休符、記号、強弱、読譜、その他）：休符の

学習について、翰林において、低・中学年に4分、8分、2分休符を学習内容としている。高学年では、全休符と16分休符の学習内容が取り入れられた。一方康軒においては、低・中学年に4分休符を学習内容とし、高学年に8分休符の内容が加わった。音楽記号について、翰林では、低学年での打楽器の学習内容によりトレモロ記号が取り入れられている。一方、康軒では、トレモロ記号を導入する段階は中学年である。強弱記号について、中学年において、両社とも低学年で習得したフォルテとピアノを復習内容とし、メゾフォルテとメゾピアノの内容が加わっている。また、翰林では、クレシェンドとディミヌエンドを取り扱っている。音名読譜について、翰林では、低学年にC4からC5、中学年にA3からG5まで、高学年でA5までの学習となっている。一方、康軒では、低学年はC4からA4、中・高学年はG5までの学習となっている。その他、翰林において、低学年では、ハントサインの学習を音名読譜と共に学習する。中学年において、翰林では、ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ和音の内容が取れ入れられた。一方、康軒では、上行と下行の旋律の流れ、及び順次・跳躍進行の内容が導入された。高学年において、翰林では、ニ長調の音階、反復進行、ロンド及びハ長調和音の転回形の学習内容が取り入れられた。また、戯曲、芸術歌曲という曲の種類についての学習が加えられている。一方康軒では、音程と順次・跳躍進行、問いと答えという楽曲の構成要素が学習内容となっている。

2-2 日本の教科書内容の分析と考察

日本の小学校では、最も使用されている音楽科教科書は「教育芸術社」と「教育出版」の2つである。2つの音楽科教科書の取り扱う内容はともに学習指導要領の目標及び内容に従い、教材の内容が「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」、「共通事項」の5つの枠に分けられている。内容の程度は、子どもの心身の発達段階や子どもの能力の実態に適応している。また、共通教材は学習指導要領の意義を踏まえ、国の文化や自然環境の保護などの視点から説明文や情景写真などが用意されている。

本節では、学習指導要領の「内容」において、「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」、「共通事項」の5つの細目に沿って、「教育芸術社」と「教育出版」の音楽科教科書内容の分析を行う。

2-2-1 教育芸術社教科書

教育芸術社の音楽科教科書は「学習指導要領 音楽」に従い、教科書の題材数は各学年の授業時数と学習内容の特徴を考慮した上で編集された。第1学年は9題材であり、拍子、リズム、音程、器楽、曲想などについての内容が含まれている。第2・3・4学年は8題材であり、リズム、読譜、器楽、旋律、和音、日本の音楽などに関

する内容が含まれている。第5・6学年は7題材であり、読譜、音色、和音、言葉と音楽、日本と世界の音楽についての内容が含まれている。また、第3学年から、各学年に一曲の「学年の歌」が設定されている。そして、各学年に4曲の共通教材がある。

(1)歌唱【表2-11】

第1・2学年の歌曲はほとんど長調であり、主な拍子は2/4、3/4、4/4である。音域について、C4からE5の歌曲が用いられている。拍の流れにのって歌いながら遊んだり、体を動かしたりする。物語の情景と合わせ、歌詞に擬声語・擬態語と外国語の挨拶言葉が使用されている。さらに、楽譜の音符に階名が書かれていており、階名を歌いながら、音程に気をつけることが中心となっている。

第3・4学年では、歌曲の調性は第1・2学年と同様であるが、階名唱が重視されている。拍子の面においては、6/8拍子の歌曲が導入された。歌曲の音域はA3からE5まで広がった。また、二部合唱と輪唱の歌曲が加えた。

第5・6学年では、歌曲の調が増えるが、拍子は中学年と同様である。音域はA3からF5までになった。斉唱と二部合唱の学習を引き続き行い、三部合唱曲及び外国語歌曲がとりいれられた。また、言葉の抑揚や語感を大切に、速度と強弱記号を生かして歌うことが重視される。

【表2-11】教育芸術社「小学生のおんがく」各段階の教材の主な調、拍子、音域と演奏形態

学年	主な調（曲数）			主な拍子	音域	演奏形態
	長調	短調	その他			
1・2	ハ長調(35) ト長調(3) ヘ長調(12)	イ短調(3)	壱越調 陰旋法	2/4 3/4 4/4	C4～E5	斉唱
3・4	ハ長調(22) ト長調(8) ヘ長調(13)	イ短調(4)	壱越調 陰旋法 陽旋法	2/4 3/4 4/4 6/8	A3～E5	斉唱 二部合唱 二部輪唱
5・6	ハ長調(17) ト長調(3) ヘ長調(16) ニ長調(4) 変ロ長調(3)	イ短調(2) ニ短調(2)	壱越調 陰旋法 陽旋法 五音音階(徴)	2/4 3/4 4/4 6/8	A3～F5	斉唱 二部合唱 三部合唱

(2) 器楽【表 2-12】

第1・2学年においては、打楽器のトライアングル・タンバリン・カスタネット・すず・鉄琴・ウッドブロックが学習内容として紹介される。また、リズム譜を見たり、拍の流れにのったりして、音色に気をつけて歌と合わせ、打楽器を演奏する。さらに、鍵盤ハーモニカを取り入れ、C4 から C5 の旋律を演奏する。

第3・4学年から、リコーダーが導入され、演奏の仕方を知り、音の出し方を工夫する。音域は C4 から E5 までとなっている。3 拍子と 4 拍子の雰囲気を感じ取り、音色に気をつけて歌とリコーダーの旋律を重ねて演奏する。さらに、楽譜を見ながらリコーダー・打楽器・鍵盤ハーモニカで演奏する。二重奏や二部合奏をし、響きの美しさを感じ取る。

第5・6学年において、リコーダーと鍵盤ハーモニカの学習が引き続き、音域が拡大され、演奏曲の幅が広がる。また、リズムの組み合わせや強弱の変化とリズム伴奏を工夫し、各パートにふさわしい旋律楽器・打楽器を選び、楽器の特徴を生かして合奏やアンサンブルを楽しむ。さらに、和音の移り変わりや響きを感じ取りながら、旋律の絡み合いの美しさを生かして二部から四部の合奏をする。

【表 2-12】教育芸術社「小学生のおんがく」各段階に学習する器楽及び音域

学年	楽器	鍵盤 ハーモニカ	リコーダー	
			音域	臨時記号
1. 2	トライアングル・タンバリン・ カスタネット・すず・鉄琴・ ウッドブロック・ハーモニカ	C4～C5	なし	なし
3. 4	トライアングル・タンバリン・ カスタネット・すず・鉄琴・ ウッドブロック・木琴・ クラベス・大だいこ・小だいこ	C4～E5	C4～G5	F#4、F5#
5. 6	タンバリン・鉄琴・木琴・ 大だいこ・小だいこ・シンバル・ アコーディオン・琴	A11	C4～A5	F#4、G#4、B b 4、C5#、 F5#、G5#

(3) 音楽づくり【表 2-13】

第1・2学年では、擬声語に興味を持ち、リズムに合う言葉を探し、言葉のリズムでリレーをして楽しむ。いろいろなリズムパターンやつくったリズムで組み合わせる。また、見つけた音を使って音遊びをし、短い旋律づくりをする。

第3・4学年では、2/4・4/4拍子の2から4小節の音楽づくりを中心に、音符カードを使うなどして自分でつくった旋律を階名唱したり楽器で演奏したりする。また、音の組み合わせを工夫して、旋律づくりをする。さらに、つくった音を繰り返したり変化させたりする。

第5・6学年では、2/4・4/4拍子を中心に、リズムの組み合わせをする。曲の仕組み(音の動き、リズム、強さ、終わり方)に気をつけて、8小節の旋律づくりをする。また、考えた言葉のまとまりや語感を生かして、自分のリズムをつくる。

【表2-13】教育芸術社「小学生のおんがく」各段階の創作においてリズムと旋律づくり

学年	リズムづくり	旋律づくり
1.2	擬声語・言葉を使ったリズムづくり、 リズムパターンの組み合わせ	あり
3・4	2/4・4/4	あり
5・6	2/4・4/4	上行、下行、反復と反復進行の 手法を用いる旋律づくり、 和音による伴奏作り

(4)鑑賞

第1から第6学年の鑑賞の学習内容は、楽曲の特徴や感じたことに気をつけ、歌詞の表す情景と場面の様子を思い浮かべ、イメージを膨らませることである。拍の流れや楽曲全体の雰囲気を感じ取り、曲想を味わって聴く。また、いろいろな楽器の音色の違いやリズムに気をつけ、楽曲を味わうことを中心とする。第1・2学年では、音楽に合わせ、曲の盛り上がりに合わせて体を動かし、音楽を楽しむ。第3・4学年では、旋律の繰り返しと楽曲の構成を認知し、曲想を捉える。第5・6学年では、楽曲の構成・音色・和音の響き・曲全体の流れをつかむ。また、雅楽と各国の音楽を聴いて、音楽のよさを味わって曲に親しむ。

(5)共通事項【表2-14】

第1・2学年において、4分音符、8分音符、2分音符と4分休符、8分休符を学び、これらの音符と休符の長さを把握させる。絵譜を読むこともリズムと五線譜の学習となっている。また、五線譜のC4からC5音の認識し、音の高さを把握する。

第3・4学年では、4分音符、8分音符、4分休符などを復習とし、16分音符と付点4分音符や16分休符などを加えて学ぶ。また、各曲の学習により、拍子記号とシャープ、ナチュラル、リピートなどの音楽記号と強弱記号も学習内容となっている。

五線譜の学習においては、ハ長調・イ短調の内容が繰り返され、B3 から E5 の読譜を学習する。また、絵譜で音楽の旋律を表すことにより、曲の構成を初歩的に認識する。

第5・6 学年では、前学習段階の音符や音楽記号や和音などの内容を復習し、ヘ長調、ニ短調、音楽記号と和音についての学習が行われる。また、曲の流れや構成と形式を把握する。読譜は B3 から A5 を習う。

【表 2-14】教育芸術社「小学生のおんがく」各段階において学習する音符、休符、記号、音名

学年	1・2	3・4	5・6
音符			
休符			
記号	なし		
強弱	なし		
読譜 (音名)	C4～C5	B3～E5	B3～A5
その他	なし	ハ長調とイ短調音階、 切分音	ハ長調とイ短調：Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ7 和 音、ヘ長調とニ短調音階、 終止形、曲の構成

(表における()の中で表示されている音符と記号は、学習指導要領の「共通事項」に含まれていないが、教科書に掲載された曲の中で使用されている音符と記号である。)

2-2-1-1 考察

【表 2-15】教育芸術社の各学年教科書における音楽の学習内容の割合

芸術教育社	第1 学年	第2 学年	第3 学年	第4 学年	第5 学年	第6 学年
歌唱	58%	56%	38%	40%	47%	47%
器楽	25%	22%	36%	29%	26%	27%
音楽づくり	9%	9%	9%	12%	7%	6%
鑑賞	8%	13%	17%	19%	20%	20%

第1・2学年は楽曲を聴いたり歌ったりする。音楽に合わせて体を動かすことを通して、音楽を楽しみながら拍子とリズムに慣れるようにする。また、鍵盤ハーモニカの学習が始まる。第3・4学年は第1・2学年と同様に、歌唱と器楽の学習内容を中心とする。

鍵盤ハーモニカで演奏する曲が増え、リコーダーの学習が始まることで、器楽の学習内容が増加した。さらに、音楽知識と読譜の学習内容も含まれ、曲の流れや構成を認識する。第5・6学年は、音楽知識や曲の仕組みや和音などの学習内容が増えながらも、前2段階と同じく歌唱と器楽の学習内容を中心とする。また、鑑賞の部分では、オーケストラ、オペラや、雅楽などの日本の音楽、各国の音楽と楽器を取り扱っている。なお、各学年教科書における音楽の学習内容の割合は上記した【表2-15】（付録4を参照）に示す。

2-2-2 教育出版教科書

教育出版の音楽科教科書は、「学習指導要領」に示された指導すべき内容に適した教材が集められ、「学習指導要領」の目標が着実に達成できるよう編集された。各学年の教科書が7つの題材群で構成され、主な題材群は2つがある。低学年では、「うたやがっき、おとあそびをとおして、おんがくといっぱいなかよしになろう」と「おんがくのおもしろいところをたくさんみつけながらえんそうしたりきいたりしよう」という2つの主な題材群となっている。中・高学年では、『音楽のもと』のさまざまなはたらきをとらえながら、きく力や演そうする力をみにつけよう」と「言葉と音楽、くらしと音楽とのかかわりなどを知り、多様な音楽のみりよくを味わいながら、自分たちの音楽表現を深めよう」という2つの主な題材群となっている。そのほか、「器楽・資料」、「つくる・きく」、「音楽ランド」、「国歌」、「にっぽんのうたみなのはな」という題材群がある。なお、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞及び共通事項の学習内容は上述した7つの題材群に含まれている。

(1) 歌唱【表2-16】

第1・2学年では、2/4・3/4・4/4拍子の楽曲を中心とする。歌曲の音域はC4からE5である。拍の流れやリズムに気づき、身体表現しながら楽しく歌う。旋律のフレーズと強弱を意識し、互いの歌声を聴き合い、音の高さを合わせて歌う。また、交互唱の面白さを感じ取り、歌詞の表す情景を想像し、気持ちを込めて歌う。

第3・4学年では、前段階の学習内容を引き続き行うが、歌曲の調が増え、音域はA3からE5まで拡大され、歌い方が重視される。ハ長調の階名唱に慣れ親しみ、身体表現をしながら歌う。また、旋律のフレーズ、曲の盛り上がり、強弱などに気を

付け、歌詞の内容から情景を思い浮かべて歌う。さらに、各パートの旋律の動きを捉え、輪唱の音のバランスなどに気を付け、旋律の重なりを感じ取って合唱する。

第5・6学年では、変ロ長調、ホ短調と6/8拍子が導入され、音域は前段階よりF5まで広がる。また、歌詞の内容を理解し、歌詞の表す情景や気持ちを想像し、楽曲に込められた思いを感じ取って歌う。主旋律の流れとリズムを感じ取り、各パートの声と音程と強弱記号に気を付け、伴奏との重なり方を捉えて合唱することが強調される。さらに、歌うことの楽しさを味わい、今後の歌唱の学習に生かせるようにする。

【表2-16】教育出版「音楽のおくりもの」各段階の教材の主な調、拍子、音域と演奏形態

学年	主な調（曲数）			主な拍子	音域	演奏形態
	長調	短調	その他			
1・2	ハ長調(25) ト長調(5) ヘ長調(18)	イ短調(2)	壱越調	2/4・3/4 4/4・2/2	C4～E5	斉唱
3・4	ハ長調(27) ト長調(11) ヘ長調(7) 変ホ長調(2)	イ短調(2) ニ短調(4) ハ短調(1)	壱越調 民謡調 陰旋法	2/4 3/4 4/4 2/2	A3～E5	斉唱 二部合唱 二部輪唱
5・6	ハ長調(13) ト長調(10) ヘ長調(14) ニ長調(4) 変ホ長調(2) 変ロ長調(2)	イ短調(3) ニ短調(1) ハ短調(1) ホ短調(2)	壱越調 陰旋法 陽旋法	3/4 4/4 2/2 6/8	A3～F5	斉唱 二部合唱 三部合唱

(2) 器楽【表2-17】

第1・2学年においては、打楽器のトライアングル・タンバリン・カスタネット・すず・ウッドブロック・ギロが学習内容として紹介される。いろいろな楽器に触れ、自由に音探しと楽器づくりを楽しむ。楽曲に合わせて、リズムを手拍子や楽器で演奏したり、簡単な旋律を演奏したりする。さらに、楽器の扱い方や演奏の仕方に慣れ、鍵盤ハーモニカのハ音からト音の鍵盤位置を理解する。

第3・4学年では、鍵盤ハーモニカの学習が続き、リコーダーの学習内容と日本の伝統楽器の単元が導入される。リコーダーの基本的な演奏の仕方を知り、C4からE5

までの運指に慣れ、楽器パートを演奏する。また、反復や強弱などの記号について注意をしながらアンサンブルを楽しむ。

第5・6学年では、長調と短調の曲想の違いと和音の響きや変化を感じ取る。音楽記号を理解し、スタッカートやアクセントに気を付けて演奏する。また、リコーダー・鍵盤楽器・低音楽器のパートは、各注意点(スラー、フレーズなど)に気を付けて演奏する。さらに、パートの役割や、ほかのパートとのかかわりを意識し、聴き合いながら二部から四部の合奏をする。

【表2-17】教育出版「音楽のおくりもの」各段階に学習する器楽及び音域

学年	楽器	鍵盤 ハーモニカ	リコーダー	
			音域	臨時記号
1.2	トライアングル・タンバリン・カスタネット・すず・ウッドブロック・ギロ・グロッケン・鉄琴・木琴・小だいこ・シンバル・ハーモニカ	C4～C5	なし	なし
3.4	トライアングル・ウッドブロック・鉄琴・木琴・ギロ・マラカス・カウベル・クラベス・大だいこ・小だいこ・シェーカー・アゴゴー・フロアートム・ボンゴ	A11	C4～E5	G#4、D♭5
5.6	木琴・大だいこ・だいこ・スタンドシンバル・シンバル・グロッケン・琴	A11	C4～A5	F#4、G#4、B♭4、D♭5、F#5、G#5

(3) 音楽づくり【表2-18】

第1・2学年では、擬声語や掛け声でリズムをつくり、歌詞に合った音づくりや学習した曲の替え歌づくり、短い旋律をつくりをする。第3・4学年では、簡単なリズム・旋律づくりを楽しむ。物事のイメージをもとに、音楽の要素を生かして音楽づくりに取り組もうとする。また、音階の図表を参考にしながら、リコーダーで即興的に旋律づくりをする。第5・6学年では、イメージに合った音型を使い、反復、問いと答え、循環コードなど音楽の仕組みを活用して和音伴奏や旋律をつくる。また、沖縄の音階やリズムの特徴を感じ取り、旋律づくりをする。

【表 2-18】教育出版「音楽のおくりもの」各段階の創作においてリズムと旋律づくり

学年	リズムづくり	旋律づくり
1・2	擬声語・掛け声を使ったリズムづくり、 替え歌づくり	あり
3・4	3/4・4/4 短いリズムの組み合わせ	あり
5・6	2/4・3/4・4/4	音楽の仕組みのを用いる和音伴奏や旋律づくり

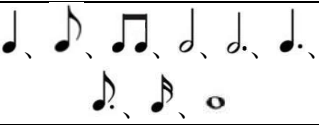
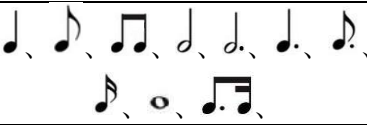



(4)鑑賞

第1から第6学年にわたり、物語の情景や場面と歌詞による曲想の変化を感じ取ったり、登場する人物や動物を表す音楽の特徴、楽器の音色に気を付けて鑑賞する。拍の流れ、リズムや速度、強弱などを聴き取り、繰り返し出てくる旋律に気付き、楽曲全体の雰囲気を楽しむ。また、日本の旋律やリズムに親しみ、お祭りの様子やお祝いの感じを想像しながら、そのよさや面白さを感じ取る。日本や世界のさまざまな国における音楽、特有のリズム、器楽の音色の美しさを感じ取り、楽曲の構造を理解して鑑賞する。

(5)共通事項【表 2-19】

第1・2学年において、4分音符、8分音符、2分音符と4分休符、8分休符を学び、これらの音符と休符の長さを把握させる。また、絵譜を読むこともリズムと五線譜の学習となっている。さらに、絵で反復やフレーズなどの音楽要素を理解する。第3・4学年では、前段階の学習内容を復習としながら、拍子、音階、強弱、音楽記号などの学習内容が加わる。五線譜の学習においては、B3からE5の読譜を学習する。また、楽曲の背景や作曲家などについての知識も習得する。さらに、2/4、3/4、4/4拍子の指揮を学習する。第5・6学年では、音符や休符や音楽記号、へ長調の音階と和音についての学習が行われる。読譜はC3からA5を学習する。さらに、楽曲の反復、問いと答え、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを把握する。そして、6/8拍子の指揮を学習する。

【表 2-19】教育出版「音楽のおくりもの」各段階において学習する音符、休符、記号、音名

学年	1・2	3・4	5・6
音符			
休符			

の学習内容が歌唱を上回った。第5・6学年は、歌曲の流れや背景と込められた思いを感じ取り、音程と強弱などに気を付け、斉唱と二部・三部合唱をする学習内容を中心とする。各器楽のアンサンブルを通して、音楽・変化・強弱記号を把握し、各パートとのバランスを取って二部から四部演奏の合奏をする。また、歌唱・器楽・鑑賞の学習を通して、日本及び他国の伝統音楽・楽器について学ぶ。さらに、音楽の仕組みと曲の構成要素を認識する。

2-2-3 「教育芸術社」と「教育出版」にみる日本の教科書

上述した教育芸術社と教育出版教科書の5つの内容細目について、細目ごとに比較し、その共通点と相違点をまとめる。

(1) 共通点

a. 「歌唱」教材（調、拍子、演奏形態）：まず調の種類から見ると、低学年では両社ともハ長調、ト長調、ヘ長調とイ短調、壱越調の歌曲が使用されている。拍子において、両社とも低・中・高学年では2/4、3/4、4/4拍子の歌曲を中心とする。歌曲の音域において、両社とも低学年はC4からE5まで、中学年はA3まで広がり、高学年はA3からF5までの内容となっている。演奏形態において、両社とも低学年に斉唱、中学年に二部合唱、二部輪唱が加わり、高学年に三部合唱の歌曲が学習内容として取り入れられた。

b. 「器楽」教材（楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダー）：まず、低学年では、両社ともトライアングル、タンバリン、カスタネット、すず、ウッドブロック、鉄琴が使用される。中学年では、両社ともクラベス、大だいこ、小だいこ、トライアングル、ウッドブロック、鉄琴、木琴が使用される。高学年では、両社ともシンバル、琴の学習内容が取り入れられた。次に、鍵盤ハーモニカの学習について、両社とも低学年にC4からC5、高学年に鍵盤をすべて認識して自由に演奏するよう学習する。合奏について、両社とも中学年に二部から三部の合奏曲、高学年に二部から四部の楽曲が配置されている。最後に、リコーダーの学習について、両社とも、第3学年からリコーダーの学習が始まり、中学年にC4からE5まで、高学年にC4からA5の曲を学んで演奏する。

c. 「音楽づくり」教材（リズムづくり、旋律づくり）：リズムづくりの学習について、低学年において、両社とも擬声語、言葉、掛け声でリズムづくりをする。旋律づくりについて、両社とも低・中学年では簡易な旋律をつくる学習内容から始まる。また、高学年では、上行、下行や反復など音楽の構成要素を用い、旋律と和音伴奏をつくる内容となっている。

d. 「鑑賞」教材：低学年では、両社とも物語や歌詞などによる曲想を感じ取り、音色と流れに気を付けながら鑑賞する学習内容を中心とする。中・高学年では、日本伝統

音楽、雅楽、芸能音楽と民謡、祭り音楽と諸外国の音楽が鑑賞の学習内容として紹介されている。

e. 「共通事項」(音符、休符、記号、強弱、読譜、その他)：音符の学習内容において、両社とも低学年では4分音符、8分音符、2分音符の内容から始まり、中学年では付点2分・4分・8分音符・16分音符の内容が加わり、高学年では低・中学年で習得した音符を活用する内容となっている。休符の内容において、両社とも低学年では4分、8分休符を学習内容とする。音楽記号について、両社とも低学年では取り扱っていないが、中学年ではト音記号、小節線、リピート記号、タイ、スタッカート、シャープ、フラット、ブレス記号を導入した。高学年では、両社ともヘ音記号、スラー、アクセント、ナチュラル、速度記号、リピート記号(1、2番かっこ)などの学習内容が取り入れられた。強弱記号について、両社とも中学年から取り扱われ、高学年にメゾフォルテとメゾピアノ、クレシェンドとディミヌエンドが学習内容となっている。音名の読譜について、両社とも低学年ではC4からC5、中学年ではB3からE5までとなっている。高学年では、ヘ音記号の学習内容を導入することにより、音名の読譜はC3からB5までの内容となっている。そのほかの学習内容について、高学年で両社ともハ長調とイ短調のI・IV・V・V₇和音の内容を取り入れた。

(2)相違点

a. 「歌唱」教材(調、拍子、演奏形態)：まず、調の種類について、中学年において、両社ともハ長調、と長調、ヘ長調とイ短調、及び壱越調、陰旋法の歌曲が学習内容として取り入れられた。教育出版では、変ホ長調とニ短調、ハ短調と民謡調の歌曲が加わった。高学年においては、教育芸術社では、ニ長調、変ロ長調とニ短調、及び中国の五音音階(徴)の曲が増加した。一方、教育出版では、ニ長調、変ロ長調とハ短調、ホ短調と陽旋法の曲が導入された。拍子について、教育芸術社の中・高学年と教育出版の高学年では6/8拍子の歌曲が加わった。また、教育出版では、低・中・高学年とも2/2拍子の曲が取り入れられた。

b. 「器楽」教材(楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダー)：両社とも各段階に同じ楽器が使用されるが、低学年において、教育出版では、ギロ、木琴、小だいこ、シンバルギロ、グロッケンが使用される。中学年において、教育出版では、シェーカー、アゴゴ、フロアトム、ボンゴ、ギロ、マラカス、カウベルが使用される。高学年では、スタンドシンバル、グロッケンが使用される。次に、鍵盤ハーモニカの学習について、中学年において、教育芸術社ではC4からE5までの音域の演奏を学習する。一方、教育出版では、鍵盤をすべて認識して自由に演奏するよう学習する。最後に、リコーダーの学習について、中学年において、教育芸術社ではF#4、F#5の運指を学ぶ。教育出版では、G#4、D♭5の運指を学習する。

c.「音楽づくり」教材(リズムづくり、旋律づくり):リズムづくりの学習について、低学年において、教育芸術社ではリズムパターンを組み合わせる学習内容がある。中学年において、教育芸術社では、2/4、4/4 拍子のリズムづくりをする。教育出版では、3/4、4/4 拍子のリズムパターンを組み合わせる学習内容となっている。高学年において、教育芸術社では、2/4、4/4 拍子のリズムづくりの学習が続く。一方、教育出版では、2/4、3/4、4/4 拍子リズムをつくる内容となっている。

d.「共通事項」(音符、休符、記号、強弱、読譜、その他):休符の学習内容において、中学年では、両社とも全休符を取り扱っているが、教育芸術社は2分休符と16分休符も学習内容に取り入れる。高学年では、教育芸術社は前段階と同様であるが、教育出版は16分休符を導入する。音楽記号について、高学年では、教育出版は省略記号とトレモロ記号の学習内容が加わった。強弱記号について、中学年において、両社ともクレシェンドとディミヌエンドの内容があるが、教育芸術社では、メゾフォルテとメゾピアノも取り入れた。そのほかの学習内容について、中学年において、教育芸術社ではハ長調とイ短調音階、切分音が取り入れられ、教育出版では問いと答えという旋律を構成する手法、及び2/4、3/4、4/4 拍子の指揮が学習内容となっている。高学年において、教育芸術社ではヘ長調とニ短調の音階、終止形、曲の構成の要素などを導入した。一方、教育出版ではハ長調とイ短調の音階、6/8 拍子の指揮が学習内容となっている。

2-3 まとめ

本章では、台湾の小学校で使用されている「翰林」と「康軒」の「芸術と人文」教科書における音楽の学習内容を「歌唱」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」、「音楽知識・音感・読譜」・「総合的な学習」の各項目に分けた。それに対して、日本の小学校で使用されている「教育芸術社」(小学生のおんがく)と「教育出版」(音楽のおくりもの)の教科書における音楽の学習内容を「歌唱」、「器楽演奏」、「音楽づくり」、「鑑賞」、「共通事項」の各細目で区分した。また、各教科書ごとに各項目や細目を分析し、考察を行った。さらに、各項目と細目を細分して比較することを通して、台湾の「芸術と人文」の2つの教科書の共通点と相違点を見出し、それらの教科書の内容と傾向を把握した。また、日本の音楽科教科書の教材内容においても同様、それらの共通点と相違点を明らかにした。なお、次章では、台湾と日本の教科書における学習内容の比較を行い、それぞれの教材内容の共通点と相違点を明らかにする。

第3章 台湾と日本の小学校における音楽教育の共通点と相違点

本章では、第1章と第2章で述べてきた台湾の九年一貫の「芸術と人文課程綱要」と日本の音楽科の「学習指導要領」を「課程目標」、「学習段階」、「授業時数」と「学習内容」の4点について比較する。また、台湾と日本の教科書の教材内容について、構成及び「歌唱」、「器楽」（器楽演奏）、「音楽づくり」（創作）、「鑑賞」、「共通事項」（音楽知識・音感・読譜）の5つの細目で比較することを通して、それぞれの共通点と相違点を明らかにする。

3-1 「芸術と人文課程綱要」と「学習指導要領」の比較

本節では、「目標」、「学習段階」、「授業時数」と「学習内容」の4点から、芸術と人文課程綱要（音楽学習）と「学習指導要領」を比較し、共通点と相違点を見出す。

3-1-1 課程目標

台湾の芸術と人文課程の目標は、「探求と表現」と「審美と理解」と「実践と応用」の3つの観点に基づき、児童の音楽知識と技能を育成し、積極的に文芸活動に参加することを促進することである。また、音楽の鑑賞能力を向上させると同時に、学習内容を実生活と関連させ、応用できるようにする。さらに、生活における情趣を感じさせ、芸術に関する潜在能力を啓発させ、健全な人格を発展させることである。

一方、日本の音楽科の目標は、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、音楽活動の基礎的な能力を培い、鑑賞の能力と豊かな情操を養うことである。

(1) 共通点

台湾の「綱要」と日本の「学習指導要領」を比較すると、言葉の表現は異なるが、3つの共通点があることが分かる。それは「認知」、「技能」、「情意」（感受性）の側面から窺うことができる。まず、「認知」の観点において、積極的に文芸活動に参加し、音楽を愛好する心情を育てることが強調されている。また、「技能」において、芸術と人文課程の表現と実践の面では、両方とも児童の基礎的な音楽知識と技能を育成するという目標を持っている。さらに、「情意」（感受性）の面において、音楽の鑑賞能力を向上させ、音楽を味わうことが重要である。

(2) 相違点

上述した共通点があるものの、目標の全体から見ると、日本の音楽科においては、音楽の学習をすることが主体となっている。一方、台湾の芸術と人文課程において

は、音楽学習を手段としていると考えられる。

日本の音楽科は学習活動を通して、音楽の知識と技能を修得し、音楽を愛好する心情を持ち、鑑賞能力を向上する目標が設定されている。それに対して、台湾の芸術と人文課程は、学習活動を通して、児童の芸術に関する潜在能力を啓発させ、音楽の学習内容を実生活と関連させ応用できることを強調している。さらに、生活における情趣を感じ、健全な人格を発展させる目標が定められている。

3-1-2 学習段階

(1) 共通点

台湾と日本の学習段階とも、第1・2学年、第3・4学年、第5・6学年という低・中・高学年の3段階に分けられている。

なお、本項目には相違点が見当たらない。

3-1-3 授業時数

本項目では共通点がなく、相違点を中心に記述する。

(1) 相違点

まず、1時限の長さに違いがある。台湾の小学校では、1時限は40分であるが、日本の小学校では1時限は45分である。また、時間数について、台湾の小学校において、年間40週に第1・2学年の音楽授業は40時間である。小学校によって異なるが、第3から第6学年の音楽授業は40から80時間となっており、ばらつきが目立っている。一方、日本の小学校において、第1学年の年間34週に音楽授業は68時間である。第3から第6学年の音楽授業は35週に50から60時間である。【表3-1】のように、台湾と日本の小学校における各学年の音楽授業時間数から見ると、低学年において、台湾の音楽授業時間数は日本より少ない。また、台湾の音楽授業時間数が学年につれて増加する。それに対して、日本では、学年につれて減少する傾向がある。

【表3-1】台湾と日本の小学校における各学年音楽授業の時間数

学年	1	2	3	4	5	6
台湾	40	40	40-80	40-80	40-80	40-80
日本	68	70	60	60	50	50

3-1-4 学習内容

(1) 共通点

台湾の音楽についての「基本学習内容要項」は「歌唱」、「器楽演奏」、「創作」、「鑑

賞」、「音楽知識」、「音感」、「読譜」である。一方、日本の「学習指導要領」に定めている音楽の学習内容は、「表現」と「鑑賞」及び「共通事項」の3つの細目である。しかし、台湾と日本の内容要項と細目を照らし合わせると、一致していると考えられる。

(2)相違点

まず、台湾の「綱要」において、音楽のみの学習内容についての陳述はないが、「綱要」の実施要点及び「付録」では、音楽のみの学習内容要項が設けられている。また、各学習段階ではどのような学習内容を習得することが定められている。一方、日本の「学習指導要領」では、音楽の学習内容は系統的に定められ、低学年から高学年まで順序良くに展開させていると考えられる。また、学年ごとに、共通教材が設定されていることも特徴的である。

また、台湾の「綱要」と「付録」による音楽学習内容において、自らの思いや感情を他の人と分かち合い、協力し合いながら表現・創作する力を高め、地域との繋がりについて着目する。鑑賞では、作者や演奏者などを尊重するという倫理的な面に関する学習も取り上げている点は独特である。それに対し、日本の音楽学習内容において、思いを他人と分かち協力し合うことや地域との繋がりよりも、生徒各自の音楽の基礎的な表現と鑑賞の能力を重視していると考えられる。

3-2 台湾と日本の教科書内容の比較

第2章での台湾の二社と日本の二社それぞれの内容の比較を通して、本節では、台湾と日本の音楽科教科書について学習内容の共通点と相違点を明らかにする。

まず、台湾では毎学年に教科書が2冊であり、音楽、図工、パフォーマンスについての学習内容が含まれている。一方、日本では毎学年に教科書が1冊であり、全てが音楽の学習内容である。また、内容の構成について、台湾の教科書はテーマで単元が分かれている。一方、日本の教科書は学習内容で題材が分かれている。さらに、前章の分析による全体的内容の割合から見ると、台湾の教科書では、歌唱と鑑賞の内容を重視している。それに対し、日本の教科書では、歌唱と器楽を重視していることが分かる。次に、5つの細目から学習内容の比較を行う。

3-2-1 歌唱

歌唱の学習内容について、使用される歌曲の調、拍子や演奏形態などで比較を行う。

(1)共通点

まず、歌曲の拍子について、台湾と日本の教科書とも、第4学年と高学年に複合拍子の曲が配置された。歌曲の調について、中学年から台湾と日本の教科書とも曲の調の種類が増加した。それぞれ伝統歌曲の五音音階や民謡調などが取り入れられ

た。演奏形態について、台湾と日本の教科書とも、低学年に斉唱、中学年に斉唱・二部合唱・輪唱、高学年に斉唱・二部合唱・輪唱、三部合唱という学習内容が配置されている。

また、低学年において、台湾と日本とも歌曲のリズムを感じ取り、遊びを中心とした身体活動をしながら歌う学習内容となっている。中・高学年において、自国と諸国の伝統音楽や民謡や古謡などが取り入れられた。

(2)相違点

まず、歌曲の拍子について、低学年において、台湾の教科書で載っている曲はほぼ 2/4 と 4/4 拍子で、3/4 拍子の曲は中学年から導入される。一方、低学年において、日本の教科書に載っている曲はほぼ 2/4、3/4、4/4 拍子である。また、歌曲の調について、低学年において、台湾の教科書にある曲は全てハ長調とイ短調である。それに対し、日本の教科書にはハ長調、ト長調、ヘ長調、イ短調の曲が掲載されている。歌曲の音域について、台湾の低学年から高学年はほぼ G3 から E5 までの歌曲が使用されている。一方、日本において、低学年では C4 から E5、中学年では A3 から E5、高学年では A3 から F5 の歌曲が使用されている。さらに、日本の教科書では、物語や各地域の景色と史跡などに関わっている歌曲が使用されている。

3-2-2 器楽(器楽演奏)

器楽の学習内容では、使用される楽器及び演奏する音域について比較する。

(1)共通点

打楽器の学習内容について、低・中学年では、台湾と日本ともほとんどカスタネット・トライアングル・すず・タンバリンが使用されている。また、伝統音楽について学習内容の導入と共に、中学年から高学年にかけて、台湾と日本の教科書では、伝統楽器の学習が取り入れられた。なお、リコーダーの内容について、台湾と日本の教科書とも第3学年にリコーダーの学習内容が取り入れられた。曲の音域について、中学年では、演奏する曲の音域はほぼ C4 から E5 までである。高学年では、ほぼ A5 までの学習内容となっている。

(2)相違点

打楽器の学習内容について、台湾では低・中・高学年とも木魚が使用されている。一方、日本では木魚が使用されないが。台湾ではウッドブロックの代わりに、木魚を使用すると考えられる。

また、鍵盤ハーモニカの学習について、台湾の翰林教科書のみ、第5学年に導入した。一方、日本の教科書では、第1学年にすでに配置されている。リコーダーの学習内容について、楽曲により、台湾と日本では、臨時記号がある音の学習内容はそれぞれである。さらに、日本の教科書では、多数な楽器が使用される合奏や二部、

三部、四部合奏の楽曲は数多い。それに対し、台湾の教科書では、ほとんど斉奏と二部合奏の楽曲である。なお、日本の教科書の付録に、リコーダーの運指表が載せられている。図表により、高学年の児童が自主的運指を学習することができると考えられる。

3-2-3 音楽づくり(創作)

音楽づくりについて、リズムと旋律づくりの学習内容について比較する。

(1) 共通点

リズムづくりの学習内容について、台湾と日本とも低学年の教科書において、擬声語や擬音語や掛け声などを用いる歌詞づくり及び替え歌づくりを学習内容として取り入れた。中・高学年では、台湾と日本とも 2/4・3/4・4/4 拍子のリズムをつくり、リズムパターンを組み合わせる学習内容が導入された。

(2) 相違点

リズムづくりの学習内容について、日本の低学年の教科書では、2/4 と 4/4 拍子のリズムパターンを組み合わせる学習内容が配置された。また、旋律づくりの学習内容について、日本の教科書では、低学年から旋律づくりの内容を配置しているが、台湾の教科書では旋律づくりの内容は中学年からである。高学年において、台湾の旋律づくりは反復や反復進行や問いと答えなどの要素が利用される。日本では、音楽の仕組みの要素を用いる旋律づくり、及びハ長調とイ短調の和音での伴奏づくりが学習内容として取り入れられた。さらに、全体の学習内容から見ると、台湾では各音楽の要素を学習し、それらの要素を使って 2 から 4 小節の音楽をつくる学習内容となっている。一方、日本では各段階の学習内容は学習した音楽の要素を含めて活用し、高学年までは 8 から 16 小節の学習内容を用いる。

3-2-4 鑑賞

鑑賞について、それぞれの学習内容について比較を行う。

(1) 共通点

鑑賞の学習内容について、中学年から高学年につれて、伝統楽器と西洋の楽器が紹介される鑑賞曲が増加する。楽曲の曲想、特徴と器楽の音色に気付き、表す情景と場面の様子を浮かべながら、イメージを膨らませる。また、感じ取った雰囲気やイメージや自らの思いを他人と分かち合い、また文字で表す内容となっている。

(2) 相違点

台湾の教科書の内容について、鑑賞する楽曲はほとんどそれぞれ単元のテーマに沿って、テーマに関連ある教材内容が取り入れられた。一方、日本の教科書の内容に

について、鑑賞する楽曲の種類が様々であり、昔話や物語などを基にする楽曲を鑑賞する学習内容となっている。

3-2-5 共通事項(音楽知識・音感・読譜)

共通事項について、音符、休符や音楽・強弱記号や読譜などの学習内容について比較を行う。

(1) 共通点

台湾と日本とも全体的な共通事項の学習内容は、「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の学習活動で構成されていると考えられる。それらの学習活動を通して、音符、休符、音楽・強弱記号のみならず、楽曲の背景や作曲家、音楽知識、楽曲の流れと構成なども学習内容として伝えられている。また、各学習段階で前段階の内容を復習しながら新たな内容が導入される。

(2) 相違点

音符の学習内容について、低学年から高学年において、台湾と日本の全体的な内容は類似している。しかし、台湾の教科書では、8分音符と16分音符を組み合わせた学習内容が中学年から取り入れられる。一方、これは日本の教科書では高学年から取り入れられる。また、台湾と日本の休符の学習内容は類似しているものの、全休符、2分休符と16分休符を教科書に導入する時期は異なる。

次に、音楽記号の学習内容について、台湾と日本の教科書ともに中学年から導入し、中学年で学習内容は類似している。しかし高学年において、日本の教科書では、台湾の学習内容にはないヘ音記号の内容が用いられている。強弱記号の学習内容について、台湾の教科書では、フォルテとピアノ記号が低学年に取り入れられる。それに対し、日本の教科書では中学年に用いられている。

読譜の学習内容について、低中学年では、台湾と日本ともに同様な音域の読譜内容となっている。しかし、高学年教科書において、ヘ音記号の学習が導入されることにより、日本では台湾にないC3からA3までの読譜内容を用いていると考えられる。

そのほか、音階と和音の学習内容は、台湾と日本ともに取り扱っているが、和音の学習内容を導入する段階について、台湾では中学年からであるが、日本では高学年からである。台湾では和音を認識してから、I・IV・V度の聞き分け及び転回形を利用し、主旋律にふさわしい和音を合わせる。その一方、日本では和音I・IV・V・V₇度を認識してから、和音と低音の伴奏づくりを学習する。また、台湾より日本の方が楽曲の縦と横を構成する要素についての学習内容が多く取り入れられていると考えられる。

さらに、台湾の翰林の第5学年教科書のみ、音楽とパフォーマンスに関する総合

的学習内容が取り入れられている。楽曲を鑑賞してから、楽曲の中のリズムと旋律パターンに基づく音楽づくりをする。また、自ら創作したリズムと旋律を利用し、グループごとにロールプレイをするという内容となっている。

3-3 まとめ

第1・2章の分析と考察及び本章での比較を通して、台湾と日本における音楽学習に関する目標や内容などそれぞれの共通点と相違点を明らかにした。これまでの内容を次のようにまとめる。

台湾と日本における音楽学習の目標はともに音楽を愛好する心情を育てること、基礎的な音楽知識と技能を育成すること、及び音楽の鑑賞能力を向上させることを重視する。ただし、台湾の音楽学習の目標は学習した内容を実生活と関連させ、応用できること、また、学習を通して潜在能力を啓発し健全な人格を発展することを強調している。音楽の学習段階について、台湾、日本とも同様であるが、授業時数については、低・高学年は異なる。しかし、各学年を合わせた授業総数はほぼ同じであると考えられる。音楽の学習内容において、日本では、「学習指導要領」に学習内容が定められている。一方、台湾の「綱要」では音楽のみの学習内容はないが、「綱要」の「付録」に記載されている。また、台湾と日本とも「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」、「共通事項」の学習内容が設けられている。

教科書における学習内容について、歌唱において、台湾と日本ともに低学年に遊び歌を中心としている。中・高学年で自国と諸国の伝統音楽や民謡などが取り入れられ、斉唱、二部合唱・輪唱、三部合唱の形態の歌曲を用いる。ただし、低学年では歌曲の調、及び各学年では学習する音域が異なる。器楽において、台湾と日本ともに低学年では打楽器の学習内容を中心としている。第3学年からリコーダーの学習が導入され、学習する音域もほぼ同じである。異なる部分は、日本では鍵盤ハーモニカの学習内容が設けられている。また、リコーダーの臨時記号について、台湾と日本の学習内容はそれぞれ異なっている。さらに、台湾と比べると、日本では器楽合奏や二部、三部、四部合奏の楽曲が多く取り入れられている。音楽づくりにおいて、台湾と日本ともに低学年では擬声語や擬音語などを用いる歌詞づくり及び替え歌の学習を中心としている。中・高学年では2/4・3/4・4/4拍子のリズムをつくり、リズムパターンを組み合わせる学習内容を取り入れている。ただし、台湾の学習内容は日本のように、学年ごとに学習した内容を活用して深まっていくのではないと考えられる。鑑賞において、台湾と日本とも楽曲の曲想、器楽の音色に気付き、表す情景様子を浮かべながら、イメージを膨らませる。また、自らの思いを他人と分かち合う学習内容を中心としている。ただし、日本では鑑賞する楽曲の種類が様々であり、台湾では単元テーマに関連ある教材内容が取り入れられている。共通事項に

において、全体的な学習内容は台湾と日本ともに、「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の学習活動を通して構成されている。異なる部分は、8分音符・16分音符と全休符、2分休符・16分休符と強弱記号の学習内容が導入される学年である。また、日本ではへ音記号の学習内容は鍵盤ハーモニカと共に取り入れられるため、読譜の内容は台湾より多いと考えられる。音階と和音の学習内容について、台湾と日本ともに取り入れているが、比較すると、日本は台湾より学習した内容を活用して音楽づくりをする内容が多いことが分かった。

終章

台湾の「芸術と人文」課程には児童生徒の聴覚と視覚などの諸感覚を同時に働かせ、感受性や表現力を豊かにするというねらいが含まれている。しかしながら、序章に示しているように、そのような統合された課程では、単一の教科の音楽科より音楽の知識と技能の蓄積ができていない、音楽の学習量が不十分な可能性がある。また、音楽の学習内容の応用の幅が狭く、系統性が欠けていることも考えられる。

そこで、本章では、第1章から第3章の分析、考察を含め、それぞれの共通点と相違点を検討し、それにより、「芸術と人文」における音楽学習についての問題点への改善策の提案を図る。ここでは、まず第1章から第3章までの考察内容を簡単にまとめる。

第1章では、台湾の「芸術と人文」課程綱要と日本の音楽科の「学習指導要領」において、それぞれの音楽に関する課程目標、学習段階、授業時数と学習内容を分析して述べた。第2章では、台湾の翰林と康軒の「芸術と人文」教科書と日本の教育芸術社と教育出版の音楽科教科書において、音楽学習に関する内容を各学習段階の学習項目で分析・考察し、それらの教科書の内容と傾向を把握した。第3章では、台湾と日本における小学校の音楽学習について全体的に比較し、それぞれの共通点と相違点を見出した。

第1章から第3章までの分析、考察及び比較した結果、台湾の「芸術と人文」における音楽学習には3つの問題点を挙げることができる。一、音楽の学習内容に系統性が欠けていること、二、音楽の学習内容の応用の幅が狭いこと、三、低学年の歌唱教材の音域は適切ではないこと、の3点である。

本章では、その3つの問題点の詳細について説明し、さらに、日本の音楽科の学習内容を参考しながら、上記の3つの問題点への改善策を提案する。

4-1 台湾の「芸術と人文」の音楽学習における問題点

本節では、前述の3の問題点について実例を取り上げながら説明していく。

(1) 「音楽の学習内容に系統性が欠けていること」について

音楽知識の獲得と読譜の訓練では、台湾と日本の第1・2学年の教科書の学習内容がほぼ同じであることが分かる。音符と休符の学習について、第1・2学年で台湾と日本ともに2分音符・4分音符・8分音符と4分休符がリズム演奏と創作という2つの学習内容として取り入れられている。第3学年になると、日本の音楽教科書では第1・2学年の学習内容より難易度の高い付点2分音符・付点4分音符の学習内容へ進む。一方、第3学年の台湾の「芸術と人文」教科書では、上記の第1・2学年の学習内容とほ

ば重複しており、2分音符・4分音符・8分音符と4分休符の紹介と学習から始まっている。

読譜についての学習内容も同様な状況である。第1・2学年に康軒出版の教科書だけはC4からA4までの音域を持つ教材を取り入れているが、翰林出版と日本の教科書はともにC4からC5までの1オクターブの音域を持つ教材を学習する。第3学年になると、日本の音楽教科書ではC4からC5の読譜の学習内容を含む演奏と創作の活動を行うのに対し、台湾の「芸術と人文」教科書では、再び五線譜を紹介し、C4からA4までの音名の読譜の内容を学習する。

以上のことから、台湾の第3学年の「芸術と人文」においては、第1・2学年の生活課程における読譜学習の内容を踏まえ、より難易度の高い学習内容を進めることができていない。第1・2学年の学習内容とほぼ重複しているため、低学年から中学年に移行する際に順次に難易度を高めておらず、学習内容に系統性が欠けていると考えられる。

(2)「音楽の学習内容の応用の幅が狭いこと」について

各細目の学習内容を比較すると、台湾の音楽の学習内容は日本ほど掘り下げられていないと考えられる。台湾と日本ともに同様な音楽知識や技能、器楽などの学習内容があったにも関わらず、台湾の音楽学習では、習得した内容をさらに応用していく学習内容が少ない。

例として器楽演奏についての学習内容を取り上げる。日本の音楽科において、低学年と中学年では打楽器、鍵盤ハーモニカとリコーダーの合奏を行う。高学年になると、様々な器楽を用いた二部、三部合奏または四部合奏の学習内容が次第に増えている。一方、台湾の場合は日本と同様に打楽器とリコーダーの学習が取り入れられるにもかかわらず、低学年から高学年までの教科書を通してみると、楽器の合奏教材内容は少ない。また、合奏教材は1曲をすべて演奏するものではなく、曲の一部の数小節だけ取り出され、その部分を合奏するのみである。

それ故に、台湾の「芸術と人文」において、音楽の学習内容では応用の幅が狭いと考えられる。

(3)「低学年の歌唱教材の音域は適切ではないこと」について

第1章に述べたように、第1・2学年において、翰林と康軒では歌唱の曲はほぼハ長調である。また、両社ともG3 また A3 までの歌曲がそれぞれ18曲採用されている。しかし、先行研究で指摘されているように第1・2学年の児童にとって最も適切な音域はD4からD5であることを考えると(竹内 2009:14)、翰林と康軒に掲載されている第1・2学年の一部の歌曲の音域は低く、適切ではないことが分かる。

以上のことから、日本の音楽科と比較した結果、台湾の「芸術と人文」における音楽学習に抱えている3つの問題点が明らかになった。次節では、3つの問題点についての改善策を提案する。

4-2 問題点への改善策の提案

(1) 「音楽の学習内容に系統性が欠けていること」への改善策

序章で述べたように、第1・2学年「芸術と人文」の内容は「生活課程」に含まれている。そのため、第1・2学年の「生活課程」と第3学年の「芸術と人文」それぞれに含まれている音楽の教材内容は順序立てて配置される必要があると考えられる。具体的な改善策としては次のようなものが挙げられる。

第1・2学年「生活課程」教科書ではこれまでの学習内容を変更せず、第3学年ではすでに習得した音符と休符を創作と器楽演奏の要素として復習する。読譜の内容について、第3学年の「芸術と人文」の教科書では、第1・2学年に習得した内容と重複させない。日本の教科書に載せる楽譜のように、音符に階名をつける。また、リコーダー演奏の学習内容と共に、C4からC5までの読譜を身につけさせる。

(2) 「音楽の学習内容の応用の幅が狭いこと」への改善策

深めていく音楽学習の内容が少ないことの原因を追究すると、台湾の「芸術と人文」の教科書がテーマで単元を分けていることにあるのだと考えられる。本来、音楽の学習内容を設定する際に、すでに学習した内容を踏まえて検討し、新たな学習内容を加えることを考慮すべきである。しかし、台湾の「芸術と人文」では音楽学習の内容を設定する際に、学習内容の縦のつながりより、単元テーマに一致しているかということを重視していると考えられる。

この問題点への改善策について、「芸術と人文」における音楽の学習教材の編集において、まず、器楽教材の増加が必要であると考えられる。また、それぞれの楽器の学習時間を設けることに留まらず、楽器間に合奏することも楽器を習得する過程に重要であるとする。具体的に、中学年の歌唱とリコーダーの学習内容に、低学年で既習した打楽器の内容を加える。その際に曲を断片的に合奏するではなく、曲ごとを教材として合奏できるように取り入れる必要がある。また、高学年では用いられている2部合唱と輪唱、3部合唱の学習内容にリコーダーと様々な打楽器を加わる学習内容を増えていくべきである。

(3) 「低学年の歌唱教材の音域は適切ではないこと」への改善策

日本の低学年の歌曲のように、現在台湾の教科書に用いる歌曲の調はハ長調にこだわらない。従って、台湾の教材においても、音域が低いや高い歌曲をなるべく移調し、

児童にとってふさわしい音域の歌曲を取り入れるべきである。もし単元テーマに応じて音域の適切な歌曲が存在しなければ、新たに教材を作り上げる工夫をしなければならないのであろう。

以上のように、台湾の「芸術と人文」における音楽学習と日本の音楽科の分析・考察・比較を通して、台湾の音楽学習における問題点を明らかにした。また、問題点への改善策も提案した。しかし、本論では、現行の複数の芸術教科を統合した「芸術と人文」の内容を学習することにより、児童の感受性と表現力がより豊かになったかどうかの検証はまだできていないため、今後の課題にしたい。

引用・参考文献 (アルファベット順)

日本語文献

- ・浅香 淳編(1983)『小学校音楽教育講座 第2巻 音楽教育の歴史』東京;音楽之友社
- ・福本 謹一(1983)「芸術教育における統合をめぐる一アメリカの芸術による学際的アプローチの事例と課題」『兵庫教育大学研究紀要 第2分冊, 言語系教育・社会系教育・芸術系教育4』, 兵庫教育大学, pp. 75-87
- ・初田 隆(2010)「『総合的な芸術教育プログラム』開発」『美術科教育学会誌 (31)』, 美術科教育学会, pp. 291-304
- ・井上 朋子(2010)「図画工作科と音楽科の合科的な指導に関する研究」『美術科教育学会誌 (31)』, 美術科教育学会, pp. 67-81
- ・井上 朋子(2011)「音楽科と図画工作科の横断的プログラムの構築」『音楽教育実践ジャーナル 8(2)』, 日本音楽教育学会, pp. 54-61
- ・片上 宗二, 木原 俊行編(2001)『新しい学びをひらく総合学習』京都;ミネルヴァ書房
- ・河口 道朗(1983)「第5章 戦後の音楽教育」『小学校音楽教育講座 第2巻 音楽教育の歴史』浅香 淳編, 東京:音楽之友社, pp. 95-132
- ・小島 律子(2002)「他教科とのかかわりが問題となってきた背景」『音楽科と他教科とのかかわり』東京;音楽之友社, pp. 8-12
- ・劉 麟玉(2005)『植民地下の台湾における学校唱歌教育の成立と展開』東京;雄山閣
- ・劉 麟玉(2011)「『音楽』から『藝術與人文(芸術と人文)』への試み:台湾における統合的芸術教育の実施と現状」『日本学校音楽教育実践学会紀要 15』, 日本学校音楽教育実践学会, pp. 257
- ・松永 洋介, 永田 尚子, 西園 芳信, 小島 律子 (2000)「音楽科と他教科との関わり」『日本学校音楽教育研究会紀要 4』, 日本学校音楽教育実践学会, pp. 10-18
- ・宮本 賢二郎 (2011)「多文化音楽教育における教科連携の視点—『生きる力』と音楽教育」『音楽教育実践ジャーナル 8(2)』, 日本音楽教育学会, pp. 82-89
- ・文部科学省(2008)『小学校学習指導要領』東京;東京書籍
- ・文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説—音楽編』東京;教育芸術社
- ・日本学校音楽教育実践学会(2002)『音楽科と他教科とのかかわり』東京;音楽之友社
- ・西園 芳信(1989)「音楽科のカリキュラム構成についての考察」,『東京学芸大学紀要 第5部門, 芸術・体育 41』, 東京学芸大学, pp. 71-89
- ・西園 芳信(2000)「学校の教育課程における『教科学習』と『総合的な学習』の相違と関連についての考察」,『鳴門教育大学研究紀要 教育科学編 15』, 鳴門教育大学, pp. 149-157
- ・小田 豊(2003)「音楽のカリキュラムの改善に関する研究—諸国の動向—」『「教科等の構成と開発に関する調査研究」研究成果報告書(15)』, 国立教育政策研究所
- ・奥 忍(2011)「アジアの動向から音楽科と他教科の連携の方向を探る—台湾をてがかりに」『音楽教育実践ジャーナル 8(2)』, 日本音楽教育学会, pp. 90-97
- ・奥 忍, 頼 美鈴, 宮本 賢二郎, 井上 朋子(2012)「パネルディスカッション 芸術関連諸教科の統合的アプローチの検討:ドイツと台湾の例を参照しながら(第43回大会報告)」『音楽教育学 42(2)』, 日本音楽教育学会, pp. 52-56

- ・佐々木 宰, 福田 隆眞 (2011)「台湾の小学校における芸術教育の教育課程と実践状況」『北海道教育大学釧路校研究紀要 第43号』, pp. 87-94
- ・初等科音楽教育研究会 (2011)『最新初等科音楽教育法(改訂版)』, 音楽之友社
- ・白石 文子, 高田 美穂子, 後藤 珠美 (2000)「音楽学習における総合化のアプローチ」『日本学校音楽教育研究会紀要 4』, 日本学校音楽教育実践学会, pp. 81-87
- ・供田 武嘉津(1996)『日本音楽教育史』東京; 音楽之友社
- ・竹内 秀男(2009)『変声期と合唱指導のエッセンスー授業で聴かせたい変声の様子』東京; 教育出版
- ・曹念慈 (Tsao, Nien-Tzu) (2004)「台湾と日本の学習指導要領の比較研究:音楽科を中心に」『音楽文化教育学研究紀要 16』, 広島大学, pp. 91-109
- ・曹念慈 (Tsao, Nien-Tzu) (2005)「芸術統合カリキュラムに関する一考察ー台湾の「芸術と人文学習領域」と日本の「表現科」の理論と実践を通して」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領域 (54)』, 広島大学大学院教育学研究科, pp. 407-416
- ・曹念慈 (Tsao, Nien-Tzu) (2005)「教科書『Silver Burdett Making Music』の低学年の内容からみる諸芸術教科を統合する方法」『音楽文化教育学研究紀要 17』, 広島大学, pp. 11-19
- ・上原 一明, 陳 盈君, 福田 隆眞(2009)「台湾の小学校における『芸術と人文』教育課程の実践調査 その1ー蘆洲小学校の例」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第28号』, pp. 49-59
- ・山ノ口 寿幸(2008)「台湾『国民中小學九年一貫課程綱要』の策定と七大学習領域の誕生ーカリキュラムスタンダードからカリキュラムガイドラインへー」『国立教育政策研究所紀要 137』, 国立教育政策研究所, pp. 261-270
- ・安田 寛(2011)「草稿『教科の連携についてのユートピア』ーまとめにかえて」『音楽教育実践ジャーナル 8(2)』, 日本音楽教育学会, pp. 112-115

中国語文献

- ・陳雅芸(Chen, Ya-Yun), 林朱彦(Lin, Chu-yen) (2005)「藝術與人文學習領域能力指標內涵之「停、看、聽」, 『國教之友・第58卷第2期』, 國立臺南大學國教之友社/財團法人國立臺南大學校務發展文教基金會, pp. 88-94
- ・中華民國教育部(2003)『國民中小學九年一貫課程綱要 - 藝術與人文學習領域』
http://teach.eje.edu.tw/9CC2/9cc_97.php?login_type=1 (2015年1月にアクセス)
- ・謝苑玫(Hsieh, Yuan-Mei) (1999)「音樂課程的改革與創新」『「迎向千禧年新世紀中小學課程改革與創新教學學術研討會」論文集』, 台灣國立高雄師範大學, pp. 189-196
- ・徐麗紗(Hsu, Li-Sha) (2008)「音樂教育篇ー臺灣近現代音樂教育綜觀」『臺灣藝術教育史』, 國立台灣藝術教育館, pp. 1-104
- ・郭凱怡(Kuo, Kai-Yi) (2005)「台灣小學音樂課程標準. 課程綱要與香港小學音樂科課程綱要之比較分析」, 台北市立教育大學音樂藝術研究所
- ・賴美鈴(Lai, Mei-Ling) (1999)「九年一貫音樂課程的構思」『國民中小學九年一貫課程「音樂課程與教學」研討會手冊』, 國立台北師範學院, pp. 5-12

- ・賴美鈴(Lai, Mei-Ling) (2001)「藝術與人文領域的音樂課程設計探究」『國際藝術教育學會－亞洲地區學術研討會論文集』, pp. 272-280
- ・劉英淑(Liu, Ying-Shu) (1995)「國民小學音樂科新課程的精神與特色及實施之相關配合作法」『研習資訊 第12期 第5卷』, 國家教育研究院, pp. 33-40
- ・孫嘉紋(Sun, Chia-Wen) (2001)「九年一貫藝術與人文學習領域課程統整之研究」, 國立臺灣師範大學藝術研究所

考察対象とした小学校の教科書

日本の教科書

- ・教育芸術社:
小学生のおんがく 1 (平成 25 年発行)、
小学生の音楽 2～6 (平成 25 年発行)
- ・教育出版:
小学音楽おんがくのおくりもの 1 (平成 25 年発行)、
小学音楽 音楽のおくりもの 2～6 (平成 25 年発行)

台湾の教科書

- ・翰林出版:
國民小學生活 1 上 (平成 25 年発行)、國民小學生活 1 下 (平成 26 年発行)、
國民小學生活 2 上 (平成 25 年発行)、國民小學生活 2 下 (平成 26 年発行)、
國民小學藝術與人文 3 上 (平成 25 年発行)、國民小學藝術與人文 3 下 (平成 25 年発行)、
國民小學藝術與人文 4 上 (平成 25 年発行)、國民小學藝術與人文 4 下 (平成 26 年発行)、
國民小學藝術與人文 5 上 (平成 25 年発行)、國民小學藝術與人文 5 下 (平成 25 年発行)、
國民小學藝術與人文 6 上 (平成 26 年発行)、國民小學藝術與人文 6 下 (平成 26 年発行)
- ・康軒文教事業:
生活 1 上 (平成 25 年発行)、生活 1 下 (平成 26 年発行)、
生活 2 上 (平成 24 年発行)、生活 2 下 (平成 25 年発行)、
藝術與人文 3 上 (平成 23 年発行)、藝術與人文 3 下 (平成 24 年発行)、
藝術與人文 4 上 (平成 24 年発行)、藝術與人文 4 下 (平成 25 年発行)、
藝術與人文 5 上 (平成 25 年発行)、藝術與人文 5 下 (平成 26 年発行)、
藝術與人文 6 上 (平成 26 年発行)、藝術與人文 6 下 (平成 25 年発行)

謝辞

本論文を作成するにあたり、多くの方々の支えがあったことに心より感謝し、お礼申し上げます。

指導教員である劉麟玉先生は、修士課程の2年間にわたり、公私問わず支えてくださり、相談に乗ってくださいました。本論文に関しては、テーマ設定から進め方、取りまとめに至るまで並々ならぬご指導を賜りました。また、私の語彙力不足で、なかなか思ったことをうまく表現できず、もどかしい思いをしていた時にも、先生は話し合いの中で、様々な問いかけをしてくださいました。おかげさまで、本論文の至るところで、考えを掴むことができ、ふさわしい言葉使いができました。このように、本論文を書き上げることができ、留学生生活を安心して過ごすことができましたのは、先生のご指導と支えがなければ成り立たなかったことであろうと思います。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

論文審査の労をお執りくださいました前田則子先生、北條美香代先生には、多くの貴重なご助言・意見と温かいご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。

入学してから1年半の間に、駒井裕子先生の講義を受け、日本語と論文の書き方のご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

論文の日本語の校正に関して、長い時間をかけ、丁寧に内容を適切な言葉・文体に修正し、有益なご助言をいただきました藤澤鈴香さんに深く感謝いたします。

研究と議論にお付き合いいただきました劉研究室の皆様、音楽科の院生と学部生の皆様にもお世話になり、感謝しております。

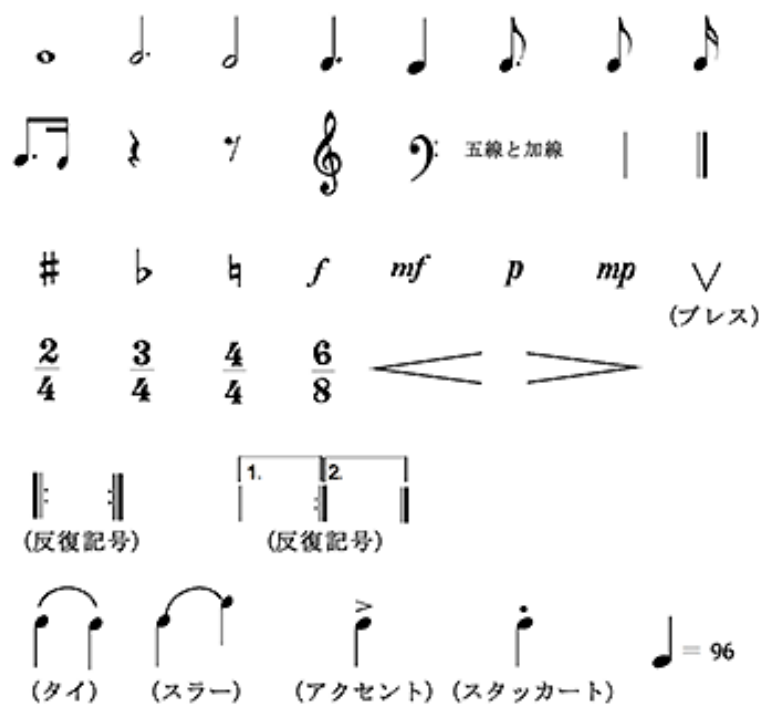
論文に関する台湾の文献・資料と教科書を集め、日本まで送っていただきました南投県平和小学校の藍紅玉先生、彰化県廣興小学校の陳淑慈先生、台中県黄竹小学校の張雅涵先生、呂燕林さん、陳建志さん、廖姿雅さんに感謝の意を表します。

最後に、多大なる心配をかけながら職場を離れて渡日以来、進学して研究の道を進もうとする私に理解を示し、留学生生活を陰で支えてくれて、励ましてくれた両親と兄に深く感謝いたします。

2015年2月

林 呈馨

付録1 「共通事項」における音楽に関する記号と用語



付録2 翰林教科書において音楽の学習内容の分析図表

2-1 生活 第1学年前期

翰林生活 1上	領域	生活(音楽)							
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用							
	統合内容	表現の探究、基本概念				芸術と歴史・文化、 芸術と生活		表現と探究、基本概念	
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念						音楽の表現、 音楽の素材と概念	
●…主となる内容 ○…関連する内容	基本学習 内容要項	歌唱	器楽演奏	創作	鑑賞		音楽知識、読譜	音感	
		簡易な子どもの歌とわらべ歌の学習を通して生活の楽しさを増すことを目的とする。	歌う際にリズム楽器または身体楽器を用いてリズム伴奏をする。	即興とオスティナートのリズム(を創作する)(の創作を行う)。例:1小節に4分音符と8分音符を含むリズムを創作し、音楽作りの楽しさを体験する。	様々な音の素材(例:人の声、楽器、環境の中の様々な音)を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	各作品を通して芸術と歴史・文化の関係を理解する。例:民謡、「創作歌謡」など、異なる民族の歌曲を鑑賞し、紹介すること、児童劇・児童舞踊の基本型と地元の文化の関係を紹介すること、地域または地元出身の芸術家について学び彼らの作品を鑑賞すること、生活環境にある様々な芸術関係のイベントを発見する。	芸術と個人または生活を結んでいく。例: (四)風の音や物売りの掛け声などの自然界と生活中の音声を聞き、模倣し、さらにそれらの音声を描写する音楽を鑑賞すること。 (五)芸術創作と生活中の美的体験の関係性を通して、個人のイマジネーションまたは感覚を伝え、自己を表現する自信を育成すること。	音符、休符と記号を把握する。例:音符、音部記号、拍子記号、小節線、数字譜、図形譜。	旋律の構成を把握する。例:音の高さ、音の長さ、旋律の進行。
単元・主題									
一、新しい学校新しい生活	歌曲・内容								
2.私の新しい友達	点呼の歌	●				○			
二、学校での一日	歌曲・内容								
1.学校へ行こう	登校の歌	●				○			
2.面白い学習活動	リズム遊び						●	●	
	♪と♫を学ぶ						●		
	リズム練習						●	●	
3.放課後	放課の歌	●				○			
	四分休符を学ぶ						●	○	
三、自然と友達になろう	歌曲・内容								
3.動物と友達になろう	ちょうちょう	●				○		●	
四、音声の世界	歌曲・内容								
1.生活中的音声	生活中的音声			○		●			
2.楽器の音	楽器の音					●	●		
	リズム練習						●	●	
	楽器の歌		●	○			●	○	
	バスドラムとスネアドラム	○	●				●		
	強弱を学ぶ						●	●	
3.オリジナリティ楽器	手作り楽器		●	●					
	リズム練習		○				●	●	
	二分音符を学ぶ						●	●	
五、トイ・ストーリー	歌曲・内容								
1.くるみ割り人形の王国	こんぺい糖の踊り					●			
	人形の王国	●				○			
六、新年を迎える	歌曲・内容								
2.お正月を過ごす	新年おめでとう	●				○			
	リズム練習		●				●	●	
付録歌曲－音楽メロディー	歌曲								
	国歌	●							
	国旗の歌	●							
	大丈夫だ	●							
	小さいなミツバチ	●							
	森の音楽会	●							
	音声	●							

2-2 生活 第1学年後期

翰林生活 1下	領域	生活(音楽)							
	課程目標	探求と表現、審美と理解、実践と応用							
	統合内容	表現の探求、基本概念				芸術と歴史・文化、 芸術と生活		表現と探求、基本概念	
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念						音楽の表現、 音楽の素材と概念	
	基本学習 内容要項	歌唱	器楽演奏	創作	鑑賞		音楽知識、読譜	音感	
簡易な子どもの歌とわらべ歌の学習を通して生活の楽しみを増すことを目的とする。		歌う際にリズム楽器または身体楽器を用いてリズム伴奏をする。	即興とオスティナートのリズム(を創作する)(の創作を行う)。例：1小節に4分音符と8分音符を含むリズムを創作し、音楽作りの楽しさを体験する。	様々な音の素材(例：人の声、楽器、環境の中の様々な音)を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	各作品を通して芸術と歴史・文化の関係を理解する。例：民謡、「創作歌謡」など、異なる民族の歌曲を鑑賞し、紹介すること、児童劇、児童舞踊の基本型と地元の文化の関係を紹介すること、地域または地元出身の芸術家について学び彼らの作品を鑑賞すること、生活環境にある様々な芸術関係のイベントを発見する。	芸術と個人または生活を結んでいく。例：(四)風の音や物売りの掛け声などの自然界と生活中の音声を聞き、模倣し、さらにそれらの音声を描写する音楽を鑑賞すること。 (五)芸術創作と生活中の美的体験の関連性を通して、個人のイマジネーションまたは感情を伝え、自己を表現する自信を育成すること。	音符、休符と記号を把握する。例：音符、音部記号、拍子記号、小節線、数字譜、図形譜。	旋律の構成を把握する。例：音の高さ、音の長さ、旋律の進行。	
●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容									
単元・主題									
一、新学年での再会	歌曲・内容								
1.学校が始まった	歓迎の歌	●				○			
	リズム練習		○				●	●	
	大掃除	●				○			
2.冬休み生活を話し合おう	二分音符を学ぶ						●	●	
二、美しい春	歌曲・内容								
1.春を感じ取る	四季ー春					●			
2.春を迎える	春の神様が来た	●				○			
	五線譜を学ぶ						●		
3.春をあおる	春の神様が来たリトミック	●	○			○			
三、音声を伝えていこう	歌曲・内容								
2.電話を掛ける	リズム練習		○				●	●	
四、我が家を愛する	歌曲・内容								
2.理想の家	家を建てる					○	●	●	
五、影の変化	歌曲・内容								
1.影踏み遊び	影法師	●				○			
	五線譜のホ、トイを学ぶ						●	●	
2.不思議な影	影はどこにあるか	●				○			
六、不思議な水	歌曲・内容								
3.水資源を大切にしよう	節水少年兵	●				○			
	リズム練習		●				●	●	
付録歌曲ー音楽メロディー	歌曲								
	じゃんけんの歌	●							
	春が来た	●							
	ハロー	●							
	お母さんの目	●							
	ママのベイビー	●							
	鴨さんの歌	●							
	水かけの歌(ベトナム民謡)	●							
魚捕る歌	●								

2-3 生活 第2学年前期

翰林生活 2上	領域	生活(音楽)								
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用								
	統合内容	表現の探究、基本概念			芸術と歴史・文化、 芸術と生活		表現と探究、基本概念			
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念					音楽の表現、 音楽の素材と概念			
●…主となる内容 ○…関連する内容	基本学習 内容要項	歌唱	器楽演奏	創作	鑑賞		音楽知識、読譜	音感		
		簡易な子どもの歌とわらべ歌の学習を通して生活の楽しさを増すことを目的とする。	歌う際にリズム楽器または身体楽器を用いてリズム伴奏をする。	即興とオスティナートのリズム(を創作する)(の創作を行う)。例: 1小節に4分音符と8分音符を含むリズムを創作し、リズムの楽しさを体験する。	様々な音の素材(例: 人の声、楽器、環境の中の様々な音)を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	各作品を通して芸術と歴史・文化の関係を理解すること。例: 民謡、「創作歌謡」など、異なる民族の歌曲を鑑賞し、紹介すること。児童劇、児童舞踊の基本型と地元文化の関わりについて学び彼らの作品を鑑賞すること、生活環境にある様々な芸術関係のイベントを発見する。	芸術と個人または生活を結んでいく。例: (四)風の音や物売りの掛け声などの自然界と生活中の音声を聞き、模倣し、さらにそれらの音声を描写する音楽を鑑賞すること。(五)芸術創作と生活中の美的体験の関係性を通して、個人のイマジネーションまたは感覚を伝え、自己を表現する自信を育成すること。	音符、休符と記号を把握する。例: 音符、音部記号、拍子記号、小節線、数字譜、図形譜。	旋律の構成を把握する。例: 音の高さ、音の長さ、旋律の進行。	
単元・主題										
一、お日さまとお月さま		歌曲・内容								
1.日が昇った		小さい太陽と大きいお日さま	●				○			
2.夜が来た		小さいな星	●				○		●	
		時の踊り		○			●			
二、風が来た		歌曲・内容								
1.風と遊ぶ		風よ、早く来て	●	○			○			
2.風の音楽会		リズム練習		●				●	●	
		風の音楽会	●	●			○			
三、シャボン玉を吹こう		歌曲・内容								
1.シャボン玉と遊ぼう		シャボン玉を吹く	●				○			
		リズム練習			●			●	●	
四、かわいい動物		歌曲・内容								
2.私の動物の友達		動物と友達になろう	●				○			
五、きれいな色		歌曲・内容								
2.色の変化		虹の森	●					●		
		リズム練習		○				●	●	
六、冬を楽しく過ごそう		歌曲・内容								
2.冬を暖かく 過ごそう		冬	●				○			
		五線譜のハニを学ぶ						●	●	
		DoReMiを歌ってみよう	●					○		
		百歳のハンドサインを学ぶ						●	●	
付録歌曲－音楽メロディー		歌曲								
		太陽	●							
		月光の音楽会	●							
		夏の夜	●							
		風が来た	●							
		風揚げをしよう	●							
		しゃぼん玉大会	●							
		象さん	●							
		かくれんぼ	●							
		ライオンの行進(鑑賞)				●				
		ベルの音	●							

2-4 生活 第2学年後期

翰林生活 2下	領域	生活(音楽)							
	課程目標	探求と表現、審美と理解、実践と応用							
	統合内容	表現の探求、基本概念				芸術と歴史・文化、 芸術と生活		表現と探求、基本概念	
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念						音楽の表現、 音楽の素材と概念	
	基本学習 内容要項	歌唱	器楽演奏	創作		鑑賞		音楽知識、読譜	音感
簡易な子どもの歌とわらべ歌の学習を通して生活の楽しさを増すことを目的とする。		歌う際にリズム楽器または身体楽器を用いてリズム伴奏をする。	即興とオースティナートのリズム(を創作する)(の創作を行う)。例：1小節に4分音符と8分音符を含むリズムを創作し、音楽作りの楽しさを体験する。	様々な音の素材(例：人の声、楽器、環境の中の様々な音)を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	各作品を通して芸術と歴史・文化の関係を理解すること。例：民謡、「創作歌謡」など、異なる民族の歌曲を鑑賞し、紹介すること、児童劇、児童舞踊の基本型と地元の文化の関係を紹介すること、地域または地元出身の芸術家について学び彼らの作品を鑑賞すること、生活環境にある様々な芸術関係のイベントを発見する。	芸術と個人または生活を結んでいく。例： (四)風の音や物売りの掛け声などの自然界と生活中の音声を聞き、模倣し、さらにそれらの音声を描写する音楽を鑑賞すること。 (五)芸術創作と生活中の美的体験の関係性を通して、個人のイメージネーションまたは感覚を伝え、自己を表現する自信を育成すること。	音符、休符と記号を把握する。例：音符、音部記号、拍子記号、小節線、数字譜、図形譜。	旋律の構成を把握する。例：音の高さ、音の長さ、旋律の進行。	
●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容									
単元.主題									
一、ゴミは少なくなった	歌曲・内容								
2.家庭ゴミを少なくしよう	ゴミの効用が多い	●	○						
	リズム遊び		●				●	●	
二、二、不思議な種	歌曲・内容								
1.種が新しい家を探す	温かい郷里	●							
	リズムの練習						●	●	
2.芽が出て大きくなった	植木の歌	●				○			
	四拍子のリズム						●	●	
三、お誕生日おめでとう	歌曲・内容								
1.誕生日	言葉リズム練習						●	●	
	誕生日	●				○			
2.賑やかな誕生日パーティ	リズム練習						●	●	
	リズム遊び		○				●	●	
	言葉リズム練習						●	●	
3.私は大きくなった	私は勇気のある子	●	○			●			
	リズム練習						●	●	
	音符を学ぶ						●		
四、雨だ	歌曲・内容								
1.雨の音楽会	雨降りの歌	●				○			
	リズム遊び						●	●	
	音符を学ぶ						●		
五、土壌とアリさん	歌曲・内容								
2.土壌の中のアリさん	アリさんが豆を運ぶ	●				○			
	リズム練習							●	
六、夏	歌曲・内容								
1.夏が来た	夏が来る	●				○			
	リズム練習		○				●	●	
	音符の総復習						●	●	
	五線譜のへ、ろを学ぶ						●		
	前掲のハンドサインを学ぶ						●	●	
付録歌曲－音楽メロディー	歌曲								
	植木の歌	●							
	お誕生日おめでとう	●							
	アイバツホーディディロー(踊り歌)	●							
	ホンツアイちゃん	●							
	口笛吹きと犬(鑑賞)					●			
	音階の歌	●							

2-5 芸術と人文 第3学年前期

翰林 3上	領域	芸術と人文												
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用												
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活												
	音楽方面	音楽の表現と探究、 音楽の素材と概念					音楽と文化、 音楽と生活			音楽の表現と探究、 音楽の素材と概念				
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏		創作	鑑賞			音楽知識	音感		読譜	
異なる歌唱形態をもって適切な音域で様々な歌曲を歌う。例：斉唱・オスティナート技法による歌唱、「異曲同唱」・輪唱。		歌の呼吸法、頭声の共鳴と歌詞の発音技法を表現し、また、歌曲の旋律とリズムを正確に把握すること。	合唱と合奏をする際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。	一人またはグループで旋律楽器と打楽器を演奏することを学ぶ。例：ソプラノリコーダー一斉奏、リコーダーと打楽器の合奏。	歌と楽器のアンサンブルの際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。	習得した音楽知識と技能を活用し、即興及び楽曲の創作（例：四小節の旋律、問いと答え、反復するフレーズ）をする。	様々な音の素材（例：異なる人の声、楽器、環境の様々な音）を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	身の周りの音楽と異なる民族の音楽を収集し、鑑賞する。	音楽または音楽とは何かの芸術作品を組み合わせた作品を鑑賞し、それらを感じ、それを学んだ感想を表現し、他人と分かち合う。例：絵画、絵本、生活の中にある存在している声や音の特徴と音声を出すタイミングを鑑賞し、理解し、自分自身の得意な表現方法で発表し合う。例：ボディア・パカショ・動物の鳴き声、楽器を演奏する姿勢、様々な演奏会と舞台芸術を鑑賞する時の正確な態度を育成する。例：開演時間の厳守、適切な服装・マナーなど。	適切な記譜法で創作した作品を記録する。例：五線譜・数字譜・図形譜。	基礎的聴音をする。例：リズム・調性など。	楽曲のリズムを聞き分ける。例：二拍子と三拍子・長調と短調・上行形と下行形などの区別。	基礎的なソルフェージュをする。例：固定ドで音名を読む・音楽を聞きながら音符や記号を識別する。	
●…主となる内容 ○…関連する内容														
単元・主題														
三、音楽メロディー														
1.おもちゃディンダンドン	歌曲・内容													
おもちゃディンダンドン							●							
五線譜を学ぼう	ディンダンドン	●								●				●
新しい音楽記号を学ぼう	メリーさんのひつじ	●								●				●
2.おもちゃ兵フィルハーモニー	歌曲・内容													
「おもちゃの交響曲」を学ぶ							●			●				
私たちは小さいフィルハーモニー				○						●		○		
新しい音楽記号を学ぼう 1										●		●		
おもちゃの歌	おもちゃの歌	●										●		
新しい音楽記号を学ぼう 2										●				●
♪.四分休止符を打ってみよう						○				●		○		●
ソルフェージュハ、ニ、ホ、ヘ、ト	楽しい歌	●										○		●
リコーダー遊び			●								○			
リコーダーの呼吸法とタンキング			●											
リコーダーの時間			●								●			●
3.大自然に耳を傾ける	歌曲・内容													
音楽マップ	クールギェント組曲「朝								●		●			
	小さいなミツバチ	●									●		●	●
	山登り	●												
拍子記号の集まり	どんきやんさわき	●									●			●
リコーダーの時間	月光			●										●
問いと答え						○					●			
4.楽しいリズム	歌曲・内容													
面白いリズム	イビヤヤ	●				○							●	
音符の集まり													●	●
ソルフェージュ練習	歌うことを学ぶ歌	●										●	●	●
音楽テスト											●	●		●
Bingo		●												
音楽遊び	子犬のビンゴ											●		
メロディー創作						●					●			○
音楽の総復習									○		●		○	○
付録歌曲	歌曲													
	カッコウ	●												
	春の歌	●												
	サンタクロースに仮装しよう	●												
	明け方	●												
	森の中の小鳥	●												
	国歌	●												
	国旗の歌	●												
リコーダー練習曲	歌曲													
	ロ運指を練習しよう			●										
	イ運指を練習しよう			●										
	ロとイの歌			●										
	ト運指を練習しよう			●										
	メリーさんのひつじ			●										
	子守唄			●										
	小鳥			●										

2-6 芸術と人文 第3学年後期

翰林 3下	領域	芸術と人文															
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用															
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活															
	音楽方面	音楽の表現と探究、 音楽の素材と概念								音楽と文化、 音楽と生活				音楽の表現と探究、 音楽の素材と概念			
	基本学習 内容要項	歌唱			器楽演奏		創作		鑑賞				音楽知識		音感		読譜
異なる歌唱形態をもつて適切な音域で様々な歌曲を歌う。例：斉唱・オスティナート技法による歌唱・「異曲同唱」・輪唱。		歌の呼吸法、頭声の共鳴と歌詞の発音技法を表現し、また、歌曲の旋律とリズムを正確に把握すること。	合唱と合奏をする際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。	一人またはグループで器楽を演奏すること。例：ソフラーコーダー音楽、リコーダーと打楽器の合奏。	歌と楽器のアンサンブルの際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。	習得した音楽知識と技能を活用し、即興及び楽曲の創作（例：四小節の旋律・間奏と答え、反復するフレーズ）をする。	様々な音の素材（例：異なる人の声、楽器・環境の中様々な音）を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	身周りの音楽と異なる民族の音楽を収集し、鑑賞する。	音楽または音楽とほかの芸術作品を組み合わせた作品を把握し、それらを字んが感想を表現し、他人と分かち合う。例：アニメーション、動物の動き、音楽を演奏する姿勢。	様々な演奏会と舞台芸術を鑑賞する時の正確な態度を育成する。例：開演時間の厳守、適切な服装、マナーなど。	適切な記譜法で創作した作品を記録する。例：五線譜・数字譜・図形譜。	基礎的聴音をする。例：リズム・調性など。	楽曲のリズムを聞き分ける。例：二拍子と三拍子・長調と短調・上行形と下行形などの区別。	基礎的なソルフェージュをする。例：固定ドで音名を聴きながら音符や記号を識別する。			
●…主となる内容 ○…関連する内容																	
単元主題																	
三、音楽メロディー																	
1.お誕生日おめでとう		歌曲・内容															
セリフのリズムで創作							○					○		●		●	
誕生日の歌を楽しく歌おう		誕生日の歌	●														
ハ長調音階			○										●		●		
リコーダーの時間				●									●				
トランペットを学ぶ		ラッパ吹きの休日									●		●				
アフリカダンスソング		アフリカダンスソング	●										●				
16分音符を学ぶ													●		●		
四拍子の迷路ゲーム													●		●		
問いと答え							○						●		●	●	
2.春を賛美する		歌曲・内容															
春の神様が来た		春の神様が来た	●										●				
オスティナートのリ		佐保姫	●										●		●		
小さい音楽のエルフ					○								●				
リズムカードゲーム													●		●		
ソルフェージュ													●		●	●	
春の楽章		春の歌											●				
ピアノを知る													●				
リコーダーの時間		休んで・気をつけ・立つて		●												●	
復習テスト													●		○		
3.銅鑼と太鼓で賑わおう		歌曲・内容															
銅鑼と太鼓で賑わおう		お寺の広場									●		○				
		「花鼓」の歌	●								○						
伝統の打楽器を知る								○					●				
やさしい打楽器の練習				●									●			○	
囃子を奏でて歌を歌おう		魚を捕る歌	●	●												●	
歌って踊って											●				●		
絵譜を描こう											●				●		
リコーダーの時間				●												●	
付録歌曲	歌曲																
	音符の歌	●															
	星明かり	●															
	ガエルさん	●															
	デアン ア カ	●															
	舟を漕ぎよう	●															
	歓楽のダンス歌	●															
	お母さんの目	●															
リコーダー練習曲	歌曲																
	カッコウ		●														
	國のアカヒは小さいアカヒを捕れる		●														
	小さいなミツバチ		●														
	行進曲		●														
	歓喜の歌		●														
	笑う歌		●														
	ダンスしよう		●														
ウォーキングしよう		●															

2-7 芸術と人文 第4学年前期

翰林 4上	領域	芸術と人文														
	課程目標	探求と表現、審美と理解、実践と応用														
	統合内容	表現の探求、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活														
	音楽方面	音楽の表現と探求、 音楽の素材と概念						音楽と文化、 音楽と生活				音楽の表現と探求、 音楽の素材と概念				
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏		創作		鑑賞				音楽知識		音感		読譜
異なる歌唱形態をもつて適切な音域で様々な歌曲を歌う。例：斉唱・オナート技法による歌唱・「異曲同唱」・輪唱。		歌の呼吸法、頭声の共鳴と歌詞の発音技法を表現し、また、歌曲の旋律とリズムを正確に把握すること。	合唱と合奏をする際の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うこと。	一人またはグループで旋律楽器と打楽器を演奏することを学ぶ。例：ソプラノリコーダー音楽、リコーダーと打楽器の合奏。	歌と楽器のアンサンブルの際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うこと。	習得した音楽知識と技能を活用し、即興及び楽曲の創作（例：四小種の旋律、問いと答え、反復するフレーズ）をする。	様々な音の素材（例：異なる人の声、楽器、環境の中の様々な音）を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	身周りの音楽と異なる民族の音楽を収集し、鑑賞する。	音楽またはほかの芸術作品を組み合わせた作品を把握し、それらから学んだ感想を表現し、他人と分かち合う。例：ボディ・パカシオン、動物の鳴き声、楽器を演奏する姿勢、	生活の中にある存在している声や音の時間と音質を聞き取り、自分自身の得意な表現方法で発表し合う。例：開演時間の厳守、パカシオン、動物の鳴き声、楽器を演奏する姿勢、マナーなど。	様々な演奏会と舞台芸術を鑑賞する時の正確な時間と音質を聞き取り、自分自身の得意な表現方法で発表し合う。例：開演時間の厳守、パカシオン、動物の鳴き声、楽器を演奏する姿勢、マナーなど。	適切な記譜法で創作した作品を記録する。例：五線譜・数字譜・図形譜。	基礎的聴音をする。例：リズム・調性など。	楽曲のリズムを聞き分ける。例：二拍子と三拍子・長調と短調・上行形と下行形などの区別。	基礎的なソルフェージュをする。例：固定ドで音名を読み、音楽を聴きながら音符や記号を識別する。	
●…主となる内容 ○…関連する内容																
単元主題																
三、音楽メロディ																
1.音楽と音声		歌曲・内容														
音楽は音声--音声の特色			○							○		●				●
臨時記号を学ぶ--シャープとナチュラル		歌声は素晴らしい														
聞いて歌って			○											○		●
復習テスト														○		●
声はいろいろ		ミュゼット														
音楽家を学ぶ--バッハ										●		●				
リコーダーの時間		森の妖精														
音声のパレット--音色		「軽騎兵」序曲														
金管楽器を知る										●		●				
リコーダーの時間						●										●
復習テスト												●				
2.音楽とリズム		歌曲・内容														
音楽の脈動--拍子												○				●
歌声のために拍子をとる									●							
拍子の親友--リズム		山びこ														
リズム創作			●				○		●			○				●
リズムマジシャン									○							●
3.音楽と和声		歌曲・内容														
合奏・輪唱・和声		ついてきて														
ハ長調のI・IV・Vの和音を学ぶ		私は小鳥だ														
ト長調について			○									●				○
鍵盤上のお隣さん--全音・半音												●		○		○
音楽テスト												●				○
4.音楽と旋律		歌曲・内容														
祈祷--平和と希望の音楽		祈祷														
気持ちを高めさせる音楽		ラデツキー行進曲														
大喜びの音楽		羅漢の獅子舞														
リコーダーの時間						●										●
歓喜の音楽		新年おめでとう														
スラーについて																●
付録歌曲	歌曲															
	さらば!平原															
	河の水															
	オタマジャクシ作曲家															
	ベールをぬぐ															
	We Wish You a Merry Christmas															
	クリスマスのベルの音															
リコーダー練習曲	おおスザンナ															
	歌曲															
	The Old Man															
	まどべのお話															
	雨あがりの朝															
	さよなら友よ															
	森のダンス															

2-8 芸術と人文 第4学年後期

翰林 4上	領域	芸術と人文												
	課程目標	探求と表現、審美と理解、実践と応用												
	統合内容	表現の探求、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活												
	音楽方面	音楽の表現と探求、 音楽の素材と概念				音楽と文化、 音楽と生活				音楽の表現と探求、 音楽の素材と概念				
●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏		創作		鑑賞		音楽知識		音感		読譜
		異なる歌唱形態をもつて適切な音域で様々な歌曲を歌う。例：音唱・オースティン技法による歌唱、「異曲同唱」、輪唱。	歌の呼吸法、頭声の共鳴と歌詞の発音技法を表現し、また、歌曲の旋律とリズムを正確に把握すること	合唱と合奏をする際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。	一人またはグループで旋律楽器と打楽器を演奏すること。例：ソプラノ・リコーダー・音楽、リコーダーと打楽器の合奏。	歌と楽器のアンサンブルの際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。	習得した音楽知識と技能を活用し、独奏及び楽曲の創作（例：四小節の旋律、間奏、変奏、反復するフレーズ）をする。	様々な音の素材（例：異なる人の声、楽器・環境の様々な音）を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	身周りの音と異なる民族の音楽を収集し、鑑賞する。	音楽またはほかの芸術作品を組み合わせた作品を鑑賞し、それらから学んだ感想を発表し、他人と分かち合う。例：動画、絵本、	生活の中には音楽とほかに音の特性と音声を発する動物の存在を認識し、理解し、自分自身の得意な表現方法で発表し合う。例：ボディ・パカシン、動き、楽器を演奏する姿勢、	様々な演奏会と舞台芸術を鑑賞する時の正確な態度を育成する。例：開演時間の厳守、適切な服装、マナーなど。	適切な記譜法で制作した作品を記録する。例：五線譜・数字譜・図形譜。	基礎的聴音をする。例：リズム・調性など。
単元・主題														
三、音楽メロディ														
1.音楽と音声		歌曲・内容												
音楽は音声--音声の特色		○						○		●				●
臨時記号を学ぶ--シャープとナチュラル		歌声は素晴らしい												
聞いて歌って		○											○	●
復習テスト													○	●
声はいろいろ		ミュゼット												
音楽家を学ぶ--バッハ									●					
リコーダーの時間		森の妖精												
音声のパレット--音色		「軽騎兵」序曲												
金管楽器を知る									●		●			
リコーダーの時間									●					●
復習テスト											●			
2.音楽とリズム		歌曲・内容												
音楽の脈動--拍子											○			●
歌声のために拍子をとる							●							
拍子の親友--リズム		山びこ	●								○			●
リズム創作				○			●							●
リズムマジシャン							○							●
3.音楽と和声		歌曲・内容												
合奏・輪唱・和声		ついてきて	○								●			
ハ長調のI・IV・Vの和音を学ぶ		私は小鳥だ	●								●			
ト長調について											●			○
鍵盤上のお隣さん--全音・半音											●	○		○
音楽テスト											●			○
4.音楽と旋律		歌曲・内容												
祈祷--平和と希望の音楽		祈祷	●		○									
気持ちを高めさせる音楽		ラデツキー行進曲							●		○			
大喜びの音楽		羅漢の獅子舞							●					
リコーダーの時間				●										●
歓喜の音楽		新年おめでとう	●											○
スラーについて														●
付録歌曲	歌曲													
	さらば! 平原	●												
	河の水	●												
	オタマジャクシ作曲家	●												
	べールをぬぐ	●												
	We Wish You a Merry Christmas	●												
	クリスマスのベルの音	●												
リコーダー練習曲	おおよサザンナ	●												
	歌曲													
	The Old Man		●											
	まどべのお話		●											
	雨あがりの朝		●											
	さよなら友よ		●											
	森のダンス		●											

2-9 芸術と人文 第5学年前期

翰林 5上	領域	芸術と人文											
	課程目標	探究と表現・審美と理解・実践と応用											
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活											
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念					音楽と歴史・文化、 音楽と生活			音楽の表現、音楽素材と概念、 音楽と歴史・文化、音楽と生活			
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏	創作	鑑賞			音楽知識	音感	読譜	総合	
合唱または合奏をよく練習し、音色と音量を合わせられること、また、指揮者の指示に従うことができる。		歌唱のテクニックを用いる。例えば：呼吸法、発声法、表情を用いて歌唱する。	合唱、輪唱または二部合唱などの合唱形態を用いて、異なる文化の様式の歌曲を練習する。	模倣または初見の方法で、異なる文化の様式の歌曲を演奏する。	習得した音楽の要素を用い、旋律を創作する。例：問いと答え、動機の展開、旋律の変奏。	異なる時期、地域と文化の優れている作品を鑑賞する。例：各国の民謡、世界音楽、クラシック音楽。	国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して他の人と分かち合う。	音楽作品と社会環境の関連性を理解する。例：宗教音楽、環境音楽、ポピュラー音楽。	個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭または文章で他人と分かち合う。	曲の仕組みを理解する。例：楽曲のフレーズの反復・変奏または基本の形式を把握する。	適切な記譜法や録音方法で、個人の作品を記録する。例：五線譜、数字譜、絵譜、デジタル録音。	引き続き聴音のトレーニングを行う。例：楽曲のリズム、音型やコードに変化に気づき、コードまたは終止形・独奏と合奏の音色の違い、そして技法を区別する。	固定ト唱法や音名唱法で、長調・短調・五音音階などの歌曲を歌う。
●…主となる内容 ○…関連する内容													
単元主題													
三、音楽人生													
1. ドンドロンドンチャン(ロバッカション)													
歌曲・内容													
台湾の伝統管・絃・打楽器							●				●		
銅鑼と太鼓を打とう							○				●		
あなたもこのようにしよう				●							●		
発声練習		録日	●					○					
フラットを学ぼう											●		
リコーダーの時間				●							○		
2. 私たちの故郷・私たちの歌													
歌曲・内容													
私たちの故郷・私たちの歌		豊年祭の思い出				●		●					
		子守唄					●		●				
		桃花開					●		●				
		横笛協奏曲					●		●			●	
横笛を知る							○				●		
へ長調について			○								●		
リコーダーの時間				●							○		
民謡		舟を漕ぐ歌	●					○					
		豊年祭の思い出	●					○					
		デュウデュウダンア	●					○					
五音音階を学ぶ			○								●		
リズムとメロディーを創作する						●		○			○		
台湾の音楽の旅								●			○		
3. 音楽のアイデアが溢れ出る													
歌曲・内容													
海よ!私の故郷		海よ!私の故郷					●				○		
五音音階を学ぼう		海辺	●					○					
愉快な作詞家						●							
ハ長調I. IV. Vの和音を学ぼう								○			●		
三連符を学ぶ		舟を漕ぐ	●			○					●		
休止符の集まり											●		
復習テスト											●		
ソルフエージュ											●		
創作は不思議だ					○	●							
4. 音楽の宝箱													
歌曲・内容													
踊る人形		踊る人形					●				●		
楽しく進もう		楽しく進もう	●					●			○		
発声練習			●										
ピアノカを学ぼう				●							●		
合奏曲		楽しく進もう				●							
ベルシャの市場にて		ベルシャの市場にて						●					
音楽の人生ゲーム			○		○	○		○			●		
付録歌曲													
歌曲													
アメイジング・グレイス		●											
サンタが町にやってくる		●											
ドレミのうた		●											
お月見のダンス		●											
エーデルワイス		●											
歓喜の歌		●											
楽しくて楽しくてしやたがない		●											
ママは忙しくてたまらない		●											
リコーダー練習曲													
歌曲													
カエルを数えよう			●										
パン ツン ホン			●										
カブリ島			●										
南へ			●										
ドラえもののうた			●										
子守唄			●										

2-10 芸術と人文 第5学年後期

翰林 5下	領域	芸術と人文														
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用														
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活														
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念					音楽と歴史・文化、 音楽と生活				音楽の表現、音楽素材と概念、 音楽と歴史・文化、音楽と生活					
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏	創作	鑑賞			音楽知識	音感	読譜	総合				
合唱または合奏をよく練習し、音色と音量を合わせられること、また、指揮者の指示に従うことができる。		歌唱のテクニックを用いる。例えば：呼吸法、発声法、表情を用いて歌唱する。	模倣または初見の方法で、異なる文化と様式の歌曲を演奏する。	習得した音楽の要素を用い、旋律を創作する。例：問いと答え、動機の展開、旋律の変奏。	異なる時期、地域と文化の優れている作品を鑑賞する。例：各国の民謡、世界音楽、クラシック音楽。	国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して他の人と分かち合う。	音楽作品と社会環境の関連性を理解する。例：宗教音楽、環境音楽、ポピュラー音楽。	個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭または文章で他人と分かち合う。	曲の仕組みを理解する。例：楽曲のフレーズの反復・変奏または基本の形式を把握する。	適切な記譜法や録音方法で、個人的作品を記録する。例：五線譜、数字譜、録音、デジタル録音。	引き続き聴音のトレーニングを行う。例：楽曲のリズム、音型やコードの変化に気づき、コードまたは終止形・独奏と合奏の音色の違い、そして技法を区別する。	固定ド唱法や音名唱法で、長調・短調・五音階などの歌曲を歌う。	仲間同士で音楽会の計画・練習し、実行する。それを通して、協力し合った学習成果を示す。			
●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容																
単元・主題																
三、音楽の礼賛																
1.子守唄		歌曲・内容														
子守唄		子守唄(ブラームス)														
		子守唄(モーツァルト)														
6/8拍子を学ぼう		揺れる揺れる	●					○			●					
新曲視唱			○								●					
子守歌と行進曲								●			○					
愛が見られるように		愛が見られるように	●					○								
温故知新-ハ、ト、ヘ長調を復習する						●						●				
聴音トレーニング												●				
魔法使いの弟子										●						
音楽の物語りを聞こう		魔法使いの弟子						●								
2.芸術の宝ものを伝承しよう		歌曲・内容														
野ばら		野ばら	●									○				
ピアノ五重奏を鑑賞しよう(マス)		マス							●			●				
西風の話		西風の話	●		○			●				○				
強弱記号を学ぼう							○					●				
リコーダーの時間				●								○				
3. 自然への詠唱																
溪流とともに歌おう		溪流とともに歌おう	●					○								
合唱：森に行こう		森に行こう			●			○								
音楽シャッター-音楽でイメージをつかむ		ツァクメアランダーガン						●								
中国の弦楽器を知る-南胡								○				●				
4. 動物の謝肉祭		歌曲・内容														
従音楽發現自然之美-聲音的模擬與創造		動物の謝肉祭						●				●				
音楽を通して知る自然の美しさ-音声と絵						●		●				○				
リコーダーの時間					●	●										
動物の謝肉祭を演じよう								●								
動物の謝肉祭の動物を演じよう		動物の謝肉祭						○							●	
音楽を聴きながら動物を演じよう								○							●	
楽しいパラダイス		楽しいパラダイス	●					○				●				
音楽の人生ゲーム			○		○	○		○				●				
付録歌曲	歌曲															
	子守唄(呂泉生)		●													
	母は本当に偉い		●													
	緑の風		●													
	銀色の月光の下に		●													
	カタツムリとコウライウグイス		●													
	マス		●													
	ドジョウを描えよう		●													
リコーダー練習曲	歌曲															
	北風のメヌエット				●											
	青春の舞曲				●											
	となりのトトロ				●											
	大きな古時計				●											

2-11 芸術と人文 第6学年前期

翰林 6上	領域	芸術と人文														
	課程目標	探求と表現、審美と理解、実践と応用														
	統合内容	表現の探求、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活														
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念					音楽と歴史・文化、 音楽と生活					音楽の表現、音楽素材と概念、 音楽と歴史・文化、音楽と生活				
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏	創作	鑑賞			音楽知識		音感	読譜	総合			
合唱または合奏をよく練習し、音色と音量を合わせることができた、指揮者の指示に従うことができる。		歌唱のテクニックを用いる。例えば：呼吸法、発声法、表情を用いて歌唱する。	斉唱、輪唱または二部合唱などの合唱形態を用いて、異なる文化の様式の歌曲を練習する。	模倣または初見の方法で、異なる文化の様式の歌曲を演奏する。	習得した音楽の要素を用い、旋律を創作する。例：問いと答え、動機、展開、旋律の変奏。	異なる時期、地域と文化の異なる音楽団体の演出を鑑賞する。例：各国の民謡、世界音楽、クラシック音楽。	国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して他の人と分かち合う。	音楽作品と社会環境の関連性を理解する。例：宗教音楽、環境音楽、ポピュラー音楽。	個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭または文章で他人と分かち合う。	曲の仕組みを理解する。例：楽曲のフレーズの反復・変奏または基本の形式を把握する。	適切な記譜法や録音方法で、個人的作品を記録する。例：五線譜、数字譜、鉛筆譜、デジタル録音。	引き続き聴音のトレーニングを行う。例：楽曲のリズム、音型やコードの変化に気づき、または終止形・独奏と合奏の音色の違い、そして技法を区別する。	固定ド唱法や音名唱法で、長調・短調・五音階などの歌曲を歌う。	仲間同士で音楽会の計画・練習し、実行する。それを通して、協力し合った学習成果を示す。		
●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容																
単元・主題	三、音楽メロディ															
1.音楽芸術点、線、面	歌曲・内容															
音楽の中の点と線	動物の謝肉祭(断片)															
音楽と絵譜	くるみ割り人形 ロシアの踊り															
音楽を聴いて、絵譜を探そう																
果てしなし音楽																
スタッカートを学ぼう	雪を踏んで梅の花を探す ●															
音楽鑑賞																
ロンドについて	カルメン前奏曲「闘牛士」															
打楽器合奏																
リコーダーの時間																
2.中華圏と西洋の音楽芸術	歌曲・内容															
伝統の演劇	草船で矢を借りる															
	回窯 ●															
西洋オペラ	魔笛 ●															
リコーダーの時間	魔笛「銀の鈴」 ●															
復習テスト																
復習テスト																
中華圏と西洋の祭りの音楽	歓楽の中国祭り ●															
	Deck the Halls ● ○															
二長調を学ぼう																
リコーダーの時間	牧人ひつじを ●															
反復と反復進行を学ぼう																
幸せな子供は歌が好き	幸せな子供は歌が好き ●															
3.音楽の物語りを聞こう	歌曲・内容															
ピーターと狼	ピーターと狼 ●															
オーケストラを知る	●															
「ピーターと狼」の役割と楽器	●															
管楽器を知る	●															
美しい草原	美しい草原 ●															
整えられた旋律-クラリネットと管弦楽	クラリネット協奏曲イ長調 K.622第3楽章 ●															
クラリネット	○															
演奏会とマナー	●															
音楽と芸術のイベントに参加した感想	●															
付録歌曲	歌曲															
	故郷の人々（スワニー河） ●															
	点 ●															
	峠の我が家(アメリカ民謡) ●															
	きよしこの夜 ●															
	ラ・カラチャ(メキシコ民謡) ●															
リコーダー練習曲	まつり花(中国民謡) ●															
	歌曲															
	歌の翼に(メンデルスゾーン) ●															
	ラウウェ バッリ(台湾民謡) ●															
	God Rest You Merry, Gentleman ●															
	天空の城ラピュタ ●															
涙そうそう ●																

2-12 藝術と人文 第6 学年後期

翰林 6下	領域	藝術と人文													
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用													
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活													
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念				音楽と歴史・文化、 音楽と生活			音楽の表現、音楽素材と概念、 音楽と歴史・文化、音楽と生活						
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏		創作	鑑賞			音楽知識	音感	読譜	総合		
		合唱または合奏をよく練習し、音色と音量を合わせる。また、指揮者の指示に従うことができる。	歌唱のテクニックを用いる。例えば：呼吸法、発声法、表情を用いて歌唱する。	斉唱、輪唱または二部合唱などの合唱形態を用いて、異なる文化と様式の歌曲を練習する。	模倣または初見の方法で、異なる文化と様式の歌曲を演奏する。	習得した音楽の要素を用い、旋律を創作する。例：問いと答え、動機の展開、旋律の変奏。	異なる時期、地域と文化の優れている作品を鑑賞する。例：各国の民謡、世界音楽、クラシック音楽。	国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して他の人と分かち合う。	音楽作品と社会環境の関連性を理解する。例：宗教音楽、環境音楽、ポピュラー音楽。	個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭または文章で他人と分かち合う。	曲の仕組みを理解する。例：楽曲のフレーズの反復・変奏または基本形式を把握する。	適切な記譜法や録音方法で、個人的作品を記録する。例：五線譜、数字譜、総譜、デジタル録音。	引き続き聴音のトレーニングを行う。例：楽曲のリズム、音型やコードの変化に気づき、コードまたは終止形・独奏と合奏の音色の違い、そして技法を区別する。	固定ド唱法や音名唱法で、長調・短調・五音階などの歌曲を歌う。	仲間同士で音楽会の計画・練習し、実行する。それを通して、協力し合った学習成果を示す。
		●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容													
		単元主題													
		一、一路上有你 3.謝謝你的愛													
	歌曲・内容														

發聲練習	●													
愛的真諦	●													
魔笛時間			●								●			
斷奏與圓滑奏			○								●			
認識反覆記號											●			
愛與希望	●													
離別曲							●				●			
鋼琴詩人-蕭邦											●			
反覆記號練習											●			
創作練習					●						●			

二、藝術就在你身邊 3.	歌曲・内容													
室内的表演							●							
戶外的表演							●							
我的音樂藝術活動							●							
欣賞音樂表演藝術活動的感想							●				●			
民謠與生活	散塔盧其亞	●	●								○			
	鳳陽花鼓	●						○						
五聲音階											●			
視唱練習	●							○			●			
和聲練習											●			
視唱練習並回答下列各問題		○									●			
傳統樂器與生活	瑤族舞曲						●				●			
和諧的音律-單簧管與管絃樂	A大調單簧管協奏曲						●				●			
	單簧管、單簧管											●		
	家族						●							

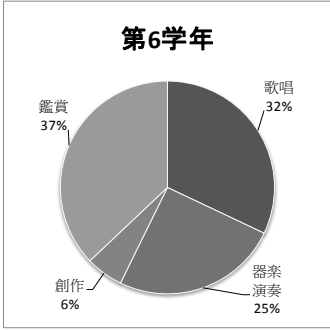
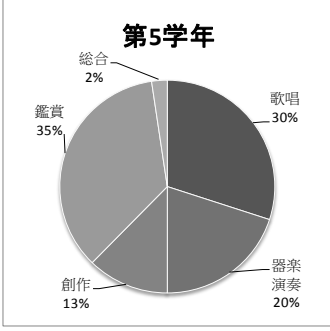
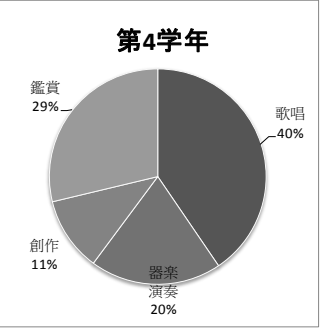
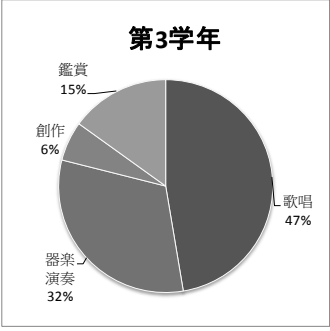
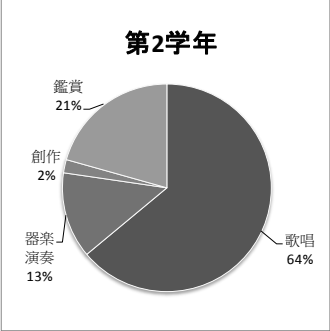
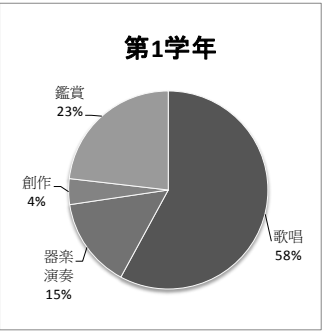
參、藝術「視」界大不同 2.	音樂新「視」界	歌曲・内容												
胡桃鉗組曲	柴可夫斯基										●			
	胡桃鉗組曲								●		●			
	魔笛時間		●								○			
認識速度記號	康康舞曲		○								●			
小星星變奏曲	小星星變奏曲						●				●			
	變奏曲										●			
小小作曲家	小小作曲家				●						●			
	夏夜鄉居	●												

補充歌曲	歌曲													
	Take These Wings	●												
	驪歌	●												
	畢業歌	●												
	童年	●												
	採蓮謠	●												
	萍聚	●												
	Proud of You	●												
直笛練習曲	陽光與小雨	●												
	歌曲													
	森林狂想曲		●											
	星笛		●											
	永遠同在(神隱少女)		●											
	風中奇緣		●											
	月亮代表我的心		●											
	Under the Sea		●											

2-13 翰林教科書各学年において音楽の学習内容の割合

●…主となる内容 ○…関連する内容

	生活1 前期		生活1 後期		生活2 前期		生活2 後期		芸術と人文3 前期		芸術と人文3 後期		芸術と人文4 前期		芸術と人文4 後期		芸術と人文5 前期		芸術と人文5 後期		芸術と人文6 前期		芸術と人文6 後期	
歌唱	● 12	12.5	○ 1	15	○ 18	18	○ 13	13	○ 17	17	○ 14	14.5	○ 11	11	○ 18	18.5	○ 16	16	○ 7	7	○ 10	10	○ 15	15.5
器楽演奏	● 4	4.5	○ 1	2.5	○ 3	3.5	○ 1	3	○ 11	11.5	○ 9	9.5	○ 4	4	○ 9	10	○ 11	12	○ 4	5	○ 10	10	○ 9	10
創作	● 1	2	○ 0	0	○ 1	1	○ 0	0	○ 1	2.5	○ 0	1.5	○ 2	2.5	○ 5	6	○ 7	8	○ 2	2.5	○ 2	2.5	○ 2	2
鑑賞	● 3	6	○ 1	5	○ 2	5.5	○ 2	4.5	○ 3	3.5	○ 6	6.5	○ 6	6.5	○ 8	15.5	○ 10	15.5	○ 11	14.5	○ 15	18.5	○ 10	11
総合	● 0	0	○ 0	0	○ 0	0	○ 0	0	○ 0	0	○ 0	0	○ 0	0	○ 0	0	○ 0	0	○ 2	2	○ 0	0	○ 0	0



付録3 康軒教科書において音楽の学習内容の分析図表

3-1 生活 第1学年前期

康軒生活 1上	領域	生活(音楽)							
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用							
	統合内含	表現の探究、基本概念				芸術と歴史・文化、 芸術と生活		表現と探究、基本概念	
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念						音楽の表現、 音楽の素材と概念	
	基本学習 内容要項	歌唱	器楽演奏	創作		鑑賞		音楽知識、読譜	音感
簡易な子どもの歌とわらべ歌の学習を通して生活の楽しさを増すことを目的とする。		歌う際にリズム楽器または身体楽器を用いてリズム伴奏をする。	即興とオスティナートのリズム(を創作する)(の創作を行う)。例：1小節に4分音符と8分音符を含むリズムを創作し、音楽作りの楽しさを体験する。	様々な音の素材(例：人の声、楽器、環境の中の様々な音)を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	各作品を通して芸術と歴史・文化の関係を理解する。例：民謡、「創作歌謡」など、異なる民族の歌曲を鑑賞し、紹介すること、児童劇、児童舞踊の基本型と地元文化の関係を紹介すること、地域または地元出身の芸術家について学び彼らの作品を鑑賞すること、生活環境にある様々な芸術関係のイベントを発見する。	芸術と個人または生活を結んでいく。例：(四)風の音や物売りの掛け声などの自然界と生活中の音声を聞き、模倣し、さらにそれらの音声を描写する音楽を鑑賞すること。(五)芸術創作と生活中の美的体験の関係性を通して、個人のイマジネーションまたは感覚を伝え、自己を表現する自信を育成すること。	音符、休符と記号を把握する。例：音符、音部記号、拍子記号、小節線、数字譜、図形譜。	旋律の構成を把握する。例：音の高さ、音の長さ、旋律の進行。	
●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容									
単元・主題									
一、学校が始まった	歌曲・内容								
1.新しい学校	登校の歌	●				○			
3.新しいクラスメートを覚えよう	友だちはどこにいるか	●				○	●		
	リズム遊び					○	●		
二、キャンパス大発見	歌曲・内容								
2.一緒に探検しよう	カエルさん	●				○	●		
	小スズメ	●				○	○	●	
三、なんの音だか	歌曲・内容								
1.いろいろな音が聞こえる	小さい目覚まし時計	●				○	●		
	動物の鳴き声					●	●		
2.たたいて振って歌おう	節奏楽器		●			○	●		
	小さい木魚	●	●			○	●	●	
	チャレンジしてみよう			●		●			
四、風が来た	歌曲・内容								
1.風とかくれんぼしよう	風が吹いてきた	●	●			○	●		
五、楽しいシャボン玉	歌曲・内容								
2.シャボン玉を遊ぼう	シャボン玉を吹こう	●				○			
	五線譜を学ぼう						●	●	
六、賑わってお正月を迎えよう	歌曲・内容								
3.楽しいお正月がやってきた	新年おめでとう	●		○		○	●		
付録歌曲									
じゃんけんの歌	●								
コオロギの合唱	●								

3-2 生活 第1学年後期

康軒生活 1下	領域	生活(音楽)							
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用							
	統合内容	表現の探究、基本概念				芸術と歴史・文化、 術と生活		表現と探究、基本概念	
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念						音楽の表現、 音楽の素材と概念	
	基本学習 内容要項	歌唱	器楽演奏	創作		鑑賞		音楽知識、読譜	音感
簡易な子どもの歌とわらべ歌の学習を通して生活の楽しみを増すことを目的とする。		歌う際にリズム楽器または身体楽器を用いてリズム伴奏をする。	即興とオスディナートのリズム(を創作する)の創作を行う。例：1小節に4分音符と8分音符を含むリズムを創作し、音楽作りの楽しさを体験する。	様々な音の素材例：人の声、楽器、環境の中の様々な音を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考えた記号で音声を記録する。	各作品を通して芸術と歴史・文化の関係を理解する。例：民謡、「創作歌謡」など、異なる民族の歌曲を鑑賞し、紹介すること、児童劇、児童舞踊の基本型と地元の文化の関係を紹介すること、地域または地元出身の芸術家について学び彼らの作品を鑑賞すること、生活環境にある様々な芸術関係のイベントを発見する。		芸術と個人または生活を結んでいく。例：(四)風の音や物売りの掛け声などの自然界と生活中の音声を聞き、模倣し、さらにそれらの音声を描写する音楽を鑑賞すること。(五)芸術創作と生活中の美的体験の関係性を通して、個人のイマジネーションまたは感覚を伝え、自己を表現する自信を育成すること。	音符、休符と記号を把握する。例：音符、音部記号、拍子記号、小節線、数字譜、図形譜。	旋律の構成を把握する。例：音の高さ、音の長さ、旋律の進行。
●…主となる内容 ○…関連する内容									
単元.主題	歌曲・内容								
一、みんなの交通機関	歌曲・内容								
1.便利な交通機関	汽車、走れ	●				○		●	
	信号機	●				○		●	●
二、大きな木と小さな花と仲間たち	歌曲・内容								
2.大きな木と小さな花はだれのお家？	小さなカタツムリ	●				●			
	小さなミツバチ	●				●			
三、トイ・ストーリー	歌曲・内容								
3.おもちゃのお家	おもちゃ王国	●				○		●	
	おもちゃの願い(断片)					○		●	
四、わが家の物語り	歌曲・内容								
2.我が家が大好き	きれいなカーネーション	●	●			○		●	
	愛は我が家から(断片)					●		●	
	我が家が大好き	●				○			
五、あぁ!くつついた	歌曲・内容								
1.あれ？ベダベダする	貼り付けてみよう	●				○			
六、暑い季節	歌曲・内容								
3.夏の夜	音声のまね					●		●	
	ほたる	●	○			○		○	
付録歌曲									
春の神様が来た		●							
前を向いて歩こう		●							
お家		●							
ママの瞳		●							

3-3 生活 第2学年前期

康軒生活 2上	領域	生活(音楽)									
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用									
	統合内容	表現の探究、基本概念					芸術と歴史・文化、 術と生活		表現と探究、基本概念		
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念							音楽の表現、 音楽の素材と概念		
	基本学習 内容要項	歌唱	器楽演奏	創作		鑑賞		音楽知識、 読譜	音感		
簡易な子ども の歌とわらべ歌の学 習を通して生活の楽し みを増すこと を目的とする。		歌う際に リズム楽器 または 身体楽器 を用いて リズム伴奏 をする。	即興とオス ティナートの リズム(人 の声を創作す る)。(の創作 を行う)。例： 1小節に4分 音符と8分音 符を含むリ ズムを創作 し、音楽作 りの楽しさ を体験する。	様々な音の素 材(例：人の 声、楽器、環 境の中の様々 な音)を探索 し、それら を用いて 音づくりをす る。また、自 ら考案した記 号で音声を記 録する。	各作品を通して芸術と歴史・文化の関係を理解する。例：民謡、「創作歌謡」など、異なる民族の歌曲を鑑賞し、紹介すること、児童劇、児童舞踊の基本型と地元文化の関係を紹介すること、地域または地元出身の芸術家について学び彼らの作品を鑑賞すること、生活環境にある様々な芸術関係のイベントを発見する。	芸術と個人または生活を結んでいく。例： (四)風の音や物売りの掛け声などの自然界と生活中の音声を聞き、模倣し、さらにそれらの音声を描写する音楽を鑑賞すること。 (五)芸術創作と生活中の美的体験の関係性を通して、個人のイメージーションまたは感覚を伝え、自己を表現する自信を育成すること。	音符、休符と記号を把握する。例：音符、音部記号、拍子記号、小節線、数字譜、図形譜。	旋律の構成を把握する。例：音の高さ、音の長さ、旋律の進行。			
●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容											
単元.主題											
一、仲良くしよう	歌曲・内容										
2.私たちはいい友たちだ	ウサギのダンス	●					○				
	みんなはいい友たちだ	●	●				○	●			
二、不思議なお水	歌曲・内容										
1.生活中のお水	水の歌(断片)		●				●	●			
三、光と影と遊ぼう	歌曲・内容										
1.太陽の光と影	影の歌	●					○			●	
四、私たちの町	歌曲・内容										
3. 私の町が大好き	田舎が大好き	●		●			○	●			
五、年末のイベント	歌曲・内容										
3.クリスマスベルが鳴る	ジングルベル	●					○				
	きよしこの夜(断片)		●				○	●			
六、米食を探究しよう	歌曲・内容										
3.お米の加工品を大切にしよう	農家に思いやりの詩	●					○				
	豊作の舞曲	●	○				○	●			
付録歌曲											
しずくと小川		●									
楽しそうな小魚ちゃん		●									
日の出		●									
ホンツアイちゃん		●									

3-4 生活 第2学年後期

康軒生活 2下	領域	生活(音楽)							
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用							
	統合内含	表現の探究、基本概念				芸術と歴史・文化、 芸術と生活		表現と探究、基本概 念	
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念						音楽の表現、 音楽の素材と概念	
	基本学習 内容要項	歌唱	器楽演奏	創作		鑑賞		音楽知識、 読譜	音感
簡易な子ども の歌とわらべ 歌の学習を 通して生活 の楽しさを 増すことを 目的とする。		歌う際に リズム楽器 または身体 楽器を用い てリズム伴 奏をする。	即興とオス ティナートの リズム(を創 作する)(の 創作を行う) 。例：1小 節に4分音 符と8分音 符を含むリ ズムを創作 し、音楽作 りの楽しさ を体験する。	様々な音の 素材(例：人 の声、楽器 、環境の中 の様々な音)を探索し、 それらを用 いて音づく りをする。ま た、自ら考 案した記号 で音声を記 録する。	各作品を通 して芸術と 歴史・文化 の関係を理 解すること 、異なる民 族の歌曲を 鑑賞し、紹 介すること 、児童劇、 児童舞踊の 基本型と地 元の文化の 関係を紹介 すること、 地域または 地元出身の 芸術家につ いて学び彼 らの作品を 鑑賞すること 、生活環境 にある様々 な芸術関係 のイベント を発見する。	芸術と個人 または生活 を結んでい く。例： (四)風の音 や物売りの 掛け声など の自然界と 生活中の音 声を聞き、 模倣し、さ らにそれら の音声を描 写する音楽 を鑑賞する こと。 (五)芸術創 作と生活中 の美的体験 の関係を通 して、個人 のイマジネ ーションま たは感覚を 伝え、自己 を表現する 自信を育成 すること。	音符、休符 と記号を把 握する。 例：音符、 音部記号、 拍子記号、 小節線、数 字譜、図形 譜。	旋律の構 成を把握 する。 例：音の高 さ、音の長 さ、旋律の 進行。	
●・・・主となる内容 ○・・・関連する内容									
単元・主題									
一、何して遊ぼう？	歌曲・内容								
2.チャレンジしてみよう	なわとび	●				○			
	たこあげ	●				○			
二、不思議な小さな磁石	歌曲・内容								
2.磁石は面白い	磁石ゲーム	●				○			
三、動物と友だちになろう	歌曲・内容								
1.動物にしたしもう	アリさんが豆を運ぶ	●				○	●		
2.動物を飼うことができるか	口笛吹きと犬					●			
四、カラフルな世界	歌曲・内容								
1.色彩大発見	色彩の歌	●	●			○	●		
五、雨の日のいろいろ	歌曲・内容								
2.雨の日の発見	小さな雨のしずく	●			○	○	●		
3.雨がやんだ	虹	●				○			
	音階遊び						●	●	
六、もうすぐ三年生	歌曲・内容								
3.新しい生活に期待する	願い	●				○			
付録歌曲									
ロンドン橋落ちた		●							
楽しそうな子魚		●							
白い雲		●							
お母さんの歌		●							

3-5 芸術と人文 第3学年前期

康軒 3上	領域	芸術と人文														
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用														
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活														
	音楽方面	音楽の表現と探究、 音楽の素材と概念						音楽と文化、 音楽と生活				音楽の表現と探究、 音楽の素材と概念				
	基本学習 内容要項	歌唱			器楽演奏		創作		鑑賞				音楽知識		音感	
異なる歌唱形態をもつて適切な音域で様々な歌曲を歌う。例：斉唱・オースティン・リート技法による歌唱、「異曲同唱」・輪唱・		歌の呼吸法、音声の共鳴と歌詞の発音技法を表現し、また、歌曲の旋律とリズムを正確に把握すること。	合唱と合奏をする際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。	一人またはグループで旋律楽器と打楽器を演奏することを学ぶ。例：ソフトラノリコーダー演奏、リコーダーと打楽器の合奏。	歌と楽器のアンサンブルの演奏、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。	習得した音楽知識と技能を活用し、音楽の創作（例：四小節の旋律、調いと響き、反復するフレーズ）をする。	様々な音の素材例：異なる人の声、楽器、環境の中の様々な音を捉え、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。	身周りの音楽と異なる民族の音楽を収集し、鑑賞する。	音楽または音楽とほかの芸術作品を組み合わせた作品を鑑賞し、他人と分かち合う。例：動画、絵本、	生活の中にある存在している声や音の時間と音声を観察し、理解し、表現し、自分自身の得意な表現方法で発表し合う。例：ボカロ、パペット、動物の鳴き声、楽器を演奏する音。	様々な演奏会と舞台芸術を鑑賞する時の正確な態度を育成する。例：開演時間の厳守、適切な服装・マナーなど。	適切な記譜法で創作した作品を記録する。例：五線譜・数字譜・図形譜。	基礎的聴音をする。例：リズム・調性など。	楽曲のリズムを聞き分ける。例：二拍子と三拍子、長調と短調・上行形と下行形などの区別。	基礎的なソルフェージュをする。例：固定ドで音名を読む・音楽を聴きながら音符や記号を識別する。	
●…主となる内容 ○…関連する内容																
単元主題																
一、踊っている音符	歌曲・内容															
1.みんなはいい友だち	みんなはいい友だち	●				○		●		●						
	♪.♩.4/4拍子を学ぼう										●				●	
	五線譜の歌	●									●				●	
	ト音記号とド・レ・ミを学ぼう										●			●	●	
2.歌おう!踊ろう!	歌おう!踊ろう!	●						○						●	●	
	4分休符を学ぼう分休止符 「驚愕」ハイドン交響曲第94番									●		●	○		●	
3.リコーダーの音を 広げよう	リコーダーの種類を学ぼう										●				○	
	愛の挨拶(断片)									●				●		
	リコーダーの吹き方を学ぼう				●						●					
	二分音符を学ぼう										●				●	
	ラ、シを学ぼう				○						○			●	●	
二、聞いて、何の音声だか 聲音	歌曲・内容															
1.森の家族	森にいる小鳥さん	●						○							●	
	2/4拍子を学ぼう										●				●	
	ラ、ソを学ぼう	○											●		●	
	緑色の風	●						○								
	付点四分音符を学ぼう										●				●	
	タイとスラーを学ぼう	○									●				●	
2.音楽の宝箱	森の狂想曲(断片)							●			●					
	小さな風鈴	●						○								
	小節線と終止線を学ぼう				○						●				●	
	ティン オウ オウ(台湾民謡)							●			●					
リコーダーの音を広げよ	メリーさんのひつじ				●			○			●					
	ゆかいな牧場	●			●										○	
六、運動会	歌曲・内容															
1.運動会が始まった	応援団の歌	●						○			●				●	
	応援の歌	●					●	○								
付録	歌曲・内容															
音楽を楽しく学ぼう	いろいろと学んだ										●		●		●	
	吹けた曲				●			○								
	歌えた歌	●						○								
	鑑賞した曲							●			○					
音楽家に会いに行こう	ハイドンの物語り							○			●					
	森の狂想曲							●			○					
付録歌曲																
	国歌	●														
	国旗の歌	●														
	早起きの歌	●														
	友だちを探そう	●														
	一緒に遊ぼう	●														
	デアン ア カ(ビン南語)(アスファルト)	●														
	小さなこま	●														
	メリークリスマス	●														
	山登り	●														
	思い出の歌	●														
	ぼたる(客家語)	●														
	お星さまきらきら	●														
リコーダー練習曲																
	子守唄				●											
	練習曲				●											

3-6 芸術と人文 第3学年後期

康軒 3下	領域	芸術と人文														
	課程目標	探求と表現、審美と理解、実践と応用														
	統合内容	表現の探求、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活														
	音楽方面	音楽の表現と探求、 音楽の素材と概念					音楽と文化、 音楽と生活					音楽の表現と探求、 音楽の素材と概念				
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏		創作	鑑賞			音楽知識		音感		読譜		
●…主となる内容 ○…関連する内容	異なる歌唱形態をもつて適切な音域で様々な歌曲を歌う。例：斉唱・オナート技法による歌唱・「異曲同唱」・編唱。 歌の呼吸法、頭声の共鳴と歌詞の発音技法を表現し、また、歌曲の旋律とリズムを正確に把握すること。 合唱と合奏をする際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。 一人またはグループで旋律楽器と打楽器を演奏すること。例：ソングランド・リコーダー・リコーダーと打楽器の合奏。 歌と楽器のアンソールの際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うことについて学ぶこと。 習得した音楽知識と技能を活用し、即興及び楽曲の創作（例：四小節の旋律・間いと答え、反復するフレーズ）をする。 様々な音の素材例：異なる人の声、楽器、環境の中の様々な音を探索し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考案した記号で音声を記録する。 身周りの音楽と異なる民族の音楽を収集し、鑑賞する。 音楽または音楽とほかの芸術作品を組み合わせた作品を鑑賞し、それらから学んだ感想を表現し、他人と分かち合う。例：動画、絵本、生活の中にある存在している声や音の特徴と音質を出すタイミンを鑑賞し、理解し、自分自身の得意な表現方法で表現し合う。例：ボディ・パカショーン、動物の鳴き声・楽器を演奏する姿勢。 様々な演奏会と舞台芸術を鑑賞する時の正確な態度を育成する。例：開演時間の厳守、適切な服装・マナーなど。 適切な記譜法で創作した作品を記録する。例：五線譜・数字譜・図形譜。 基礎的聴音をする。例：リズム・調性など。 楽曲のリズムを聞き分ける。例：二拍子・三拍子・長調と短調、上行形と下行形などの区別。 基礎的なソルフェージュをする。例：固定下で音名を読む、音楽を聴きながら音行や記号を識別する。															
単元・主題																
一、楽しい時間	歌曲・内容															
1.授業が終った	ベールが鳴った	●							○							
	高音のドを学ぶ									●		●		●		
	一緒に歌おう	●							○	●						
	高音のレを学ぶ					○						●		●		
2.一緒に踊ろう	メヌエット(断片)(バッハ)								●		●				○	
	年寄りのカラス	●							○		●					
	3/4拍子と付点二分音符を学ぼう								●		●				●	
	小雨	●							●			●				
	パートナーソング	●							●			●				
3. リコーダーの音を を広げよう	リコーダー練習			●							●				○	
	河の水			●					○							
二、素敵なメロディー	歌曲・内容															
1.音階遊び	歌い方を学ぼう	●							○							
	ハ長調音階を学ぼう	○								●		●		●		
	エリーゼのために(断片)								●		●				○	
2.私が歌って、あなたが 合わせよう	風のダンス	●							○							
	カエルの合唱	●							○		●					
	青春の舞曲			●					●		○				●	
3. リコーダーの音を を広げよう	歓喜の歌(ベートーヴェン)			●					○		●					
	楽しい集まり			●					○						●	
六、動物のカーニバル	歌曲・内容															
1.動物の謝肉祭	ライオンの行進(断片)								●		●				○	
	ウサギとカメの競争	●							○			●			●	
付録	歌曲・内容															
音楽を楽しく学ぼう	いろいろと学んだ									●		●		●		
	吹けた曲			●					○							
	歌えた歌	●							○							
	鑑賞した曲								●		○					
音楽家に会いに行こう	バッハの物語り								○		●					
	サーン＝サーンスの物語り								○		●					
付録歌曲																
	山に登ろう	●														
	小さいロバさん	●														
	感謝の歌	●														
	夕暮れ	●														
	さようならの歌	●														
	豊作の舞曲	●														
	お母さんの手	●														
	魚捕りの歌	●														
	バンゲーア(ビン南語)	●														
	山谷の歌声(二部輪唱)	●								○						
リコーダー練習曲																
	カッコウ			●												
	小さなミツバチ(1)			●												
	行進曲			●												
	小さなミツバチ(2)			●												

3-7 芸術と人文 第4学年前期

康軒 4上		芸術と人文												
		探究と表現、審美と理解、実践と応用												
		表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活												
		音楽の表現と探究、 音楽の素材と概念				音楽と文化、 音楽と生活				音楽の表現と探究、 音楽の素材と概念				
		歌唱		器楽演奏		創作		鑑賞		音楽知識		音感		読譜
基本学習		異なる歌唱形態をもって適切な音域で様々な歌曲を歌う。例：斉唱、オスアイナート技法による歌唱、「異曲同唱」・輪唱、												
内容要項		歌の呼吸法、潤声の技術、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に即応すること。ソプラノ、リコーダー、リコーダーと打楽器の演奏。												
●…主となる内容 ○…関連する内容		一人またはグループで旋律、ハーモニー、リズム、歌詞の要素を表現すること。例：ソプラノ、リコーダー、リコーダーと打楽器の演奏。												
単元・主題		習得した音楽知識を活用し、音楽の要素を表現すること。例：ソプラノ、リコーダー、リコーダーと打楽器の演奏。												
一、朝日を迎えよう		様々な音楽の要素例：異なる人の声、楽器、環境の中の様々な音を聞き取り、それらを用いて音楽を表現すること。例：ソプラノ、リコーダー、リコーダーと打楽器の演奏。												
1.夜が明けた		身の回りの音楽と異なる音楽の要素を聞き取り、それらを用いて音楽を表現すること。例：ソプラノ、リコーダー、リコーダーと打楽器の演奏。												
		生活の中にある存在している声や音の要素を聞き取り、それらを用いて音楽を表現すること。例：ソプラノ、リコーダー、リコーダーと打楽器の演奏。												
		様々な音楽の要素例：異なる人の声、楽器、環境の中の様々な音を聞き取り、それらを用いて音楽を表現すること。例：ソプラノ、リコーダー、リコーダーと打楽器の演奏。												
		適切な記譜法で創作した作品を記録する。例：五線譜・数字譜・図形譜。												
		基礎的聴音をする。例：リズム・調性など。												
2.屋外へ行こう		楽曲のリズムを聞き分ける。例：二拍子と三拍子、長調と短調・上行形と下行形などの区別。												
		基礎的なソルフェージュをする。例：固定ドで音名を読む・音楽を聴きながら音符や記号を識別する。												
3.リコーダーの音を 広げよう														
二、心に響く物語り														
1.童話の世界		カラフルな夢												
		旋律の順次進行と跳躍進行を学ぼう												
		子牛さんはいなくなった												
		♪を学ぼう												
		くるみ割り人形よりロシアの踊り(断片) 中国の踊り(断片)												
2.昔の伝説		勇士の歌												
		強弱記号を学ぼう												
		呼びかけの曲(メッセージの曲)(断片)												
3.リコーダーの音を 広げよう		祈祷												
		ウェストミンスター寺院の鐘の音												
六、パレードをしに行こう														
1.パレードの準備を しよう		口をそろえて歌おう												
		♪を学ぼう												
		アメリカン・パトロール(断片)												
付録														
音楽を楽しく学ぼう		いろいろと学んだ												
		吹けた曲												
		歌えた歌												
		鑑賞した曲												
音楽家に会いに行こう		管楽器の物語り												
		チャイコフスキーの物語り												
付録歌曲														
		私は小鳥だ												
		さらば野原												
		子犬のピンゴ												
		ベイリンシー(ピン南語)												
		竹の銃を遊ぼう												
		歩いて進もう												
		牧人ひつじを												
		ハイダンゴー(ハッカ語)												
リコーダー練習曲														
		練習曲												

3-8 芸術と人文 第4学年後期

康軒 4下	領域	芸術と人文													
	課程目標	探求と表現、審美と理解、実践と応用													
	統合内容	表現の探求、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活													
	音楽方面	音楽の表現と探求、 音楽の素材と概念					音楽と文化、 音楽と生活				音楽の表現と探求、 音楽の素材と概念				
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏		創作	鑑賞				音楽知識	音感		読譜	
異なる歌唱形態をもつて適切な音域で様々な歌曲を歌う。例：斉唱、オースティナート技法による歌唱、「異曲同唱」、輪唱。		歌の呼吸法、頭声の共鳴と歌詞の発音技法を表現し、また、歌曲の旋律とリズムを正確に把握すること	合唱と合奏をする際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うこと。	一人またはグループで旋律楽器と打楽器を演奏することを学ぶ。例：ソプラノリコーダー、リコーダーと打楽器の合奏。	歌と楽器のアンサンブルの際、他人の音色と音量を合わせ、また、指揮者の指示に従うこと。	習得した音楽知識と技能を活用し、即興及び楽曲の創作（例：四小節の旋律、間いと答え、反復するフレーズ）をする。	様々な音の素材例：異なる人の声、楽器、環境の中の様々な音を採集し、それらを用いて音づくりをする。また、自ら考えた記号で音声を記録する。	身周りの音楽となる民族の音楽を収集し、鑑賞する。	音楽または音楽とほかの芸術作品を組み合わせた作品を鑑賞し、それらを学んだ感想を発表し、他人と分かち合おう。例：動画、絵本、演奏する姿勢。	生活の中にある存在している声や音の特徴と音声をアウトライミングを観察し、理解し、自分自身の得意な表現方法で発せし合おう。例：ボディ・パカシオン、動物の鳴き声、楽器を演奏する姿勢。	様々な演奏会と舞台芸術を鑑賞する時の正確な態度を醸成する。例：開演時間の厳守、適切な服装・マナーなど。	適切な記譜法で創作した作品を記録する。例：五線譜・数字譜・図形譜。	基礎的聴音をする。例：リズム・調性など。	楽曲のリズムを聞き分ける。例：二拍子と三拍子・長調と短調・上行形と下行形などの区別。	基礎的なソルフェージュをする。例：固定ドで音名を読む・音楽を聴きながら音符や記号を識別する。
●…主となる内容 ○…関連する内容															
単元・主題															
一、心に響く旋律	歌曲・内容														
1.楽しく歌おう	歌が心に響く	●						○							
	反復記号を学ぼう										●			●	
	茶色の小瓶	●		●				○			●				○
2.旋律は鳴り響く	紫竹調(中国民歌)	●						○					●		
	五音音階を学ぼう										●		●		
	ガヴォット(断片)							●			●				
	競馬(断片)							●			●				
	梁山伯と祝英台(ヴァイオリン協奏曲)(断片)							●			●				
3.リコーダーの音を 広げよう	アマリリス			●				○							
	月夜			●				○							
二、野山の歌	歌曲・内容														
1.聞いて!大地は歌っている	溪流とともに歌おう	●		●				○			●				○
	望春風(バン・ツン・ホン)（台湾民謡）	●						○			●				
	ガマカエルを数えよう(中国民歌)							●			●				
2.鳥のさえずり、花の香り	ピクニック	●						○							
	森の歌	●						○			●			●	
3.リコーダーの音を 広げよう	お誕生日おめでとう			●				○							
	レジェンド・オブ・ドラゴン			●				○							
六、感謝の季節	歌曲・内容														
1.幸せな音符	幸せな家庭	●						○							
	さすらい人の歌	●						○			●				
付録	歌曲・内容														
音楽を楽しく学ぼう	いろいろと学んだ										●		●		●
	吹けた曲			●				○							
	歌えた歌	●						○							
	鑑賞した曲							●			○				
音楽家に会いに行こう	鄧雨賢(台湾作曲家)							○			●				
	ブラームスの物語り							○			●				
付録歌曲															
	パパはママを愛している	●													
	わが家	●													
	春の原野	●													
	水かけの歌	●													
	アリラン(韓国民謡)	●													
	あなたに1つの夢を送る(2部合唱)	●													
	山中の朝(2部合唱)	●													
	小さい太陽のほほえみ	●													
リコーダー練習曲															
	みんなで歌おう			●											
	春が来た			●											
	ボバイ			●											
	アニーローリー(スコットランド民謡)			●											

3-9 芸術と人文 第5学年前期

康軒 5上	領域	芸術と人文												
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用												
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活												
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念					音楽と歴史・文化、 音楽と生活				音楽の表現、音楽素材と概念、 音楽と歴史・文化、音楽と生活			
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏	創作	鑑賞				音楽知識		音感	読譜	総合
合唱または合奏をよく練習し、音色や音量を合わせることができる。また、指揮者の指示に従うことができる。		歌唱のテクニックを用いる。例えば：呼吸法、発声法、表情を用いて歌唱する。	合唱、輪唱または二部合唱などの合唱形態を用いて、異なる文化と様式の歌曲を練習する。	模倣または初見の方法で、異なる文化と様式の歌曲を演奏する。	習得した音楽の要素を用い、旋律を創作する。例：問いと答え、動機、展開、旋律の変奏。	異なる時期・地域と文化の優れている作品を鑑賞する。例：各国の民謡、世界音楽、クラシック音楽。	国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して他の人と分かち合う。	音楽作品と社会環境の関連性を理解する。例：宗教音楽、環境音楽、ポピュラー音楽。	個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭または文章で他人と分かち合う。	曲の仕組みを理解する。例：楽曲のフレーズの反復・変奏または基本の形式を把握する。	適切な記譜法や録音方法で、個人的作品を記録する。例：五線譜、数字譜、絵譜、デジタル録音。	引き続き聴音のトレーニングを行う。例：楽曲のリズム、音型やコードの変化に気づき、コードまたは終止形の音色の違い、そして旋律法を区別する。	固定ド唱法や音名唱法で、長調・短調・五音階などの歌曲を歌う。	仲間同士で音楽会の計画・練習し、実行する。それを通して、協力し合った学習成果を示す。
●…主となる内容 ○…関連する内容														
単元・主題														
一、真善美な旋律	歌曲・内容													
1.シューベルトの歌	野ばら	●						○			●	●	○	
	子守唄	●						○			●		○	
	フラット記号を学ぼう										●	●	○	
	へ長調を学ぼう										●	○		
	マス(断片)							●			●			
2.映画のテーマソング	ドレミのうた	●						○			●	●		
	音程を学ぼう										●			
	エーデルワイス	●						○						
3.リコーダーの音を広げよう	ひとりぼっちの羊飼い							●						
	待ち望む	●		●				○						
	誕生日おめでとう			●				○						
二、楽しい祝祭日	歌曲・内容													
1.縁日	縁日	●						○					●	
	♪と ♪を学ぼう									●	●	●		
	桃花过渡			●	○			●		●			●	
	全休符を学ぼう									●				
	天公落水(客家語)	●						○						
2.感謝と祝福	歡樂舞(排灣族民謡)	●						○						
	諸人こそぞりて	●						○						
	ラデツキー行進曲							●		●				
3.リコーダーの音を広げよう	美しく青きドナウ(断片)							●		●				
	ドラえもののうた	●		○				○						
	全音符を学ぼう									●			●	
六、私たちの物語り	歌曲・内容													
1.音楽の中の物語り	貴い友情	●						○						
	久しき昔			●				○						
	2分休符を学ぼう									●				
	西風の話	●						○						
付録	歌曲・内容													
音楽を楽しく学ぼう	いろいろと学んだ									●	●	●		
	吹けた曲			●				○						
	歌えた歌	●						○						
	鑑賞した曲							●		○				
音楽家に会いに行こう	ヨハン・シュトラウス1・2世							○		●				
	黄自の物語り							○		●				
付録歌曲														
	太湖船	●												
	マス	●												
	楽しいパラダイス	●												
	ジングルベル(2部合唱)	●												
	天には栄え	●												
	ドジョウを捕えよう	●												
	楽しい人生	●												
	客家本色	●												
リコーダーの練習曲														
	天空の城ラピュタ			●										
	そよ風は平原に吹く(赤い河の谷間)			●										
	雨にぬれた朝			●										

3-10 芸術と人文 第5学年後期

康軒 5下	領域	芸術と人文												
	課程目標	探究と表現・審美と理解・実践と応用												
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活												
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念				音楽と歴史・文化、 音楽と生活				音楽の表現、音楽素材と概念、 音楽と歴史・文化、音楽と生活				
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏	創作	鑑賞				音楽知識	音感	読譜	総合	
合唱または合奏をよく練習し、音色と音量を合わせられる。また、指揮者の指示に従うことができる。		歌唱のテクニックを用いる。例えば：呼吸法、発声法、表情を用いて歌唱する。	斉唱、輪唱または二部合唱などの合唱形態を用いて、異なる文化と様式の歌曲を練習する。	模倣または初見の方法で、異なる文化と様式の歌曲を演奏する。	習得した音楽の要素を用い、旋律を創作する。例：問いと答え、動機、展開、旋律の変奏。	異なる時期、地域と文化の優れた作品を鑑賞する。例：各国の民謡、世界音楽、クラシック音楽。	国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して他の人と分かち合う。	音楽作品と社会環境の関連性を理解する。例：宗教音楽、環境音楽、ポピュラー音楽。	個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭または文章で他人と分かち合う。	曲の仕組みを理解する。例：楽曲のフレーズの反復・変奏または基本の形式を把握する。	適切な記譜法や録音方法で、個人的作品を記録する。例：五線譜、数字譜、絵譜、デジタル録音。	引き続き聴音のトレーニングを行う。例：楽曲のリズム・音型やコードの変化に気づき、コードまたは休止形、強弱と合奏の音色の違い、そして楽法を区別する。	固定ド唱法や音名唱法で、長調・短調・五音階などの歌曲を歌う。	仲間同士で音楽会の計画・練習し、実行する。それを通して、協力し合った学習成果を示す。
●…主となる内容 ○…関連する内容														
単元・主題														
一、管弦楽の物語り	歌曲・内容													
1.ピーターと狼	ピーターと狼(断片)						●		●					
	歓楽の歌	●					○		●					
	クレッシェンドとデクレッシェンドを学ぼう								●					
	楽しく進もう	●					○							
	2/2拍子を学ぼう									●				
2.にぎやかな定期市場	鳳陽花鼓	●					○							
	8分休符を学ぼう								●					
	三連符を学ぼう								●					
3.リコーダーの音を広げよう	ベルシアの市場にて							●		●				
	「乞食たちの叫び声」		●				○			○				
	ベルシアの市場にて		●				○			○				
二、私の故郷・私の歌	歌曲・内容													
	デュウデュウダンア(ビン南語)	●	○				○							
1.台湾の風情	舟を漕ぐ歌(客家語)	●					○							
	高山青(断片)						●							
	阿里山の歌の変奏曲(断片)						●		●					
	祖母のボンフー湾	●					○							
2.子どもの頃の思い出	私たちは家族だ	●					○							
3.リコーダーの音を広げよう	秋のセミ(2部合奏)	○	●				○							
六、自然の美しさ	歌曲・内容													
2.大自然の楽章	釣鐘草(2部合唱)	●					○							
	ロンドン橋落ちた	○	○	●					●					
	夏の海	●					○		●					
	美しいメロディー		●				○							
	夜想曲第二番変ホ長調(断片)						●		●					
付録	歌曲・内容													
音楽を楽しく学ぼう	いろいろと学んだ								●	●	●			
	吹けた曲		●				○							
	歌えた歌	●					○							
	鑑賞した曲						●		○					
音楽家に会いに行こう	ベートーベンの物語り						○		●					
	黄友棣の物語り						○		●					
	ショパンの物語り						○		●					
付録歌曲														
送別		●												
偉大なお母さん(2部合唱)		●												
美しい草原(2部合唱)		●												
遠足		●												
あなたと私がいたから		●												
河の水(2部合唱)		●												
高山青		●												
親友(2部輪唱)		●												
リコーダー練習曲														
アメイジング・グレイス			●											
歌声はいつばいだ			●											
Goodnight Ladies			●											

3-11 芸術と人文 第6学年前期

康軒 6上	領域	芸術と人文												
	課程目標	探究と表現、審美と理解、実践と応用												
	統合内容	表現の探究、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活												
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念				音楽と歴史・文化、 音楽と生活				音楽の表現、音楽素材と概念、 音楽と歴史・文化、音楽と生活				
	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏	創作	鑑賞			音楽知識		音感	読譜	総合	
合唱または合奏をよく練習し、音色と音量を合わせられること。また、指揮者の指示に従うことができる。		歌唱のテクニックを用いる。例えば：呼吸法、発声法、表情を用いて歌唱する。	斉唱、輪唱または二部合唱などの合唱形態を用いて、異なる文化と様式の歌曲を練習する。	模倣または初見の方法で、異なる文化と様式の歌曲を演奏する。	習得した音楽の要素を用い、旋律を創作する。例：問いと答え、動機、展開、旋律の変奏。	異なる時期・地域と文化の優れている作品を鑑賞する。例：各国の民謡、音楽、クラシック音楽。	国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して他人と分かち合う。	音楽作品と社会環境の関連性を理解する。例：宗教音楽、環境音楽、ポップス音楽。	個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭または文章で他人と分かち合う。	曲の仕組みを理解する。例：楽曲のフレーズの反復・変奏または基本的形式を把握する。	適切な記譜法や録音方法で、個人的作品を記録する。例：五線譜、数字譜、絵譜、デジタル録音。	引き続き聴音のトレーニングを行う。例：楽曲のリズム、音型やコードの変化に気づき、コードまたは終止形・独奏と合奏の音色の違い、そして旋法を区別する。	固定ド唱法や音名唱法で、長調・短調・五音音階などの歌曲を歌う。	仲間同士で音楽会の計画・練習し、それを通して、協力し合った学習成果を示す。
●…主となる内容 ○…関連する内容														
単元・主題														
一、オペラの狂想曲	歌曲・内容													
1.オペラ中の喜怒哀楽	「魔笛」より「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」						●		●					
	「魔笛」より「私は鳥刺し」						●		●					
	「魔笛」より「魔法のすず」	●					●		●	○	○			
	「トゥーランドット」より「まつり花」	●					●		●	○	○			
	「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」						●		●					
2.台湾にあるミュージカル	四季紅		●				●			○	○			
	望春風		●				●			○	○			
	月夜愁		●				●			○	○			
3.リコーダーの音を広げよう	雨夜花		●				●			○	○			
二、味わえる歌	歌曲・内容													
1.音楽と会話しよう	但願人長久		●						○	●	●			
	花好月圓(片段)						●							
	中国伝統楽器を学ぼう						●		○					
2.爽やかなメロディー	おお牧場はみどり		●				○		○	●	●		●	
	春が来た								●	●	●			
	問いと答え			○	●				●	●	●			
	峠の我が家		●				○			●	●		●	
	6/8拍子を学ぼう								●				●	
3.リコーダーの音を広げよう	「ハウルの動く城」より「人生のメリーゴーランド」						●							
	「千と千尋の神隠し」より「いつも何度でも」			●			○		○	●	●		●	
	Proud of You		●				○		○	●	●		●	
六、海の郷里	歌曲・内容													
1.海の歌唱	海洋		●				●		○	●	●		●	
	風に乗って波をけたてよう(断片)						●		●	●	●			
	灯台(リコーダー二部合奏)			●					○	●	●		●	
付録	歌曲・内容													
音楽を楽しく学ぼう	いろいろと学んだ								●	●	●			
	吹けた曲			●			○							
	歌えた歌		●				○							
	鑑賞した曲						●		○					
音楽家に会いに行こう	オペラ						○		●					
	ブッチーニ						○		●					
	中国伝統楽器の家族						○		●					
付録歌曲														
ケンタッキーの我が家(二部合唱)			●											
鐵路小唱(二部合唱)			●											
子守歌(ブルームス)(二部合唱)			●											
蓮を採る歌謡(二部合唱)			●											
憂えを忘れ歌			●											
ヒナギキョウ			●											
愛だ			●											
谷間の灯			●											
静かな夜の星空			●											
リコーダー練習曲														
きよしこの夜				●										
となりのトトロ				●										
六月茉莉(台湾民謡)				●										
私の学習の世界														
復習テスト					●				●	●	●			

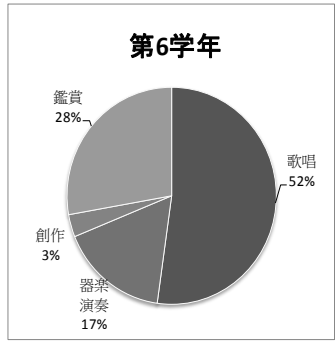
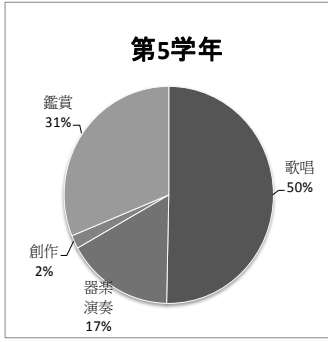
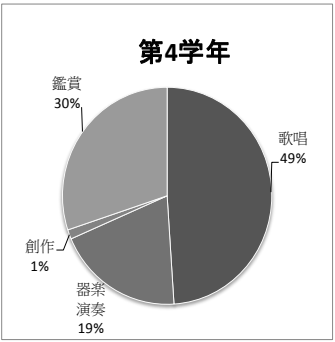
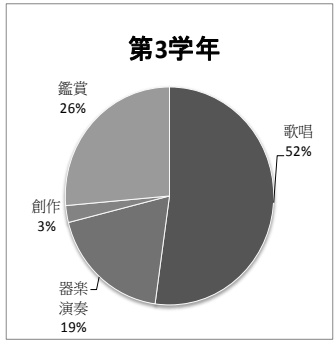
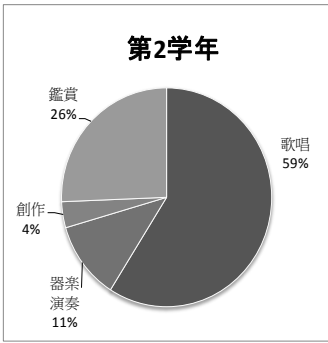
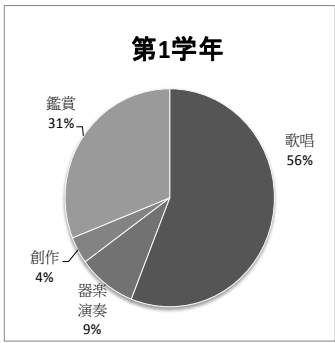
3-12 芸術と人文 第6学年後期

康軒 6下	領域	芸術と人文												
	課程目標	探求と表現、審美と理解、実践と応用												
	統合内容	表現の探求、基本概念、芸術と歴史・文化、芸術と生活												
	音楽方面	音楽の表現、 音楽の素材と概念					音楽と歴史・文化、 音楽と生活				音楽の表現、音楽素材と概念、 音楽と歴史・文化、音楽と生活			
●…主となる内容 ○…関連する内容	基本学習 内容要項	歌唱		器楽演奏	創作	鑑賞				音楽知識		音感	読譜	総合
		合唱または合奏をよく練習し、音色と音量を合わせられること、また、指揮者の指示に従うことができる。	歌唱のテクニックを用いる。例えば、呼吸法、発声法、表情を用いて歌唱する。	斉唱、輪唱または二部合唱などの合唱形態を用いて、異なる文化と様式の歌曲を練習する。	模倣または初見の方法で、異なる文化と様式の歌曲を演奏する。	習得した音楽の要素を用いて、旋律を創作する。例：問いと答え、動機、展開、旋律の変奏。	異なる時期、地域と文化の優れている作品を鑑賞する。例：各国の民謡、世界音楽、クラシック音楽。	国内外の異なる音楽団体の演出を鑑賞し、討論または文章を通して他の人と分かち合う。	音楽作品と社会環境の関連性を理解する。例：宗教音楽、環境音楽、ポピュラー音楽。	個人的に興味を持つ音楽テーマを選び、それに関する情報を収集し、口頭または文章で他人と分かち合う。	曲の仕組みを理解する。例：楽曲のフレーズの反復・変奏または基本の形式を把握する。	適切な記譜法や録音方法で、個人的作品を記録する。例：五線譜、数字譜、絵譜、デジタル録音。	引き続き聴音のトレーニングを行う。例：楽曲のリズム、音型やコードの変化に気づき、コードまたは終止形の独奏と合奏の音色の違い、そして旋法を区別する。	固定ド唱法や音名唱法で、長調・短調・五音階などの歌曲を歌う。
単元・主題														
一、花の世界		歌曲・内容												
花の物語	花	●					○			●		○	○	
	雨夜花	●		●			○							
	ヒナギキョウ	●												
花の讃歌	花のワルツ(断片)						●			●				
	野ばら	●					●			●				
	赤いバラ	●								○				
二、藝術交流		歌曲・内容												
中国と西洋の音楽	西風の話	●								○				
	「新世界より」第二章(断片)						●			●				
	「新世界より」より「家路」	●								●		●		
	調和の取れた旋律			●						●				
	揺れて、春が来た			○						●				
	旋律づくり				●									
	横笛協奏曲(断片)						●			●				
三、さようなら、 また会おう		歌曲・内容												
別れの季節	アメイジング・グレイス	●												
	別れを告げる	●												
	アロハ・オエ	●												
	「魔弾の射手」序曲(断片)						●			○				
	軍隊進行曲(片段)						●			○				
	「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」第1楽章(断片)						●			○				
	「トランペット協奏曲」第3楽章(断片)						●			○				
付録歌曲	歌曲・内容													
	魯冰花	●												
	マツリカ	●												
	蓮を採る歌謡	●												
	さくらさくら	●												
	「魔弾の射手」序曲	●												
	ホウオウボクの花が咲く	●												
	交差点	●												
	仰げば尊し	●												
	小さいな船	●												
	友よ!幸せになろう!	●												
	憂い忘れ歌	●												
	故郷の廃家	●												
谷間の灯火ともし頃	●													
秋のセミ	●													
リコーダー練習曲	歌曲・内容													
	おおスザンナ			●										
	雪を踏んで梅を探そう	●		●										
	本事(ベンズー)	●		●										
	来たれ汝を清むれば			●										
	待ち望む	●		●										
	故郷を離るる歌	●		●										
	蛍の光	●		●										

3-13 康軒教科書各学年において音楽の学習内容の割合

●…主となる内容 ○…関連する内容

		生活1 前期		生活1 後期		生活2 前期		生活2 後期		芸術と人文3 前期		芸術と人文3 後期		芸術と人文4 前期		芸術と人文4 後期		芸術と人文5 前期		芸術と人文5 後期		芸術と人文6 前期		芸術と人文6 後期	
歌唱	●	15		13		11		12		21		19		18		17		20		17		20		27	
	○	0	15	0	13	0	11	0	12	2	22	1	19.5	0	18	0	17	0	20	2	18	0	20	0	27
器楽演奏	●	3		1		3		1		5		9		4		10		4		7		5		9	
	○	0	3	1	1.5	1	3.5	0	1	2	6	0	9	0	4	10	10	4	4.5	2	8	1	5.5	1	9.5
創作	●	1		0		1		0		1		0		1		0		0		1		2		1	
	○	2	2	0	0	0	1	0	0.5	1	1.5	1	0.5	0	1	0	0	0	0.5	0	1	0	2	0	1
鑑賞	●	2		4		1		1		5		7		5		4		5		5		14		8	
	○	11	7.5	8	8	8	5	8	5	8	9	10	12	12	11	13	10.5	14	12	13	11.5	4	16	2	9



付録4 教育芸術社教科書において音楽の学習内容の分析図表

4-1 「小学生のおんがく」第1学年

教育芸術社 第1学年	学習指導要領の内容														
	A 表 現								B 鑑 賞				共通事項		
	歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり		鑑賞の活動				
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ
	聴唱・階名模唱・	歌詞の表す情景・	自分の歌声・発音	互いの歌声	聴奏・リズム視奏	楽曲の気分	音色	互いの楽器の音	音遊び	音を音楽にしてい	楽曲の気分	音楽の要素のかかり合い	楽曲や演奏の楽しさ	音楽を形づくっている要素	音符・休符・記号・用語
教材名・歌曲															
◎うたで なかよしに なろう															
ちょうちょう		●												●	
ちゅうりつぷ		●													
おつかい ありさん		●													
ぞうさん		●													
めだかの がっこう		●													
こぶたぬきつねこ		●													
こいのぼり		●													
こたりの うた		●													
いぬの おまわりさん		●													
ぞうさんの さんぽ		●													
てと てで あいさつ		●													
こころの うた (共通教材)		●												●	
ひらいた ひらいた															
◎はくを かんじとろう															
さんぽ		●									●			●	
なまえあそび						●			○					●	
こころの うた (共通教材)		●												●	
かたつむり															
◎はくにつてリズムを うとう															
じゃんけんぽん		●				●								●	
げんこつやまの たぬきさん		●				●								●	
しろくまの ジェンカ		●				●					●			●	
ぶん ぶん ぶん		●				●								●	
ことばあそび						○				●					
こころの うた (共通教材)		●												●	
うみ															
◎けんぱんハーモニカを ふこう															
ゆびあそびの うた		●				○								●	
みつばちの ぼうけん											●			●	
どんぐりさんの おうち		●				●								●	
なかよし		●				●								●	
まねっこあそび						●				○				●	
どれみで のぼろう		●				●								●	
どんぐりさんの おうち						●								●	
◎いろいろな おとにしたしもう															
シンコーペーテッド クロック											●			●	
がっきあそび						●			●					●	
おとあそび						●			●					●	
きらきらぼし		●				●								●	
おとあそび									●					●	
◎ようすを おもいうかべよう															
おどる こねこ											●			●	
はる なつ あき ふゆ		●												●	
こころの うた (共通教材)		●												●	
ひのまる															
◎おとの たかさに きをつけて うたおう															
どれみあそび		●							○					●	
◎たがいの おとを きこう															
あいあい		●												●	
やまびこ ごっこ		●												●	
やまびこあそび									●					●	
とんくるりん ばんくるりん		●				●								●	
こいぬの マーチ		●				●								●	
◎おんがくを たのしもう															
そろそろ はるですよ		●												●	
くまばちは とぶ											●			●	
◎ものがたりと おんがく															
おむすび ころりん		●												○	
◎みんなで たのしく															
たなばたさま		●												○	
おしょうがつ		●												○	
うれしい ひなまつり		●												○	
けんけん ば		●												○	
ちきゅうは ひろば		●												○	
おもちゃのチャチャチャ		●				●								○	
もりの くまさん		●												○	
「国歌」 きみがよ		●												○	

4-2 「小学生のおんがく」第2学年

教育芸術社 第2学年	学習指導要領の内容														
	A 表 現								B 鑑 賞			共通事項			
	歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり		鑑賞の活動				
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ
●…主となる内容 ○…関連する内容	聴唱・階名暗唱・ 階名模唱・	歌詞の表す情景・ 楽曲の気分	自分の歌声・発音	互いの歌声	聴奏・リズム視奏	楽曲の気分	音色	互いの楽器の音	音遊び	音を音楽にしている	楽曲の気分	音楽の要素のかわり合い	楽曲や演奏の楽しさ	音楽を形づけている要素	音符・休符・記号・用語
教材名・歌曲															
◎うたで なかよしに なろう															
メッセージ		●													○
ずいずい ずっころばし		●										●			○
ロンドンばし		●										●			○
小犬の ビンゴ		●										●			○
こころのうた（共通教材） かくれんぼ		●													●
◎はくを かんじとろう															
はしの 上で			●												●
たぬきの たいこ			●												●
アラベスク												●			●
メヌエット												●			●
◎音の たかさに 気を つけて うたおう															
ドレミあそび		●													●
ドレミの うた		○										●			●
かつこう		●					●								●
かえるの がっしょう		●					●								●
ドレミで あそぼ		●					●								●
せんりつあそび		○							●						●
◎はくに のって リズムを うたう															
この 空 とぼう		●					●								●
いるかは ざんぶらこ		●					●								●
山の ボルカ		●					●								●
リズムあそび							●		●						●
◎いろいろな 音にしたしもう															
森の カーニバル												●			●
音ががし							●		●						●
音あそび							●		●						●
かぼちゃ		●					●		●						●
こころのうた（共通教材） 虫の こえ		●													●
◎ようすを おもいうかべよう															
人形の ゆめと 目ざめ												●			●
海と おひさま		●													●
小ぎつね		●					●								●
こころのうた（共通教材） タヤケコヤケ		●													●
◎たがいの おとを きこう															
どこかで		●													●
ぶっかり くじら		●					●								●
こぐまの 二月		●					●								
◎音楽を 楽しもう															
えがおで きょうも		●													●
うたえ パンパン		●													●
トルコ こうしんきよく												●			●
こころのうた（共通教材） はるがきた		●													●
◎ものがたりと 音楽															
ないた 赤おに		●													○
◎みんなで 楽しく															
タ 日		●													○
とんぼの めがね		●													○
シャボン玉		●													○
ずいずい ずっころばし		●													○
ロンドンばし		●													○
小犬の ビンゴ		●													○
手のひらを たいように		●													○
あの 青い 空のように		●													○
はるの まきば		●													○
あえて よかった		●					●		●						○
アイアイ		●					●								○
〔国歌〕 きみがよ		●													○

4-3 「小学生のおんがく」第3学年

教育芸術社 第3学年

4-4 「小学生のおんがく」第4学年

教育芸術社 第4学年	学習指導要領の内容															
	A 表 現										B 鑑 賞			共通事項		
	歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり		鑑賞の活動					
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ	
	聴唱・視唱 (ハ長調)	歌詞の内容・曲想	呼吸・発音の仕方	歌声・副次的な旋律	聴奏・視奏 (ハ長調)	曲想	音色	互いの楽器の音・副次的な旋律	即興的に表現	音を音楽に構成	曲想とその変化	楽曲の構造	楽曲の特徴や演奏のよさ	音楽を形づくっている要素	音符・休符・記号・用語	
教材名・歌曲																
学年の歌：子どもの世界	●				○									○		
◎楽譜を読もう																
あわてんぼうの歌	●				●									○		
歌のにじ																
せんりつづくり																
こころのうた（共通教材） とんび	●				●									●		
◎リコーダーをふこう																
雨の公園																
子もり歌																
◎拍の流れにのろう																
風のメロディー	●													●		
朝の気分																
友達 シンド バッド	●										●			●		
せんりつづくり																
こころのうた（共通教材） まきばの朝	●								●					●		
◎けんばんハーモニカを ふこう																
パディネリ																
クラリネット ボルカ																
音のカーニバル	●				●				●		●			●		
音づくり																
リズムアンサンブル																
こころのうた（共通教材） もみじ	●													●		
◎せんりつのとくちょうを感じ取ろう																
つるぎのまい																
白鳥																
陽気な船長																
オーラ リー	○				●						●			●		
ゆかいに歩けば	●													●		
冬の歌	●				●									●		
リズムばんそうづくり																
◎音の重なりを感じ取ろう																
バレード ホッホー	●													●		
ファランドール																
レッツ ダンス	●										●			●		
茶色的小びん	●				●				●					●		
◎日本の音楽に親しもう																
ソーラン節																
南部牛追い歌																
トラジ打合																
小さな淡黄色の馬																
こきりこ	●				○									●		
リズムばんそうづくり																
こころのうた（共通教材） さくら さくら	●								●		●			●		
◎音楽を楽しもう																
ドレミの歌	●													●		
山の魔王の宮殿にて																
はげ山の一夜																
◎物語と音楽																
つるのおん返し	●				●									○		
◎音楽のしくみ																
音楽のしくみ	○				○									●		
せんりつづくり	○				○				●					●		
◎みんなで たのしく																
緑のそよ風	●													○		
みかんの花さくおか	●													○		
せいくらべ	●													○		
いつだって！	●													○		
林の朝	●													○		
風のカーニバル	●				●									○		
エーデルワイス	●				●									○		
いろいろな木の実																
〔国歌〕君が代	●													○		

4-5 「小学生のおんがく」第5学年

教育芸術社 第5学年	学習指導要領の内容														
	A 表 現									B 鑑 賞			共通事項		
	歌唱の活動				器楽の活動			音楽づくり		鑑賞の活動					
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ
	聴 調・ イ短 調）	歌 詞の 内容・ 曲想	呼 吸・ 響き のある 歌い 方	各 声部 の歌 声・ 全 体 の響 き	聴 奏・ 視奏 ・イ 短調 ）	曲 想	楽 器 の 特 徴	各 声部 の楽 器の 音 ・全 体 の響 き	即 興 的 に表 現	音 を音 楽に 構成	曲 想と その 変化 な ど の特 徴	楽 曲の 構造	楽 曲の 特徴 や演 奏 のよ さ	音 楽を 形づく って いる 要素	音 符・ 休符・ 用語・ 記号
教材名・歌曲															
学年の歌: Believe															
◎楽譜を読もう															
赤いやねの家															
一輪の赤い花															
こころのうた(共通教材) こいのぼり															
◎いろいろなひびきを味わおう															
いつでもあの海は															
リボンのおどり															
双頭のわしの旗の下に															
アイネ クライネ ナハト ムジーク 第1楽章															
◎和音の美しさを味わおう															
静かにねむれ															
伴奏づくり															
それは地球															
威風堂々 第1番															
こころのうた(共通教材) 子もり歌															
◎曲想を味わおう															
だれかが口笛ふいた															
ハンガリー舞曲 第5番															
リズムアンサンブル															
キリマンジャロ															
リズム伴奏づくり															
こころのうた(共通教材) 冬げしき															
◎詩と音楽を味わおう															
待ちぼうけ															
こころのうた(共通教材) スキーの歌															
◎日本と世界の音楽に親しもう															
春の海															
世界の国々の音楽															
アリラン															
まつり花															
◎音楽の楽しさを味わおう															
大空がむかえる朝															
失われた歌															
◎物語と音楽															
走れメロス															
◎鑑賞する楽しみ															
マンボ No.5															
2声のインベンション 第1番															
◎音楽のしくみ															
音楽のしくみ															
旋律づくり															
◎みんなで たのしく															
海															
ほたるの光															
僕にできること															
A good day															
南風について															
明日に向かって															
世界がひとつになるまで															
歌に 願いを															
月の見えない夜は															
つばさをだいて															
生命のいぶき															
マンボ No.5															
〔国歌〕君が代															
◎ことに親しもう															
さくら さくら															
◎鑑賞資料															
弦楽器															

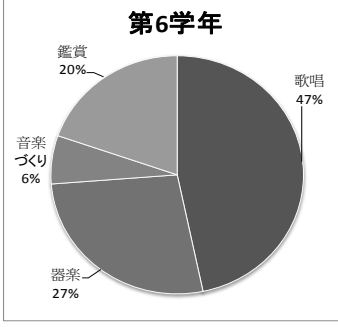
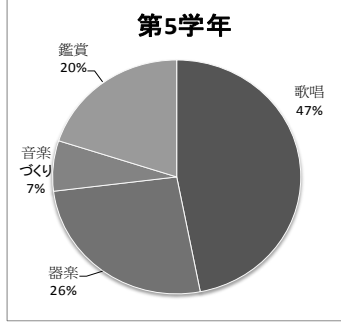
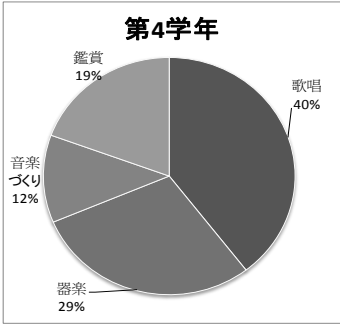
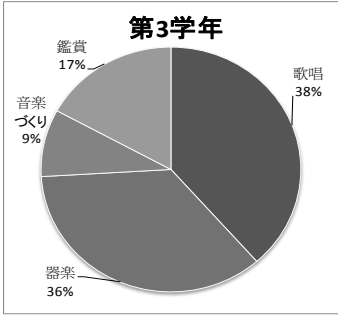
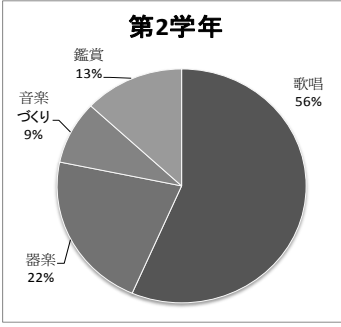
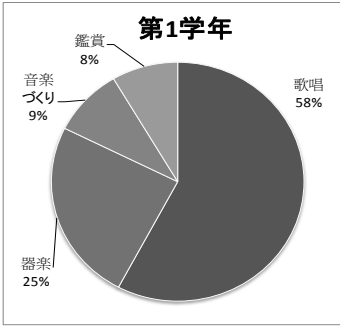
4-6 「小学生のおながく」第6学年

教育芸術社 第6学年	学習指導要領の内容														
	A 表 現										B 鑑 賞			共通事項	
	歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり		鑑賞の活動				
	ア 聴 調 ・ イ 短 調)	イ 歌 詞 の 内 容 ・ 曲 想	ウ ・ 呼 吸 ・ 発 音 の 仕 方	エ 各 声 部 の 歌 声 ・ 全 体 の 響 き	ア 聴 奏 ・ イ 短 調)	イ 曲 想	ウ 楽 器 の 特 徴	エ 各 声 部 の 楽 器 の 音	ア 即 興 的 に 表 現	イ 音 を 音 楽 に 構 成	ア 曲 想 と そ の 変 化 な ど の 特 徴	イ 楽 曲 の 構 造	ウ 楽 曲 の 特 徴 や 演 奏 の よ さ		
教材名・歌曲															
学年の歌：つばさをください		●													○
◎楽譜を読もう															
明日という大空		●													●
こころのうた(共通教材)おぼろ月夜		●													●
◎いろいろなひびきを味わおう															
星空はいつも		●				●									●
ラバーズ コンチェルト						●									●
リズム伴奏づくり						●			●						●
歓 喜												●			●
こころのうた(共通教材)われは海の子		●													●
◎和音の美しさを味わおう															
こげよ マイケル		●				●									●
燃え上がれ！		●				●									●
星の世界		●													●
野ばら												●			●
コラール												●			●
こころのうた(共通教材)ふるさと		●													●
◎曲想を味わおう															
広い空の下で		●													●
木 星							○					●			●
風を切って		○					●								●
◎詩と音楽を味わおう															
箱根八里		○										●			●
花		○										●			●
思い出のメロディー		●													●
こころのうた(共通教材)越天楽今様		●					●								●
雅楽「越天楽」から												●			●
◎世界の音楽に親しもう															
世界の国々の音楽(楽器)												●			●
アンデスの祭り		●					●								●
リズムアンサンブル							●		●						●
◎音楽の楽しさを味わおう															
さよなら友よ		●													●
メヌエット							●								●
◎物語と音楽															
銀河鉄道の歌		●													○
音楽づくり							●		●						○
◎鑑賞する楽しみ															
シバの女王の入城												●			○
騎士たちのおどり												●			○
◎音楽のしくみ															
音楽のしくみ		○					○								●
旋律づくり		○					○		●						●
◎みんなで たのしく															
浜千鳥		●													○
あおげばとうとし		●													○
街は光の中に		●													○
風にのせて		●													○
すてきな自分と出会う道		●													○
さようなら		●													○
歌よ ありがとう		●													○
にじを歌って		●													○
この星に生まれて		●													○
旅立ちの日に		●													○
愛のテーマ							●								○
コンドルは飛んで行く							●								○
〔国歌〕君が代		●													○
◎鑑賞資料															
日本の楽器							●					●			
オーケストラの主な楽器							●					●			

4-7 教育芸術社教科書各学年において音楽の学習内容の割合

●…主となる内容 ○…関連する内容

		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
歌唱	●	41	41	38	39	25	26	25	26.5	23	27	26	28.5
	○	0		2		2		3		8		5	
器楽	●	17	17.5	15	15	22	24	17	19.5	14	15	15	16.5
	○	1		0		4		5		2		3	
音楽づくり	●	5	6.5	6	6	5	6	8	8	4	4	4	4
	○	3		0		2		0		0		0	
鑑賞	●	6	6	9	9	11	11.5	13	13	11	11.5	12	12
	○	0		0		1		0		1		0	



付録5 教育出版教科書において音楽の学習内容の分析図表

5-1 「音楽のおくりもの」第1学年

教育出版 第1学年		学習指導要領の内容																		
		A 表 現								B 鑑 賞				共通事項						
		歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり		鑑賞の活動								
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ			ウ	ア	イ		
●…主となる内容 ○…関連する内容		範 唱 ・ 模 唱 ・ 暗 唱 す る こ と	歌 唱 の 表 現 を 工 夫 す る こ と	音 楽 を 感 じ 取 つ て す る こ と	楽 曲 に 合 つ た 表 現 を す る こ と	声 を 合 わ せ て 歌 う こ と	聴 奏 ・ 視 奏 す る こ と	器 楽 の 表 現 を 工 夫 す る こ と	音 楽 を 感 じ 取 つ て す る こ と	楽 曲 に 合 つ た 表 現 を す る こ と	音 を 合 わ せ て 演 奏 す る こ と	音 の 様 々 な 特 徴 に 気 づ く こ と	音 を 音 楽 へ と 構 成 す る こ と	楽 曲 を 全 体 に わ た り 感 じ 取 る こ と	楽 曲 の 構 造 を 理 解 し て 聴 く こ と	楽 曲 の 特 徴 や 演 奏 の よ さ を 理 解 す る こ と	楽 曲 の 仕 組 み	音 楽 を 特 徴 付 け て い る 要 素 ・ 音 楽 の	音 符 ・ 休 符 、 記 号 や 用 語	
教材名・歌曲																				
さんぽ			●																	
どんなうたがあるかな			●																	
かもつれっしや			●																	
サンダーバード																				
どうけしのギャロップ																				
ピンク・パンサーのテーマ																	●			
なみをこえて																				
ぞう																				
共通教材:かたつむり				●																
共通教材:ひらいたひらいた				●																
なべ なべ				●																
わらべうた																	●			
おちゃらか				●																
◎わくわくリズム																				
たんとうんであそうぼう																	●			
つくったリズムをがっきて うってみよう									●											
ぶん ぶん ぶん				●																●
しろくまの ジェンカ				●																●
ジェンカ																	●			●
ボン ボン ポップコーン				●																●
共通教材:うみ				●																
◎どれみとなかよし																				
どれみのうた																	○			●
どれみのキャンディー				●																●
共通教材:ひのまる				●																●
◎こんにちはけんぼんハーモニカ																				
まほうのど									●											●
あのね									●			○								●
どんぐり ぐり ぐり									●			○								●
◎いいおどみつけて																				
おもちゃの シンフォニー																	●			
がっきを つくって みよう												●								○
おとの マーチ				●					●			○								●
◎ようすをおんがくで																				
おどる こねこ																	●			○
すずめが ちゅん				●					●			○								○
おもちゃの チャチャチャ				●					●											○
おもちゃの へいたい																	●			●
◎みんなのおんがくパーティー																				
フルーツ ケーキ				●					○											●
アイアイ				●																●
◎おどのスケッチ																				
ほしの おんがくを つくろう												●								●
きらきらぼし				●					●											●
◎おんがくランド																				
おおきな かぶ				●								●								
わはは たいそう				●																
どんな ゆめ				●																
もりの くまさん				●																
こぶたぬきつねこ				●																
まねっこ うた				●								●								
おんがくの おくりもの				●																
きみがよ				●																
◎こんにちはハーモニカ																				
◎おんがくのもと																				
◎いい おど いろいろ																				
◎きせつのうた																				
たなばたさま				●																
たきび				●																
おしょうがつ				●																
うれしい ひなまつり				●																

5-2 「音楽のおくりもの」第2学年

教育出版 第2学年		学習指導要領の内容														
		A 表 現									B 鑑 賞			共通事項		
		歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり	鑑賞の活動					
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ
教材名・歌曲		範唱・模唱・暗唱すること	音楽の表現を感じ取つて歌（こ）つること	楽曲に合った表現をすること	声を合わせて歌うこと	聴奏・視奏すること	音楽の表現を感じ取つて器楽の表現を工夫すること	楽曲に合った表現をすること	音を合わせて演奏すること	音の様々な特徴に気づくこと	音を音楽へと構成すること	楽曲を全体にわたって感じ取ること	楽曲の構造を理解して聴くこと	楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること	音楽を特徴付けている要素・音楽の仕組み	音符、休符、記号や用語
◎よびかけっこでなかよし																
ジェットコースター			●													
トランペットふきの 休日													●			
「ディベルティメント」から													●			
小さな はたけ			●													
◎ことばでリズム																
どうぶつのうた													●			
こいぬの ビンゴ			●													●
どうぶつラップで あそぼう											○					●
ぴよぴよ ロックンロール			●													○
音の 長さ くらべ																●
おまつり ワッショイ			●								○					●
◎楽しくドレミ																
ドレミの 楽きで あそぼう							●				○					●
かえるの がっしょう			●				●									○
◎めざせ楽き名人																
かつこう							●									●
チューリップ							●									●
◎音のスケッチ																
どんな音がきこえるかな											●					○
共通教材：虫の声			●													
虫の声を つくろう							●				●					○
◎いい音見つけて																
ゆかいな 時計													●			
森の たんけんたい			●				●									○
共通教材：夕やけ こやけ			●													
◎お祭りの音楽																
村まつり			●													○
日本の たいこ													●			
おまつりの 音楽を つくろう																●
ジングルベル			●													
クリスマス ソング メドレー													●			
◎ようすを音楽で																
そりすべり													●			○
こぎつね			●				●									○
汽車は 走る			●				●									○
しゅっぱつ													●			○
◎みんなの音楽パーティー																
ウンパッパ			●													●
ティニックリング													●			○
チャチャ マンボ			●				●									●
マンボ ナンバー ファイブ													●			○
共通教材：春が きた			●													
◎おどのスケッチ																
ウィーンの 音楽時計													●			○
おしゃべり 音楽時計			●				●									●
◎おながくランド																
あの 青い 空のように			●													
ラララ 歌おう			●													
夏だ！			●													
やおやの おみせ			●													
ねこだって サッカー			●													
ツッピン とびうお			●													
モーニング・チャチャチャ			●													
音楽の おくりもの			●													
さんぽ			●				●									
きみがよ			●													
◎「音楽の もと」まとめ																●
◎いい おど いろいろ							○						●			

5-3 「音楽のおくりもの」第3学年

教育出版 第3学年		学習指導要領の内容															
		A 表 現								B 鑑 賞				共通事項			
		歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり		鑑賞の活動					
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ			ウ	ア
●…主となる内容 ○…関連する内容		範唱・暗唱すること	音楽を感じ取って歌唱の表現を工夫すること	楽曲に合った表現をする	声を合わせて歌うこと	聴奏・視奏すること	音楽を感じ取って器楽の表現を工夫すること	楽曲に合った表現をする	音を合わせて演奏すること	音楽づくりのための発想をもち即興的に表現すること	音を音楽へと構成すること	楽曲を全体にわたって感じ取る	楽曲の構造を理解して聴くこと	楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること	音楽を特徴付けている要素・音楽の仕組み	音符、休符、記号や用語	
教材名・歌曲																	
小さな世界		●														●	
共通教材:春の小川		●														○	
◎ひびけ歌声																	
この山光る		●														●	
キラキラおひさま		●								●						○	
楽ふのお話																●	
ドレミの歌		●														○	
共通教材:茶つみ		●															
◎こんにちは リコーダー																	
リコーダーは歌う												●					
さあ、ふいてみよう!										●							
シシシでおはなシ										●							
にじ色の風船										●							
なべ なべ										●		●					
ゆかいなまきば		●								●							
◎リズムにのって																	
まほうのチャチャチャ		●								●						●	
まほうのチャチャチャ (鑑賞)												●				●	
共通教材:うさぎ		●															
◎めざせ楽き名人																	
かえり道										●						○	
レッツゴー ソーラー										●							
◎せんりつと音色																	
森の子もり歌		●								●						●	
ユモレスク												●				●	
中国のたいこ												●				●	
白鳥												●				●	
共通教材:ふじ山		●															
◎歌で世界の旅																	
アジアの子どもの歌												●				○	
大門遊び		●														○	
雪のおどり		●														○	
レロンレロンシンタ		●														○	
◎おどのスケッチ																	
アフリカの音楽で遊ぼう										●						●	
マンガニ、雨とおどろう		●														○	
◎えんそうのツボ																	
せいじゃの行進		●								●						●	
せいじゃの行進(鑑賞)												●					
◎音楽のききどころ																	
組曲「アルルの女」から												●				●	
◎めざせ楽き名人																	
あくびのうた		○								●						○	
冬さん、さようなら										●						●	
◎みんなの音楽パーティー																	
パフ		●								●						●	
◎おどのスケッチ																	
森のイメージから音楽をつくろう										●		●		○		●	
森の水車														●			
◎物語の音楽を楽しもう																	
ピーターとおおかみ												●					
◎おんがくランド																	
歌はすばらしい		●															
森のささやき										●							
えんやら ももの木		●								●							
ミッキー・マウス マーチ										●							
もしもコックさんだったなら		●															
音楽のおくりもの		●															
さんぽ		●								●							
君が代		●															
◎「音楽のもと」まとめ																●	
◎いろいろなかん楽き										○							
◎こころのうた																	
あの町 この町		●															
七つの子		●															
まっかな秋		●															

5-4 「音楽のおくりもの」 第4学年

教育出版 第4学年

●…主となる内容

○…関連する内容

5-5 「音楽のおくりもの」第5学年

教育出版 第5学年		学習指導要領の内容															
		A 表 現								B 鑑 賞				共通事項			
		歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり							
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ	
●…主となる内容 ○…関連する内容		範唱・暗唱すること	音楽を感じ取って歌うこと	楽曲に合った表現をすること	声を合わせて歌うこと	聴奏・視奏すること	音楽を感じ取って器楽の表現を工夫すること	楽曲に合った表現をすること	音を合わせて演奏すること	音楽づくりのための発想をもち即興的に表現すること	音を音楽へと構成すること	楽曲を全体にわたり感じ取ること	楽曲の構造を理解して聴くこと	楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること	音楽を特徴付けている要素・音楽の仕組み	音符、休符、記号や用語	
教材名・歌曲																	
心から心へ		●															
共通教材:こいのぼり		●															
◎音の重なりとひびき																	
茶色の小びん		●								●				●			
こきょうの人々		●								●				●			
歌をとどけよう		●												○			
花のおくりもの		●												○			
◎アンサンブルのみりよく																	
いろいろな合唱														○			
ハロー・シャイニングブルー		●												○			
組曲「カレリア」から「行進曲風」に														●			
星笛						●								●			
◎言葉と音楽																	
星とたんぼぼ														○			
赤とんぼ		●												●			
山田耕筰の歌曲														●			
◎おどのスケッチ																	
言葉のイメージから音楽をつくろう										●				●			
◎日本の楽器をたずねて しるのみのりよく																	
長唄「越後獅子」から														●			
「かりかり わたれ」から						●											
共通教材:子もり歌		●												●			
◎音楽の旅																	
谷茶前		●								○				●			
日本の民ようと子もり歌														●			
はやしことばメドレー		●												●			
世界の音楽														●			
◎豊かな表現を求める																	
風とケーナのロマンス		●								●				●			
共通教材:冬げしき		●												○			
共通教材:スキーの歌		●												●			
◎音楽のききどころ																	
ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章														●			
◎心を合わせて																	
ルパン三世のテーマ						●								○			
君をのせて		●															
◎おどのスケッチ																	
インターロッキングの音楽にチャレン										●				●			
インターロッキングの音楽														●			
ケチャのリズム		●												●			
レッツゴー パーティー						●								○			
◎オーケストラと合唱のひびきを楽しもう																	
歌げき「イーゴリ公」から だったん人のおどりと合唱														●			
風のつばさ		●															
◎おながくランド																	
グッバイまた明日ね		●															
ゆき		●															
ほたるの光		●															
笑顔でいよう		●															
こげよマイケル		●															
雪の窓辺で		●															
ゴジラ						●											
白い雲		●															
音楽のおくりもの		●				●											
さんぽ		●				●											
君が代		●															
◎「音楽の もと」まとめ																	
◎すてきなひびきー アンサンブル														●			
◎情景のうた																	
びわ湖周航の歌		●															
待ちぼうけ		●															
ちいさい秋みつけた		●															

5-6 「音楽のおくりもの」第6学年

教育出版 第6学年	学習指導要領の内容														
	A 表 現								B 鑑 賞					共通事項	
	歌唱の活動				器楽の活動				音楽づくり		鑑賞の活動			共通事項	
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ
教材名・歌曲	範唱・暗唱すること	音楽を感じ取って歌の表現を工夫すること	楽曲に合った表現をすること	声を合わせて歌うこと	聴奏・視奏すること	音楽を感じ取って器楽の表現を工夫すること	楽曲に合った表現をすること	音を合わせて演奏すること	音楽づくりのための発想をもち即興的に表現すること	音を音楽へと構成すること	楽曲を全体にわたって感じ取ること	楽曲の構造を理解して聴くこと	楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること	音楽を特徴付けている要素・音楽の仕組み	音符、休符、記号や用語
つばさをください		●													
共通教材:おぼろ月夜		●													
◎音の重なりとひびき															
マルセリーノの歌		○				●								●	
ハンガリー舞曲 第5 番											●			●	
ロック マイ ソウル		●												●	
カノン						●								●	
カノン(鑑賞)											●			●	
◎演奏のみりよく															
交響曲第5 番「運命」第1楽章から											●			●	
語りあおう		●				○								●	
共通教材:われは海の子		●													
◎物語と音楽															
交響組曲「シェエラザード」から第1楽章「海とシンドバットの船」											●			●	
◎おどのスケッチ															
海のイメージから音楽をつくろう									●					●	
◎豊かな表現を求める															
明日を信じて		●												●	
ス ワンダフル						●								●	
◎伝えよう日本の音楽															
共通教材:越天楽今様		○				●								○	
日本の楽器をたずねてことと尺八物語														●	
春の海											●			●	
「さくらさくら」から						●									
◎音楽に思いをこめて															
交響曲第9 番「新世界より」第4楽章											●			●	
家路						●								○	
共通教材:ふるさと		●												○	
さようなら		●												○	
別れの曲											●			●	
◎おどのスケッチ															
じゅんかんコードから音楽をつくろう									●					●	
◎ジャズとクラシック音楽の出会い															
ラブソフィー イン ブルー											●			●	
◎おんがくランド															
カントリー ロード		●				●									
チム チム チェリー		●				●									
夏のメロディー		●													
あおげばとうとし		●													
U&I		●													
海よ、ふるさと		●													
未来への賛歌		●													
すてきな友達		●													
宝島		●													
ポ アタラウ		●													
世界の約束						●									
八木節						●									
野にさく花のように		●													
音楽のおくりもの		●				●									
さんぽ		●				●									
君が代		●													
◎「音楽の もと」まとめ														●	
◎日本の伝統芸能											●				
◎滝廉太郎のうた															
荒城の月		●													
箱根八里		●													

5-7 教育出版教科書各学年において音楽の学習内容の割合

●…主となる内容 ○…関連する内容

		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
歌唱	●	31	31	32	32	26	26.5	28	29	30	30	24	25
	○	0		0		1		2		0		2	
器楽	●	9	10	11	11.5	19	29.5	12	12	10	10.5	12	12.5
	○	2		1		1		0		1		1	
音楽づくり	●	4	6	2	3.5	3	3.5	3	3	3	3	2	2
	○	4		3		1		0		0		0	
鑑賞	●	8	8.5	12	12	11	11.5	13	13	11	11	9	9
	○	1		0		1		0		0		0	

